

講義コード	511100501						
講義名	英語I ABC						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科(短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	木曜日						
代表時限	4時限						
科目分類名	教養科目						
科目分野名	A群						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	選択必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>横塚 孝子</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	横塚 孝子	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	横塚 孝子	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス(例 Cloud Computing など)を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方
- 3) 復習の仕方
- 4) レポートの書き方と提出について
- 5) 座席の決定
- 6) 自己紹介と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 1 Fringe Science (p.7～p.12)
・境界科学について学ぶ

第3回：Unit 2 Indie Films (p.13～p.18)
・インディーズ映画を理解する

第4回：Unit 3 Nuclear Power (p.19～p.24)

・原子力発電について学ぶ

第5回：Unit 1 ～ Unit 3 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 4 Growing Your Own Food (p.25～p.30)

- ・自給自足の暮らしを考えてみる

第7回：Unit 5 The World Cup (p.31～p.36)

- ・サッカーのワールドカップの理解を深める

第8回：Unit 6 Cloud Computing (p.37～p.42)

- ・クラウド・コンピューティングの概念を知る

第9回：Unit 4 ～ Unit 6 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 7 Centenarians (p.43～p.48)

- ・超長寿社会について考える

第11回：Unit 8 Mardi Gras (p.49～p.54)

- ・マルディグラのお祭りを知る

第12回：Unit 9 Public Art (p.55～p.60)

- ・パブリックアートの概念を知る

第13回：Unit 10 Medical Tourism (p.61～p.66)

- ・医療ツーリズムを理解する

第14回：Unit 7 ～ Unit 10 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 1 ～ Unit 10 の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	511100502							
講義名	英語I ABC							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	木曜日							
代表時限	4時限							
科目分類名	教養科目							
科目分野名	A群							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	選択必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>上野 文江</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	上野 文江	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	上野 文江	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス（例 Cloud Computing など）を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方
- 3) 復習の仕方
- 4) レポートの書き方と提出について
- 5) 座席の決定
- 6) 自己紹介と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 1 Fringe Science (p.7～p.12)
・境界科学について学ぶ

第3回：Unit 2 Indie Films (p.13～p.18)
・インディーズ映画を理解する

第4回：Unit 3 Nuclear Power (p.19～p.24)

・原子力発電について学ぶ

第5回：Unit 1 ～ Unit 3 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 4 Growing Your Own Food (p.25～p.30)

- ・自給自足の暮らしを考えてみる

第7回：Unit 5 The World Cup (p.31～p.36)

- ・サッカーのワールドカップの理解を深める

第8回：Unit 6 Cloud Computing (p.37～p.42)

- ・クラウド・コンピューティングの概念を知る

第9回：Unit 4 ～ Unit 6 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 7 Centenarians (p.43～p.48)

- ・超長寿社会について考える

第11回：Unit 8 Mardi Gras (p.49～p.54)

- ・マルディグラのお祭りを知る

第12回：Unit 9 Public Art (p.55～p.60)

- ・パブリックアートの概念を知る

第13回：Unit 10 Medical Tourism (p.61～p.66)

- ・医療ツーリズムを理解する

第14回：Unit 7 ～ Unit 10 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 1 ～ Unit 10 の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

・原子力発電について学ぶ

第5回：Unit 1～Unit 3の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 4 Growing Your Own Food (p.25～p.30)

- ・自給自足の暮らしを考えてみる

第7回：Unit 5 The World Cup (p.31～p.36)

- ・サッカーのワールドカップの理解を深める

第8回：Unit 6 Cloud Computing (p.37～p.42)

- ・クラウド・コンピューティングの概念を知る

第9回：Unit 4～Unit 6の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 7 Centenarians (p.43～p.48)

- ・超長寿社会について考える

第11回：Unit 8 Mardi Gras (p.49～p.54)

- ・マルディグラのお祭りを知る

第12回：Unit 9 Public Art (p.55～p.60)

- ・パブリックアートの概念を知る

第13回：Unit 10 Medical Tourism (p.61～p.66)

- ・医療ツーリズムを理解する

第14回：Unit 7～Unit 10の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 1～Unit 10の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	511100503	
講義名	英語I DEF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科(短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	A群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	横塚 孝子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス(例 Cloud Computing など)を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方
- 3) 復習の仕方
- 4) レポートの書き方と提出について
- 5) 座席の決定
- 6) 自己紹介と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 1 Fringe Science (p.7～p.12)
・境界科学について学ぶ

第3回：Unit 2 Indie Films (p.13～p.18)
・インディーズ映画を理解する

第4回：Unit 3 Nuclear Power (p.19～p.24)

講義コード	511100504	
講義名	英語I DEF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	A群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	上野 文江	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス（例 Cloud Computing など）を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方
- 3) 復習の仕方
- 4) レポートの書き方と提出について
- 5) 座席の決定
- 6) 自己紹介と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 1 Fringe Science (p.7～p.12)
・境界科学について学ぶ

第3回：Unit 2 Indie Films (p.13～p.18)
・インディーズ映画を理解する

第4回：Unit 3 Nuclear Power (p.19～p.24)

・原子力発電について学ぶ

第5回：Unit 1 ～ Unit 3 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 4 Growing Your Own Food (p.25～p.30)

- ・自給自足の暮らしを考えてみる

第7回：Unit 5 The World Cup (p.31～p.36)

- ・サッカーのワールドカップの理解を深める

第8回：Unit 6 Cloud Computing (p.37～p.42)

- ・クラウド・コンピューティングの概念を知る

第9回：Unit 4 ～ Unit 6 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 7 Centenarians (p.43～p.48)

- ・超長寿社会について考える

第11回：Unit 8 Mardi Gras (p.49～p.54)

- ・マルディグラのお祭りを知る

第12回：Unit 9 Public Art (p.55～p.60)

- ・パブリックアートの概念を知る

第13回：Unit 10 Medical Tourism (p.61～p.66)

- ・医療ツーリズムを理解する

第14回：Unit 7 ～ Unit 10 の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 1 ～ Unit 10 の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	511100601							
講義名	英語II ABC							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	木曜日							
代表時限	3時限							
科目分類名	教養科目							
科目分野名	A群							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	選択必修							
担当教員								
<table border="1" style="width:100%"> <tr> <td style="width:30%">職種</td> <td style="width:40%">氏名</td> <td style="width:30%">所属</td> </tr> <tr> <td>指定なし</td> <td>横塚 孝子</td> <td>指定なし</td> </tr> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	横塚 孝子	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	横塚 孝子	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス（例 How safe are cell phones? など）を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方（前期の反省を踏まえて）
- 3) 復習の仕方（前期の反省を踏まえて）
- 4) レポートの書き方と提出について（前期の反省を踏まえて）
- 5) 座席の決定
- 6) 前期の反省と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 11 How safe are cell phones? (p.67～p.72)

- ・携帯電話の安全性について考える

第3回：Unit 12 Kickstarter (p.73～p.78)

- ・キックスターター・ドット・コムは何であるかを知る

第4回：Unit 13 Jerusalem (p.79～p.84)

- ・聖地エルサレムについて学ぶ

第5回：Unit 11～Unit 13の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 14 The Serengeti (p.85～p.90)

- ・野生動物の宝庫セレンゲティを知る

第7回：Unit 15 Fair Trade (p.91～p.96)

- ・貧困国の貿易拡大を考える

第8回：Unit 16 Mobile Apps (p.97～p.102)

- ・モバイル・アプリについて考える

第9回：Unit 14～Unit 16の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 17 The Rich/Poor Gap (p.103～p.108)

- ・貧富の格差について考える

第11回：Unit 18 World Fairs (p.109～p.114)

- ・万国博覧会の発展ぶりを知る

第12回：Unit 19 Fast Food (p.115～p.120)

- ・ファーストフードと健康問題の関連性を考える

第13回：Unit 20 The New Space Age (p.121～p.126)

- ・民間企業の宇宙産業進出と活動ぶりを知る

第14回：Unit 17～Unit 20の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 11～Unit 20の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	511100602							
講義名	英語II ABC							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	木曜日							
代表時限	3時限							
科目分類名	教養科目							
科目分野名	A群							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	選択必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>上野 文江</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	上野 文江	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	上野 文江	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス（例 How safe are cell phones? など）を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方（前期の反省を踏まえて）
- 3) 復習の仕方（前期の反省を踏まえて）
- 4) レポートの書き方と提出について（前期の反省を踏まえて）
- 5) 座席の決定
- 6) 前期の反省と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 11 How safe are cell phones? (p.67～p.72)

- ・携帯電話の安全性について考える

第3回：Unit 12 Kickstarter (p.73～p.78)

- ・キックスターター・ドット・コムは何であるかを知る

第4回：Unit 13 Jerusalem (p.79～p.84)

- ・聖地エルサレムについて学ぶ

第5回：Unit 11～Unit 13の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 14 The Serengeti (p.85～p.90)

- ・野生動物の宝庫セレンゲティを知る

第7回：Unit 15 Fair Trade (p.91～p.96)

- ・貧困国の貿易拡大を考える

第8回：Unit 16 Mobile Apps (p.97～p.102)

- ・モバイル・アプリについて考える

第9回：Unit 14～Unit 16の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 17 The Rich/Poor Gap (p.103～p.108)

- ・貧富の格差について考える

第11回：Unit 18 World Fairs (p.109～p.114)

- ・万国博覧会の発展ぶりを知る

第12回：Unit 19 Fast Food (p.115～p.120)

- ・ファーストフードと健康問題の関連性を考える

第13回：Unit 20 The New Space Age (p.121～p.126)

- ・民間企業の宇宙産業進出と活動ぶりを知る

第14回：Unit 17～Unit 20の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 11～Unit 20の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	511100603	
講義名	英語II DEF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	A群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	横塚 孝子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス（例 How safe are cell phones? など）を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方 (前期の反省を踏まえて)
- 3) 復習の仕方 (前期の反省を踏まえて)
- 4) レポートの書き方と提出について (前期の反省を踏まえて)
- 5) 座席の決定
- 6) 前期の反省と学びの目標について
- 7) その他

第2回：Unit 11 How safe are cell phones? (p.67～p.72)

- ・携帯電話の安全性について考える

第3回：Unit 12 Kickstarter (p.73～p.78)

- ・キックスターター・ドット・コムは何であるかを知る

第4回：Unit 13 Jerusalem (p.79～p.84)

- ・聖地エルサレムについて学ぶ

第5回：Unit 11～Unit 13の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 14 The Serengeti (p.85～p.90)

- ・野生動物の宝庫セレンゲティを知る

第7回：Unit 15 Fair Trade (p.91～p.96)

- ・貧困国の貿易拡大を考える

第8回：Unit 16 Mobile Apps (p.97～p.102)

- ・モバイル・アプリについて考える

第9回：Unit 14～Unit 16の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 17 The Rich/Poor Gap (p.103～p.108)

- ・貧富の格差について考える

第11回：Unit 18 World Fairs (p.109～p.114)

- ・万国博覧会の発展ぶりを知る

第12回：Unit 19 Fast Food (p.115～p.120)

- ・ファーストフードと健康問題の関連性を考える

第13回：Unit 20 The New Space Age (p.121～p.126)

- ・民間企業の宇宙産業進出と活動ぶりを知る

第14回：Unit 17～Unit 20の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 11～Unit 20の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	511100604	
講義名	英語II DEF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	A群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	上野 文江	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

日本社会のグローバル化とともに、世界共通語の英語の重要性がますます高まっている。本講座では、教科書の各ユニットごとに掲載されている世界の最新トピックス（例 How safe are cell phones? など）を題材に、英語を総合的に学ぶ。

到達目標については、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

将来の実社会における教養としての英語力や基礎的な会話力を身につける。

準備学習

1. 辞書を活用し、本文の内容のアウトラインを理解して授業に臨む事。
2. 付属のCDを利用し、本文の英語を聴いて授業に臨む事。
3. "Consider the Topic"を読み、各ユニットのテーマについて自分の意見をまとめて授業に臨む事。
4. 各ユニットに出題されている内容理解の問題、語法・文法の問題を解答して授業に臨む事。
5. 授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておく事。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーション

- 1) 授業の進め方
- 2) 予習の仕方 (前期の反省を踏まえて)
- 3) 復習の仕方 (前期の反省を踏まえて)
- 4) レポートの書き方と提出について (前期の反省を踏まえて)
- 5) 座席の決定
- 6) 前期の反省と学びの目標について
- 7) その他

第2回： Unit 11 How safe are cell phones? (p.67～p.72)

- ・携帯電話の安全性について考える

第3回：Unit 12 Kickstarter (p.73～p.78)

- ・キックスターター・ドット・コムは何であるかを知る

第4回：Unit 13 Jerusalem (p.79～p.84)

- ・聖地エルサレムについて学ぶ

第5回：Unit 11～Unit 13の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第6回：Unit 14 The Serengeti (p.85～p.90)

- ・野生動物の宝庫セレンゲティを知る

第7回：Unit 15 Fair Trade (p.91～p.96)

- ・貧困国の貿易拡大を考える

第8回：Unit 16 Mobile Apps (p.97～p.102)

- ・モバイル・アプリについて考える

第9回：Unit 14～Unit 16の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第10回：Unit 17 The Rich/Poor Gap (p.103～p.108)

- ・貧富の格差について考える

第11回：Unit 18 World Fairs (p.109～p.114)

- ・万国博覧会の発展ぶりを知る

第12回：Unit 19 Fast Food (p.115～p.120)

- ・ファーストフードと健康問題の関連性を考える

第13回：Unit 20 The New Space Age (p.121～p.126)

- ・民間企業の宇宙産業進出と活動ぶりを知る

第14回：Unit 17～Unit 20の復習及びレポートの作成

- ・各Unitのテーマについて再度理解する
- ・各テーマに関して自分の意見や感想を簡潔にまとめる

第15回：レポートの提出及び定期試験（筆記）対策と準備

- ・Unit 11～Unit 20の各テーマに関するレポートを提出する
- ・理解困難な箇所の Questions & Answers を行う

期末試験

授業では前半部で講義（本文読解）を行い、後半部で問題演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業への取り組み姿勢、各ユニットのテーマについての意見や感想のレポート、期末試験の成績等によって評価する。

レポートを必ず提出すること。未提出の場合は単位不認定とする。

成績評価の割合は、学習状況とレポート等30%、期末試験70%とする。

教科書

Andrew E. Bennett "Reading Pass Intro" (南雲堂)

参考書

なし。但し、必ず授業に英和辞書（電子辞書可）を携行すること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号室 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

講義コード	513123801	
講義名	社会福祉 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会福祉の意義や児童家庭福祉との関連性、社会福祉の制度や実施体系などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、①保育者観ならびに②知識・技能を重視する。

本授業で学んだ社会福祉の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・人々の暮らしと社会福祉
 - 第2回 人口減少時代と社会福祉
 - 第3回 社会福祉に関する基本的理解
 - 第4回 社会福祉における思想と理論のあゆみ
 - 第5回 日本の社会福祉のあゆみ
 - 第6回 海外の社会福祉のあゆみ
 - 第7回 現代の人びとの貧困問題と社会福祉
 - 第8回 社会福祉に関連する法と理念
 - 第9回 社会福祉の展開分野
 - 第10回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法
 - 第11回 社会福祉におけるソーシャルワークの担い手
 - 第12回 社会福祉の現代的課題 [1]
 - 第13回 社会福祉の現代的課題 [2]
 - 第14回 社会福祉における保育者の役割 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習およびボランティア体験を踏まえた演習も行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『社会福祉への招待 社会福祉入門』ミネルヴァ書房、2017年

学生へのメッセージ

社会福祉は、保育者が支援する子どもたちや保護者の人たちの生活全てにかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。また、皆さん自身の生活にも深くかかわっています。本授業をとおして、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513123802	
講義名	社会福祉 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会福祉の意義や児童家庭福祉との関連性、社会福祉の制度や実施体系などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、①保育者観ならびに②知識・技能を重視する。

本授業で学んだ社会福祉の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・人々の暮らしと社会福祉
 - 第2回 人口減少時代と社会福祉
 - 第3回 社会福祉に関する基本的理解
 - 第4回 社会福祉における思想と理論のあゆみ
 - 第5回 日本の社会福祉のあゆみ
 - 第6回 海外の社会福祉のあゆみ
 - 第7回 現代の人びとの貧困問題と社会福祉
 - 第8回 社会福祉に関連する法と理念
 - 第9回 社会福祉の展開分野
 - 第10回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法
 - 第11回 社会福祉におけるソーシャルワークの担い手
 - 第12回 社会福祉の現代的課題 [1]
 - 第13回 社会福祉の現代的課題 [2]
 - 第14回 社会福祉における保育者の役割 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習およびボランティア体験を踏まえた演習も行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『社会福祉への招待 社会福祉入門』ミネルヴァ書房、2017年

学生へのメッセージ

社会福祉は、保育者が支援する子どもたちや保護者の人たちの生活全てにかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。また、皆さん自身の生活にも深くかかわっています。本授業をとおして、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513123803	
講義名	社会福祉 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会福祉の意義や児童家庭福祉との関連性、社会福祉の制度や実施体系などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、①保育者観ならびに②知識・技能を重視する。

本授業で学んだ社会福祉の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・人々の暮らしと社会福祉
 - 第2回 人口減少時代と社会福祉
 - 第3回 社会福祉に関する基本的理解
 - 第4回 社会福祉における思想と理論のあゆみ
 - 第5回 日本の社会福祉のあゆみ
 - 第6回 海外の社会福祉のあゆみ
 - 第7回 現代の人びとの貧困問題と社会福祉
 - 第8回 社会福祉に関連する法と理念
 - 第9回 社会福祉の展開分野
 - 第10回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法
 - 第11回 社会福祉におけるソーシャルワークの担い手
 - 第12回 社会福祉の現代的課題 [1]
 - 第13回 社会福祉の現代的課題 [2]
 - 第14回 社会福祉における保育者の役割 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習およびボランティア体験を踏まえた演習も行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『社会福祉への招待 社会福祉入門』ミネルヴァ書房、2017年

学生へのメッセージ

社会福祉は、保育者が支援する子どもたちや保護者の人たちの生活全てにかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。また、皆さん自身の生活にも深くかかわっています。本授業をとおして、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513126501
講義名	情報処理I AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータリテラシーの基礎を養うことを目標とし、多くの例題をもとに幼児教育の現場で活用できる日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。また、保育者として扱うことが考えられる多くの文書やファイル類を作成・管理できる能力を身につける。到達目標については、学習成果における③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、この双方を重視する。

準備学習

授業で作成したファイルはネットワークフォルダ内に保存するので、授業内容を情報センターや図書館内グループ学習室等でじゅうぶんに復習し、次回授業予定（各回授業の終了時に予告）の確認（予習）をして授業に臨むこと。授業中に課される課題を時間内に終わらなかつた場合には、空き時間等を使ってやっておくこと。

授業で作成したファイルをUSBメモリ等に保存しておくことで学外（自宅等）での作業も可能。

授業の概要及び授業計画

情報処理Iでは、リテラシーの基礎力と文書作成能力を養う。

第1回：ガイダンス 学内ネットワークへのログイン・ログオフ パソコン室を使うための個人基本設定

第2回：Windowsの基礎 基本操作と日本語入力システムについて

第3回：Webmailの説明 送受信、メール転送、ファイル添付

第4回：学内情報サービス（テクミン）の説明、利用

第5回：Wordの基礎(1) いろいろな入力方法

第6回：Wordの基礎(2) ページ設定、表示モード

第7回：Wordの基礎(3) 入力オートフォーマット

第8回：Wordの基礎(4) あいさつ文の挿入

第9回：Wordの基礎(5) フォントの設定

第10回：Wordの応用(1) 段落書式

第11回：Wordの応用(2) 表の挿入とレイアウト

第12回：Wordの応用(3) ワードアート

第13回：Wordの応用(4) オートシェイプ、クリップアート

第14回：Wordの応用(5) 段落罫線・網かけ、ページ罫線

第15回：Wordの応用(6) ヘッダー・フッター、前期まとめ
定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業計画表

特記事項等

教科書の各チャプターには「例題」が用意されており、wordの機能についてわかりやすく解説されている。授業を欠席した分の課題に取り組む際に参考にする事。

また、授業中に作成したファイルは、ネットワークドライブ上に保存するが、USBメモリー等を持っている場合は、管理をしっかりと意識した上で保存し、自宅に持ち帰ることを認める。期末レポートに自宅で取り組みたい場合などに検討できます。

成績評価法

成績評価の割合は、期末レポート (80%)と授業内課題提出状況(20%)により評価をする。

教科書

『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』 実務出版

ISBN 978-4-407-34023-5

学生へのメッセージ

高校の授業においてwordを使用した経験がある学生も多いことと思います。本授業では、wordの機能活用について多くの例題をもとに学びます。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513126502	
講義名	情報処理Ⅰ CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータリテラシーの基礎を養うことを目標とし、多くの例題をもとに幼児教育の現場で活用できる日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。また、保育者として扱うことが考えられる多くの文書やファイル類を作成・管理できる能力を身につける。到達目標については、学習成果における③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、この双方を重視する。

準備学習

授業で作成したファイルはネットワークフォルダ内に保存するので、授業内容を情報センターや図書館内グループ学習室等でじゅうぶんに復習し、次回授業予定（各回授業の終了時に予告）の確認（予習）をして授業に臨むこと。授業中に課される課題を時間内に終わられなかった場合には、空き時間等を使ってやっておくこと。

授業で作成したファイルをUSBメモリ等に保存しておくことで学外（自宅等）での作業も可能。

授業の概要及び授業計画

情報処理Ⅰでは、リテラシーの基礎力と文書作成能力を養う。

第1回：ガイダンス 学内ネットワークへのログイン・ログオフ パソコン室を使うための個人基本設定

第2回：Windowsの基礎 基本操作と日本語入力システムについて

第3回：Webmailの説明 送受信、メール転送、ファイル添付

第4回：学内情報サービス（テクミン）の説明、利用

第5回：Wordの基礎(1) いろいろな入力方法

第6回：Wordの基礎(2) ページ設定、表示モード

第7回：Wordの基礎(3) 入力オートフォーマット

第8回：Wordの基礎(4) あいさつ文の挿入

第9回：Wordの基礎(5) フォントの設定

第10回：Wordの応用(1) 段落書式

第11回：Wordの応用(2) 表の挿入とレイアウト

第12回：Wordの応用(3) ワードアート

第13回：Wordの応用(4) オートシェイプ、クリップアート

第14回：Wordの応用(5) 段落罫線・網かけ、ページ罫線

第15回：Wordの応用(6) ヘッダー・フッター、前期まとめ
定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業計画表

特記事項等

教科書の各チャプターには「例題」が用意されており、wordの機能についてわかりやすく解説されている。授業を欠席した分の課題に取り組む際に参考にすること。

また、授業中に作成したファイルは、ネットワークドライブ上に保存するが、USBメモリー等を持っている場合は、管理をしっかりと意識した上で保存し、自宅に持ち帰ることを認める。期末レポートに自宅で取り組みたい場合などに検討できます。

成績評価法

成績評価の割合は、期末レポート (80%)と授業内課題提出状況(20%)により評価をする。

教科書

『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』 実務出版

ISBN 978-4-407-34023-5

学生へのメッセージ

高校の授業においてwordを使用した経験がある学生も多いことと思います。本授業では、wordの機能活用について多くの例題をもとに学びます。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513126503
講義名	情報処理I EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータリテラシーの基礎を養うことを目標とし、多くの例題をもとに幼児教育の現場で活用できる日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。また、保育者として扱うことが考えられる多くの文書やファイル類を作成・管理できる能力を身につける。到達目標については、学習成果における③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、この双方を重視する。

準備学習

授業で作成したファイルはネットワークフォルダ内に保存するので、授業内容を情報センターや図書館内グループ学習室等でじゅうぶんに復習し、次回授業予定（各回授業の終了時に予告）の確認（予習）をして授業に臨むこと。授業中に課される課題を時間内に終わられなかった場合には、空き時間等を使ってやっておくこと。

授業で作成したファイルをUSBメモリ等に保存しておくことで学外（自宅等）での作業も可能。

授業の概要及び授業計画

情報処理Iでは、リテラシーの基礎力と文書作成能力を養う。

第1回：ガイダンス 学内ネットワークへのログイン・ログオフ パソコン室を使うための個人基本設定

第2回：Windowsの基礎 基本操作と日本語入力システムについて

第3回：Webmailの説明 送受信、メール転送、ファイル添付

第4回：学内情報サービス（テクミン）の説明、利用

第5回：Wordの基礎(1) いろいろな入力方法

第6回：Wordの基礎(2) ページ設定、表示モード

第7回：Wordの基礎(3) 入力オートフォーマット

第8回：Wordの基礎(4) あいさつ文の挿入

第9回：Wordの基礎(5) フォントの設定

第10回：Wordの応用(1) 段落書式

第11回：Wordの応用(2) 表の挿入とレイアウト

第12回：Wordの応用(3) ワードアート

第13回：Wordの応用(4) オートシェイプ、クリップアート

第14回：Wordの応用(5) 段落罫線・網かけ、ページ罫線

第15回：Wordの応用(6) ヘッダー・フッター、前期まとめ
定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業計画表

特記事項等

教科書の各チャプターには「例題」が用意されており、wordの機能についてわかりやすく解説されている。授業を欠席した分の課題に取り組む際に参考にすること。

また、授業中に作成したファイルは、ネットワークドライブ上に保存するが、USBメモリー等を持っている場合は、管理をしっかりと意識した上で保存し、自宅に持ち帰ることを認める。期末レポートに自宅で取り組みたい場合などに検討できます。

成績評価法

成績評価の割合は、期末レポート (80%)と授業内課題提出状況(20%)により評価をする。

教科書

『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』 実務出版

ISBN 978-4-407-34023-5

学生へのメッセージ

高校の授業においてwordを使用した経験がある学生も多いことと思います。本授業では、wordの機能活用について多くの例題をもとに学びます。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513126601
講義名	情報処理Ⅱ AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科(短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータリテラシーの基礎を養うことを目標とし、多くの例題をもとに幼児教育の現場で活用できる日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの利用方法を学ぶ。到達目標については、学習成果における③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、この双方を重視する。

準備学習

課題は授業以外に空き時間等を使ってやっておくこと。
授業で作成したファイルをUSBメモリ等に保存しておくことで学外(自宅等)での作業も可能。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

情報処理Ⅰでは、リテラシーの基礎力と文書作成能力を養う。

情報処理Ⅱでは、表計算とプレゼンテーションソフトの利用を中心に学ぶ。

- 第1回: Excelの基礎(1) 表計算ソフトの基礎
- 第2回: Excelの基礎(2) セルのコピー、表示形式
- 第3回: Excelの基礎(3) セルのスタイル・配置、行・列の挿入と削除
- 第4回: Excelの基礎(4) 罫線で表をつくる
- 第5回: Excelの応用(1) 関数(SUM、IF、基本的な統計関数)
- 第6回: Excelの応用(2) 関数(知っておくと便利な関数)
- 第7回: Excelの応用(3) 条件付き書式
- 第8回: Excelの応用(4) 絶対参照、相対参照、クリップアート、ワードアート、図形
- 第9回: Excelの応用(5) テーブル、データベース機能
- 第10回: Excelの応用(6) グラフの作成
- 第11回: Excelの応用(7) グラフの編集
- 第12回: PowerPoint(1) プレゼンテーションソフトの基礎(スライド追加、レイアウト)
- 第13回: PowerPoint(2) 書式、テキストインポート、ワードアート、クリップアート、SmartArt
- 第14回: PowerPoint(3) グラフ、表
- 第15回: PowerPoint(4) 画面切り替え、アニメーション

定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業計画表

特記事項等

教科書の各チャプターには「例題」が用意されており、wordの機能についてわかりやすく解説されている。授業を欠席した分の課題に取り組む際に参考にする。また、授業中に作成したファイルは、ネットワークドライブ上に保存するが、USBメモリー等を持っている場合は、管理をしっかりと意識した上で保存し、自宅に持ち帰ることを認める。期末レポートに自宅で行いたい場合などに検討できます。

成績評価法

成績評価の割合は、期末レポート（80%）と授業内課題提出状況(20%)により評価をする。

教科書

『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』 実務出版
ISBN 978-4-407-34023-5

学生へのメッセージ

高校の授業において、ExcelやPowerPointについて学んだ経験を持っている人もいるでしょう。大学生の視点から表計算ソフトやプレゼンテーションソフトについて、より深く学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室
平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513126602							
講義名	情報処理Ⅱ CD							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数								
時間	30.00							
代表曜日	水曜日							
代表時限	2時限							
科目分類名	教養科目							
科目分野名	B群							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	必修							
担当教員								
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">職種</th> <th style="width: 40%;">氏名</th> <th style="width: 30%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>久野 高志</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	久野 高志	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	久野 高志	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータリテラシーの基礎を養うことを目標とし、多くの例題をもとに幼児教育の現場で活用できる日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの利用方法を学ぶ。到達目標については、学習成果における③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、この双方を重視する。

準備学習

課題は授業以外に空き時間等を使ってやっておくこと。

授業で作成したファイルをUSBメモリ等に保存しておくことで学外(自宅等)での作業も可能。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

情報処理Ⅰでは、リテラシーの基礎力と文書作成能力を養う。

情報処理Ⅱでは、表計算とプレゼンテーションソフトの利用を中心に学ぶ。

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 第1回：Excelの基礎(1) | 表計算ソフトの基礎 |
| 第2回：Excelの基礎(2) | セルのコピー、表示形式 |
| 第3回：Excelの基礎(3) | セルのスタイル・配置、行・列の挿入と削除 |
| 第4回：Excelの基礎(4) | 罫線で表をつくる |
| 第5回：Excelの応用(1) | 関数 (SUM、IF、基本的な統計関数) |
| 第6回：Excelの応用(2) | 関数 (知っておくと便利な関数) |
| 第7回：Excelの応用(3) | 条件付き書式 |
| 第8回：Excelの応用(4) | 絶対参照、相対参照、クリップアート、ワードアート、図形 |
| 第9回：Excelの応用(5) | テーブル、データベース機能 |
| 第10回：Excelの応用(6) | グラフの作成 |
| 第11回：Excelの応用(7) | グラフの編集 |
| 第12回：PowerPoint(1) | プレゼンテーションソフトの基礎 (スライド追加、レイアウト) |
| 第13回：PowerPoint(2) | 書式、テキストインポート、ワードアート、クリップアート、SmartArt |
| 第14回：PowerPoint(3) | グラフ、表 |
| 第15回：PowerPoint(4) | 画面切り替え、アニメーション |

定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業計画表

特記事項等

教科書の各チャプターには「例題」が用意されており、wordの機能についてわかりやすく解説されている。授業を欠席した分の課題に取り組む際に参考にする。また、授業中に作成したファイルは、ネットワークドライブ上に保存するが、USBメモリー等を持っている場合は、管理をしっかりと意識した上で保存し、自宅に持ち帰ることを認める。期末レポートに自宅で行いたい場合などに検討できます。

成績評価法

成績評価の割合は、期末レポート（80%）と授業内課題提出状況(20%)により評価をする。

教科書

『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』 実務出版
ISBN 978-4-407-34023-5

学生へのメッセージ

高校の授業において、ExcelやPowerPointについて学んだ経験を持っている人もいるでしょう。大学生の視点から表計算ソフトやプレゼンテーションソフトについて、より深く学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室
平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513126603						
講義名	情報処理II EF						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	後期						
講義区分							
基準単位数							
時間	30.00						
代表曜日	水曜日						
代表時限	3時限						
科目分類名	教養科目						
科目分野名	B群						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>久野 高志</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	久野 高志	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	久野 高志	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータリテラシーの基礎を養うことを目標とし、多くの例題をもとに幼児教育の現場で活用できる日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの利用方法を学ぶ。到達目標については、学習成果における③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、この双方を重視する。

準備学習

課題は授業以外に空き時間等を使ってやっておくこと。

授業で作成したファイルをUSBメモリ等に保存しておくことで学外（自宅等）での作業も可能。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

情報処理Ⅰでは、リテラシーの基礎力と文書作成能力を養う。

情報処理Ⅱでは、表計算とプレゼンテーションソフトの利用を中心に学ぶ。

- 第1回：Excelの基礎(1) 表計算ソフトの基礎
- 第2回：Excelの基礎(2) セルのコピー、表示形式
- 第3回：Excelの基礎(3) セルのスタイル・配置、行・列の挿入と削除
- 第4回：Excelの基礎(4) 罫線で表をつくる
- 第5回：Excelの応用(1) 関数 (SUM、IF、基本的な統計関数)
- 第6回：Excelの応用(2) 関数 (知っておくと便利な関数)
- 第7回：Excelの応用(3) 条件付き書式
- 第8回：Excelの応用(4) 絶対参照、相対参照、クリップアート、ワードアート、図形
- 第9回：Excelの応用(5) テーブル、データベース機能
- 第10回：Excelの応用(6) グラフの作成
- 第11回：Excelの応用(7) グラフの編集
- 第12回：PowerPoint(1) プレゼンテーションソフトの基礎 (スライド追加、レイアウト)
- 第13回：PowerPoint(2) 書式、テキストインポート、ワードアート、クリップアート、SmartArt
- 第14回：PowerPoint(3) グラフ、表
- 第15回：PowerPoint(4) 画面切り替え、アニメーション

定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業計画表

特記事項等

教科書の各チャプターには「例題」が用意されており、wordの機能についてわかりやすく解説されている。授業を欠席した分の課題に取り組む際に参考にする。また、授業中に作成したファイルは、ネットワークドライブ上に保存するが、USBメモリー等を持っている場合は、管理をしっかりと意識した上で保存し、自宅に持ち帰ることを認める。期末レポートに自宅で行いたい場合などに検討できます。

成績評価法

成績評価の割合は、期末レポート（80%）と授業内課題提出状況(20%)により評価をする。

教科書

『30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016』 実務出版
ISBN 978-4-407-34023-5

学生へのメッセージ

高校の授業において、ExcelやPowerPointについて学んだ経験を持っている人もいるでしょう。大学生の視点から表計算ソフトやプレゼンテーションソフトについて、より深く学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室
平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513130401	
講義名	生活 ABC	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

子どもたちの自然離れ、日常の基本的な生活習慣や技能の低下という現実をふまえて、小学校低学年に導入された「生活科」だが、小学校教育の中に遊びの視点が盛り込まれたのは画期的なことである。また、幼稚園や保育所での子どもたちの生活の主要な部分は遊びである。また、新教育要領では幼小連携が重要視されており、幼（保）小連携は今後さらに深まると考えられる。

小学校低学年の「生活科」には、幼稚園教育要領の領域「環境」との接点が見いだされるはずである。本講義では、幼児教育の視点から「生活科」をとらえ直してみよう。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。時に①、②、③を重視する。

準備学習

夏休み中に「環境（指導法）」を復習しておくことが望ましい。

毎回、作短日記（ミニレポート）を提出すること。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

第1回：ガイダンス 「生活科」と領域「環境」、秋を感じよう（虫の声）

第2回：実技1 ススキのミミズク

第3回：レポート（秋を見つけよう）の説明 落ち葉の説明 雑木林の説明

第4回：実技2 ドングリで遊ぶ ドングリ笛

第5回：「生活」と領域「環境」の接点

第6回：第1章 生活科の経緯

第7回：第2章 生活科の目標

第8回：第3章 生活科の内容

第9回：第4章 指導計画の作成等・第5章 生活科の学習指導

第10回：幼小連携・保小連携について

第11回：実技3 落ち葉のステンドグラス

第12回：実技4 生活科マップの作成

第13回：子どもの生活環境と子ども向けの遊びの素材さがし1

第14回：実技5 手作りおもちゃ

第15回：動物とのふれあい授業（栃木県獣医師会による特別授業）

定期試験：試験を実施する（筆記試験・実技試験（手作りおもちゃ））。

前期の「環境（指導法）」を基礎に、幼少連携を中心に、プリントを配布して「生活科」を学ぶ。また、身近な素材を使った遊びの実践をする。

授業計画表

成績評価法

定期試験（40%）、レポート（40%）、授業中の演習課題（20%）により評価する。
レポート：秋を見つけよう 課題：環境カレンダー、ススキのミミズク、落ち葉のステンドグラス、生活科マップ

教科書

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』 東洋館出版社 ¥144

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ¥1,680

『ふるさとを感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ¥1,995

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513130402	
講義名	生活 DEF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

子どもたちの自然離れ、日常の基本的な生活習慣や技能の低下という現実をふまえて、小学校低学年に導入された「生活科」だが、小学校教育の中に遊びの視点が盛り込まれたのは画期的なことである。また、幼稚園や保育所での子どもたちの生活の主要な部分は遊びである。また、新教育要領では幼小連携が重要視されており、幼（保）小連携は今後さらに深まると考えられる。

小学校低学年の「生活科」には、幼稚園教育要領の領域「環境」との接点が見いだされるはずである。本講義では、幼児教育の視点から「生活科」をとらえ直してみよう。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。時に①、②、③を重視する。

準備学習

夏休み中に「環境（指導法）」を復習しておくことが望ましい。

毎回、作短日記（ミニレポート）を提出すること。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

第1回：ガイダンス 「生活科」と領域「環境」、秋を感じよう（虫の声）

第2回：実技1 ススキのミミズク

第3回：レポート（秋を見つけよう）の説明 落ち葉の説明 雑木林の説明

第4回：実技2 ドングリで遊ぶ ドングリ笛

第5回：「生活」と領域「環境」の接点

第6回：第1章 生活科の経緯

第7回：第2章 生活科の目標

第8回：第3章 生活科の内容

第9回：第4章 指導計画の作成等・第5章 生活科の学習指導

第10回：幼小連携・保小連携について

第11回：実技3 落ち葉のステンドグラス

第12回：実技4 生活科マップの作成

第13回：子どもの生活環境と子ども向けの遊びの素材さがし1

第14回：実技5 手作りおもちゃ

第15回：動物とのふれあい授業（栃木県獣医師会による特別授業）

定期試験：試験を実施する（筆記試験・実技試験（手作りおもちゃ））。

前期の「環境（指導法）」を基礎に、幼少連携を中心に、プリントを配布して「生活科」を学ぶ。また、身近な素材を使った遊びの実践をする。

授業計画表

成績評価法

定期試験（40%）、レポート（40%）、授業中の演習課題（20%）により評価する。
レポート：秋を見つけよう 課題：環境カレンダー、ススキのミミズク、落ち葉のステンドグラス、生活科マップ

教科書

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』 東洋館出版社 ￥144

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ￥1,680

『ふるさとを感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ￥1,995

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513134901
講義名	体育I AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

基本的な運動遊びやさまざまなダンス、体操について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。(予習課題)

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。(予習課題)

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

保育者として自ら動ける身体づくり、リズム感、体力の維持・向上に努める能力を身につける。

第1回：ガイダンス 授業の進め方について

第2回：基本的な運動遊び(1) 歩く、走る

第3回：基本的な運動遊び(2) ゲーム遊び

第4回：グループ分け、リズム体操(1) 練習(踊りを覚える)

第5回：リズム体操(2) 練習(隊形の工夫)

第6回：リズム体操(3) 発表(1～4グループ)の鑑賞および評価

第7回：リズム体操(4) 発表(5～8グループ)の鑑賞および評価

第8回：ラジオ体操第一について

第9回：ラジオ体操第二について

第10回：ラジオ体操第一テスト

第11回：ラジオ体操第二テスト

第12回：フォークダンス(1) ジェンカ、ロンドンブリッジなど

第13回：フォークダンス(2) ジングルベル、アルプス一万尺など

第14回：フォークダンス(3) マイムマイム、タタロチカなど

第15回：フォークダンス(4) キンダーポルカ、オクラホマミクサーなど

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（手遊びノート）、グループ発表、ラジオ体操テスト、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513134902
講義名	体育I CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

基本的な運動遊びやさまざまなダンス、体操について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。(予習課題)

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。(予習課題)

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

保育者として自ら動ける身体づくり、リズム感、体力の維持・向上に努める能力を身につける。

第1回：ガイダンス 授業の進め方について

第2回：基本的な運動遊び (1) 歩く、走る

第3回：基本的な運動遊び (2) ゲーム遊び

第4回：グループ分け、リズム体操 (1) 練習 (踊りを覚える)

第5回：リズム体操 (2) 練習 (隊形の工夫)

第6回：リズム体操 (3) 発表 (1～4グループ) の鑑賞および評価

第7回：リズム体操 (4) 発表 (5～8グループ) の鑑賞および評価

第8回：ラジオ体操第一について

第9回：ラジオ体操第二について

第10回：ラジオ体操第一テスト

第11回：ラジオ体操第二テスト

第12回：フォークダンス (1) ジェンカ、ロンドンブリッジなど

第13回：フォークダンス (2) ジングルベル、アルプス一万尺など

第14回：フォークダンス (3) マイムマイム、タタロチカなど

第15回：フォークダンス (4) キンダーポルカ、オクラホマミクサーなど

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（手遊びノート）、グループ発表、ラジオ体操テスト、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513134903
講義名	体育I EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

基本的な運動遊びやさまざまなダンス、体操について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。(予習課題)

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。(予習課題)

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

保育者として自ら動ける身体づくり、リズム感、体力の維持・向上に努める能力を身につける。

第1回：ガイダンス 授業の進め方について

第2回：基本的な運動遊び(1) 歩く、走る

第3回：基本的な運動遊び(2) ゲーム遊び

第4回：グループ分け、リズム体操(1) 練習(踊りを覚える)

第5回：リズム体操(2) 練習(隊形の工夫)

第6回：リズム体操(3) 発表(1～4グループ)の鑑賞および評価

第7回：リズム体操(4) 発表(5～8グループ)の鑑賞および評価

第8回：ラジオ体操第一について

第9回：ラジオ体操第二について

第10回：ラジオ体操第一テスト

第11回：ラジオ体操第二テスト

第12回：フォークダンス(1) ジェンカ、ロンドンブリッジなど

第13回：フォークダンス(2) ジングルベル、アルプス一万尺など

第14回：フォークダンス(3) マイムマイム、タタロチカなど

第15回：フォークダンス(4) キンダーポルカ、オクラホマミクサーなど

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（手遊びノート）、グループ発表、ラジオ体操テスト、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513135001	
講義名	体育II AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

大型遊具（マット、とび箱）や小型遊具（フープ、ボールなど）の特性を理解し、運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育Iを受講後に受講すること。

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための運動技能を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：小型遊具を使った運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第3回：小型遊具を使った運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第4回：小型遊具を使った運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第5回：小型遊具を使った運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第6回：運動技能テスト (フープ：回す、転がす、跳ぶ)

第7回：大型遊具を使った運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第8回：大型遊具を使った運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第9回：大型遊具を使った運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第10回：大型遊具を使った運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第11回：遊具を使わない運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第12回：遊具を使わない運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第13回：遊具を使わない運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第14回：遊具を使わない運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第15回：運動技能テスト (ボール：投げる、つく)

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（手遊びノート）、グループ発表、フープ・ボールテスト、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度後期は、月・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513135002
講義名	体育II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

大型遊具（マット、とび箱）や小型遊具（フープ、ボールなど）の特性を理解し、運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育Iを受講後に受講すること。

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための運動技能を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：小型遊具を使った運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第3回：小型遊具を使った運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第4回：小型遊具を使った運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第5回：小型遊具を使った運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第6回：運動技能テスト (フープ：回す、転がす、跳ぶ)

第7回：大型遊具を使った運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第8回：大型遊具を使った運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第9回：大型遊具を使った運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第10回：大型遊具を使った運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第11回：遊具を使わない運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第12回：遊具を使わない運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第13回：遊具を使わない運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第14回：遊具を使わない運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第15回：運動技能テスト (ボール：投げる、つく)

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（手遊びノート）、グループ発表、フープ・ボールテスト、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度後期は、月・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513135003	
講義名	体育II EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

大型遊具（マット、とび箱）や小型遊具（フープ、ボールなど）の特性を理解し、運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育Iを受講後に受講すること。

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための運動技能を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：小型遊具を使った運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第3回：小型遊具を使った運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第4回：小型遊具を使った運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第5回：小型遊具を使った運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第6回：運動技能テスト (フープ：回す、転がす、跳ぶ)

第7回：大型遊具を使った運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第8回：大型遊具を使った運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第9回：大型遊具を使った運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第10回：大型遊具を使った運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第11回：遊具を使わない運動遊び (1) 基本的な運動の実践、グループ学習

第12回：遊具を使わない運動遊び (2) 発表 (1～3グループ)

第13回：遊具を使わない運動遊び (3) 発表 (4～6グループ)

第14回：遊具を使わない運動遊び (4) 発表 (7～8グループ)、まとめ

第15回：運動技能テスト (ボール：投げる、つく)

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（手遊びノート）、グループ発表、フープ・ボールテスト、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度後期は、月・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513135101	
講義名	体育Ⅲ AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	1時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

身近な素材（新聞紙、縄）、遊具を使用しない遊び（鬼遊び、伝承遊び）の特性を理解し、子どもの発達段階や安全性を考慮した運動遊びの実践方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育I、IIを受講後に受講すること。

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

幼児期運動指針を理解し、運動遊びが指導できる運動技能および指導能力を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：幼児期運動指針について

第3回：新聞紙を使った運動遊び（1）グループ学習

第4回：新聞紙を使った運動遊び（2）発表（1～4グループ）

第5回：新聞紙を使った運動遊び（3）発表（5～8グループ）

第6回：縄を使った運動遊び（1）グループ学習

第7回：縄を使った運動遊び（2）発表（1～4グループ）

第8回：縄を使った運動遊び（3）発表（5～8グループ）

第9回：鬼遊び（1）グループ学習

第10回：鬼遊び（2）発表（1～4グループ）

第11回：鬼遊び（3）発表（5～8グループ）

第12回：伝承遊び（1）グループ学習

第13回：伝承遊び（2）発表（1～4グループ）

第14回：伝承遊び（3）発表（5～8グループ）

第15回：授業全体のまとめ（幼児期運動指針のポイント）

定期試験（筆記）

授業計画表
特記事項等
短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない） 授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。
成績評価法
期末試験の成績、提出物（体操ノート）、グループ発表、授業態度によって評価する。 成績評価の割合は、期末試験50%、提出物20%、授業中の課題20%、授業態度10%とする。 欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。
教科書
なし。必要に応じて資料を配付する。
参考書
『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院） 『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）
研究室（訪問先等）
中央研究棟 2階 223研究室 平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）

講義コード	513135102
講義名	体育III CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

身近な素材（新聞紙、縄）、遊具を使用しない遊び（鬼遊び、伝承遊び）の特性を理解し、子どもの発達段階や安全性を考慮した運動遊びの実践方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育I、IIを受講後に受講すること。

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

幼児期運動指針を理解し、運動遊びが指導できる運動技能および指導能力を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：幼児期運動指針について

第3回：新聞紙を使った運動遊び（1）グループ学習

第4回：新聞紙を使った運動遊び（2）発表（1～4グループ）

第5回：新聞紙を使った運動遊び（3）発表（5～8グループ）

第6回：縄を使った運動遊び（1）グループ学習

第7回：縄を使った運動遊び（2）発表（1～4グループ）

第8回：縄を使った運動遊び（3）発表（5～8グループ）

第9回：鬼遊び（1）グループ学習

第10回：鬼遊び（2）発表（1～4グループ）

第11回：鬼遊び（3）発表（5～8グループ）

第12回：伝承遊び（1）グループ学習

第13回：伝承遊び（2）発表（1～4グループ）

第14回：伝承遊び（3）発表（5～8グループ）

第15回：授業全体のまとめ（幼児期運動指針のポイント）

定期試験（筆記）

授業計画表
特記事項等
短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない） 授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。
成績評価法
期末試験の成績、提出物（体操ノート）、グループ発表、授業態度によって評価する。 成績評価の割合は、期末試験50%、提出物20%、授業中の課題20%、授業態度10%とする。 欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。
教科書
なし。必要に応じて資料を配付する。
参考書
『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院） 『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）
研究室（訪問先等）
中央研究棟 2階 223研究室 平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）

講義コード	513135103	
講義名	体育III EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

身近な素材（新聞紙、縄）、遊具を使用しない遊び（鬼遊び、伝承遊び）の特性を理解し、子どもの発達段階や安全性を考慮した運動遊びの実践方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育I、IIを受講後に受講すること。

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。（予習課題）

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

幼児期運動指針を理解し、運動遊びが指導できる運動技能および指導能力を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：幼児期運動指針について

第3回：新聞紙を使った運動遊び（1）グループ学習

第4回：新聞紙を使った運動遊び（2）発表（1～4グループ）

第5回：新聞紙を使った運動遊び（3）発表（5～8グループ）

第6回：縄を使った運動遊び（1）グループ学習

第7回：縄を使った運動遊び（2）発表（1～4グループ）

第8回：縄を使った運動遊び（3）発表（5～8グループ）

第9回：鬼遊び（1）グループ学習

第10回：鬼遊び（2）発表（1～4グループ）

第11回：鬼遊び（3）発表（5～8グループ）

第12回：伝承遊び（1）グループ学習

第13回：伝承遊び（2）発表（1～4グループ）

第14回：伝承遊び（3）発表（5～8グループ）

第15回：授業全体のまとめ（幼児期運動指針のポイント）

定期試験（筆記）

授業計画表
特記事項等
短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない） 授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。
成績評価法
期末試験の成績、提出物（体操ノート）、グループ発表、授業態度によって評価する。 成績評価の割合は、期末試験50%、提出物20%、授業中の課題20%、授業態度10%とする。 欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。
教科書
なし。必要に応じて資料を配付する。
参考書
『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院） 『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）
研究室（訪問先等）
中央研究棟 2階 223研究室 平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）

講義コード	513135201	
講義名	体育IV AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼児期に習得しておきたい「36の動き」や小学校体育領域の内容について、知識と技術の両面から学習する。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育I、II、IIIを受講後に受講すること。

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。(予習課題)

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。(予習課題)

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

ねらいに合わせた運動遊びを指導できる能力を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：幼児期に習得しておきたい「36の動き」について

第3回：移動系の遊び (1) グループ学習

第4回：移動系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第5回：移動系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第6回：平衡系の遊び (1) グループ学習

第7回：平衡系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第8回：平衡系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第9回：操作系の遊び (1) グループ学習

第10回：操作系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第11回：操作系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第12回：小学校体育領域について (1) 体づくりの運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び

第13回：小学校体育領域について (2) 走・跳の運動遊び、水遊び

第14回：小学校体育領域について (3) ゲーム、表現リズム遊び

第15回：授業全体のまとめ (36の動き、小学校体育領域について)

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（体操ノート）、グループ発表、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院）

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度後期は、月・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513135202
講義名	体育IV CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼児期に習得しておきたい「36の動き」や小学校体育領域の内容について、知識と技術の両面から学習する。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育I、II、IIIを受講後に受講すること。

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。(予習課題)

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。(予習課題)

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

ねらいに合わせた運動遊びを指導できる能力を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：幼児期に習得しておきたい「36の動き」について

第3回：移動系の遊び (1) グループ学習

第4回：移動系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第5回：移動系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第6回：平衡系の遊び (1) グループ学習

第7回：平衡系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第8回：平衡系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第9回：操作系の遊び (1) グループ学習

第10回：操作系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第11回：操作系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第12回：小学校体育領域について (1) 体づくりの運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び

第13回：小学校体育領域について (2) 走・跳の運動遊び、水遊び

第14回：小学校体育領域について (3) ゲーム、表現リズム遊び

第15回：授業全体のまとめ (36の動き、小学校体育領域について)

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（体操ノート）、グループ発表、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院）

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度後期は、月・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513135203
講義名	体育IV EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼児期に習得しておきたい「36の動き」や小学校体育領域の内容について、知識と技術の両面から学習する。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

体育I、II、IIIを受講後に受講すること。

授業の最初に、リズム体操を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、練習をして授業に臨むこと。(予習課題)

事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。(予習課題)

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

ねらいに合わせた運動遊びを指導できる能力を身につける。

第1回：ガイダンス グループ分け

第2回：幼児期に習得しておきたい「36の動き」について

第3回：移動系の遊び (1) グループ学習

第4回：移動系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第5回：移動系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第6回：平衡系の遊び (1) グループ学習

第7回：平衡系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第8回：平衡系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第9回：操作系の遊び (1) グループ学習

第10回：操作系の遊び (2) 発表 (1～4グループ)

第11回：操作系の遊び (3) 発表 (5～8グループ)

第12回：小学校体育領域について (1) 体づくりの運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び

第13回：小学校体育領域について (2) 走・跳の運動遊び、水遊び

第14回：小学校体育領域について (3) ゲーム、表現リズム遊び

第15回：授業全体のまとめ (36の動き、小学校体育領域について)

定期試験は実施しない

授業計画表

特記事項等

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

成績評価法

提出物（体操ノート）、グループ発表、授業態度によって評価する。

成績評価の割合は、授業中の課題40%、提出物40%、授業態度20%とする。

欠席・遅刻・早退の回数、服装や身だしなみ、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

『新版 遊びの指導』（財）幼少年教育研究所 編著（同文書院）

『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度後期は、月・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	513136501	
講義名	地域福祉活動論	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科(短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

地域福祉の概念と国内外の実際を解説した上で、子ども、障がい者、高齢者、国籍等の別なくすべてのひとが暮らしやすい地域づくりとそのための活動について学ぶ。また、最新の地域活動情報を適宜提供し、特に子どもとのかかわりにおける地域福祉活動の実際とニーズについて理解するための基礎知識を身につける。到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実践能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

日ごろの生活において「地域」「福祉活動」といったキーワードに関わる事項を意識してみること。その上で、関心を持ったテーマについては、各自で関連事項等を調査し、授業にキーワードとして提案してみよう。

授業の概要及び授業計画

講義による学習とグループワークによる実践とを組み合わせる。

第1回：地域福祉の概念

第2回：地域福祉の歴史的展開と発展(1) (戦前、戦後)

第3回：地域福祉の歴史的展開と発展(2) (地域福祉への展開)

第4回：地域福祉の歴史的展開と発展(3) (社会福祉制度改革)

第5回：ユニバーサルデザイン(1) (概要)

第6回：ユニバーサルデザイン(2) (原則、問題点と注意点)

第7回：図書館とユニバーサルデザイン

第8回：図書館の児童サービスと地域福祉(1) (意義、読書の重要性)

第9回：図書館の児童サービスと地域福祉(2) (児童サービスの具体例)

第10回：図書館の障がい者向け資料(1) (種類)

第11回：図書館の障がい者向け資料(2) (資料変換、具体例)

第12回：図書館の障がい者向け資料(3) (点字資料)

第13回：図書館の障がい者向け資料(4) (盲ろう者のコミュニケーション)

第14回：ボランティア(1) (原則、意義)

第15回：ボランティア(2) (推進策、コーディネート)

定期試験

授業計画表

成績評価法
成績評価の割合は、定期試験の得点（80％）を基本とし、授業内での質疑応答や小問題等の内容（20％）を加味して評価をする。
教科書
なし
参考書
プリント資料を配布する。
学生へのメッセージ
日常生活で使用する商品、道具、施設等において、様々なユニバーサルデザイン概念が採用されているので、気付いたことがあったら教えてください。授業で採り上げることを検討します。
研究室（訪問先等）
中央研究棟 2階 213研究室 平日は授業時間以外は研究室に在室していることが多いので気軽に質問・相談に来てください。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513137201
講義名	デザイン論
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	村松 和彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

デザインの基礎，色彩，ビジュアル・コミュニケーションの構成について学び，判断力や理解力を養う。

董卓目標については，学習成果における②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当する。

特に④を重視する。

準備学習

日頃から身の周りのデザイン，色，かたち等に関心を寄せておくこと。

事前に準備するもの

筆記用具（シャープペンシル，消しゴム，定規など）

彩色用具（色エンピツ，サインペン，マーカーなど）

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス デザインとは何か
 - 第2回 平面デザイン1 フォントとレタリング，ロゴデザイン
 - 第3回 平面デザイン2 ポスター，イラストレーション
 - 第4回 平面デザイン3 構成，色彩
 - 第5回 平面デザイン4 ファッション，テキスタイル
 - 第6回 平面デザイン5 花鳥風月
 - 第7回 立体デザイン1 ペットボトルなどの日用品
 - 第8回 立体デザイン2 時計などのプロダクトデザイン
 - 第9回 立体デザイン3 パッケージング
 - 第10回 立体デザイン4 建築，インテリア
 - 第11回 メディアデザイン1 雑誌，本の装丁
 - 第12回 メディアデザイン2 ビジュアル・コミュニケーション
 - 第13回 メディアデザイン3 ソフトウェア，ハードウェア
 - 第14回 メディアデザイン4 ゲーム
 - 第15回 まとめ リ・デザイン
- 期末試験

授業計画表
成績評価法
授業で課題に取り組む姿勢や提出物，レポートおよび実技作品により評価する。
実技作品50%，レポート50%
教科書
授業時に資料を配布する。
参考書
文部科学省 第2款 各科目 第59 デザイン技術 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320600.htm
学生へのメッセージ
現代ほどデザインが重視される時代はなく，これからもそうでしょう。 基本的な知識を得て，自らデザインをしてみることで理解を深めるようにしてください。
研究室（訪問先等）
222研究室 オープンオフィスは月曜3限目ですが，たいてい研究室にいます。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
muramatsu@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513138901	
講義名	日本国憲法 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	池村 好道	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

日本国憲法の基礎的理解に向け、取り上げられたテーマに関する重要事項を学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に④を重視する。

憲法上の基礎的な諸概念や日本国憲法の基本構造を理解する。

毎回の授業内容を復習し、疑問点については、質問票を提出すること。各回の授業冒頭に、前回の授業内容に関する質問を行う。

準備学習

予め指示された内容の予習を必ず行ったうえで、授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 憲法の意義と性格
 - 第2回 国民主権と天皇制
 - 第3回 平和主義
 - 第4回 国会の地位及び構成
 - 第5回 国会及び議院の権能
 - 第6回 内閣の地位、組織及び権限
 - 第7回 司法権の独立、裁判の民主的統制、違憲審査権
 - 第8回 地方自治
 - 第9回 基本権の観念と種類
 - 第10回 基本権の享有主体と私人間効力
 - 第11回 基本権制約の法理
 - 第12回 精神的自由権
 - 第13回 経済的自由権
 - 第14回 社会権、参政権、受益権
 - 第15回 包括的基本権、平等権
- 期末試験

授業計画表
成績評価法
期末試験による評価。 60点以上を合格とする。
教科書
使用しない。適宜プリントを配布する。憲法の条文は常に参照できるようにしておくこと。
参考書
授業を進める中で適宜示す。
研究室（訪問先等）
質問等は、出講時(月曜)に行ってください。

講義コード	513138902							
講義名	日本国憲法 CD							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	月曜日							
代表時限	2時限							
科目分類名	教養科目							
科目分野名	B群							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>池村 好道</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	池村 好道	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	池村 好道	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

日本国憲法の基礎的理解に向け、取り上げられたテーマに関する重要事項を学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に④を重視する。

憲法上の基礎的な諸概念や日本国憲法の基本構造を理解する。

毎回の授業内容を復習し、疑問点については、質問票を提出すること。各回の授業冒頭に、前回の授業内容に関する質問を行う。

準備学習

予め指示された内容の予習を必ず行ったうえで、授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 憲法の意義と性格
 - 第2回 国民主権と天皇制
 - 第3回 平和主義
 - 第4回 国会の地位及び構成
 - 第5回 国会及び議院の権能
 - 第6回 内閣の地位、組織及び権限
 - 第7回 司法権の独立、裁判の民主的統制、違憲審査権
 - 第8回 地方自治
 - 第9回 基本権の観念と種類
 - 第10回 基本権の享有主体と私人間効力
 - 第11回 基本権制約の法理
 - 第12回 精神的自由権
 - 第13回 経済的自由権
 - 第14回 社会権、参政権、受益権
 - 第15回 包括的基本権、平等権
- 期末試験

授業計画表

成績評価法

期末試験による評価。 60点以上を合格とする。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。憲法の条文は常に参照できるようにしておくこと。

参考書

授業を進める中で適宜示す。

研究室（訪問先等）

質問等は、出講時(月曜)に行ってください。

講義コード	513138903	
講義名	日本国憲法 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	池村 好道	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

日本国憲法の基礎的理解に向け、取り上げられたテーマに関する重要事項を学ぶ。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に④を重視する。

憲法上の基礎的な諸概念や日本国憲法の基本構造を理解する。

毎回の授業内容を復習し、疑問点については、質問票を提出すること。各回の授業冒頭に、前回の授業内容に関する質問を行う。

準備学習

予め指示された内容の予習を必ず行ったうえで、授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 憲法の意義と性格
 - 第2回 国民主権と天皇制
 - 第3回 平和主義
 - 第4回 国会の地位及び構成
 - 第5回 国会及び議院の権能
 - 第6回 内閣の地位、組織及び権限
 - 第7回 司法権の独立、裁判の民主的統制、違憲審査権
 - 第8回 地方自治
 - 第9回 基本権の観念と種類
 - 第10回 基本権の享有主体と私人間効力
 - 第11回 基本権制約の法理
 - 第12回 精神的自由権
 - 第13回 経済的自由権
 - 第14回 社会権、参政権、受益権
 - 第15回 包括的基本権、平等権
- 期末試験

授業計画表

成績評価法

期末試験による評価。 60点以上を合格とする。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。憲法の条文は常に参照できるようにしておくこと。

参考書

授業を進める中で適宜示す。

研究室（訪問先等）

質問等は、出講時(月曜)に行ってください。

講義コード	513142601						
講義名	美術史						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	後期						
講義区分							
基準単位数	2						
時間	30.00						
代表曜日	水曜日						
代表時限	4 時限						
科目分類名	教養科目						
科目分野名	B 群						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	選択						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>村松 和彦</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	村松 和彦	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	村松 和彦	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

西洋美術作品を鑑賞することを通して、美的感覚を豊かにし、美に対する判断力を養う。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

特に④を重視する。

準備学習

日頃から美術に関心を持ち、美術館その他に足を運ぶことが望ましい。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス, 原始の美術
 - 第2回 メソポタミアの美術, エジプトの美術
 - 第3回 エーゲ海の美術
 - 第4回 ギリシャの美術, ローマの美術
 - 第5回 初期キリスト教美術, ビザンティンの美術
 - 第6回 ロマネスクの美術, ゴシックの美術
 - 第7回 イタリアルネサンスの美術
 - 第8回 北方ルネサンスの美術
 - 第9回 バロックの美術, ロココの美術
 - 第10回 新古典主義, ロマン主義, 写実主義の美術
 - 第11回 印象主義の美術
 - 第12回 象徴主義, アールヌーボー, 世紀末美術
 - 第13回 フォービズムとキュビズム
 - 第14回 シュールレアリズム
 - 第15回 現代美術
- 期末試験

図, 写真, スライドなど利用して美術の歴史の知識を得ることで, 優れた美術作品のよさを理解する。

授業計画表

特記事項等

可能であれば近隣の美術館で実際に美術作品に触れる機会を作りたいと考えている。

成績評価法

試験と授業中の課題の結果で評価する。

教科書

授業時に資料を配布する。

参考書

「カラー版西洋美術史」高階秀璽監修 美術出版社

学生へのメッセージ

有史以前から美術は人間の営みと深く関わってきました。

授業ごとにトピックスを挙げて解説しますので、楽しく学んでいきましょう。

研究室（訪問先等）

222研究室です。オフィスアワーは月曜日の3限目ですが、たいてい研究室にいます。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

muramatsu@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513143701	
講義名	文章表現 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	調整中	
代表時限	調整中	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B群	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

文章表現の方法について学ぶ。

実習や就職試験などで実用とされる文章力と、社会人として必要な公用文を書く力を身につける。

学期前半は、主として実習で役立つ文章力や語彙力を養う。

学期後半は、主として就職活動に役立つ文章力を養う。

到達目標については、学習成果における②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

準備学習については①漢字の知識を深める②社会への関心を深める③保育の専門用語への理解を深めるの3つの視点から予習課題のプリントを毎回配付する。

プリントに記載した指示にしたがって、予習を行うこと。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。予習・復習の時間は、それぞれで約2時間とする。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス (作短2年生に必要な文章力とは)
- 第2回 実習日誌の漢字を書いてみよう① 4月・5月の保育
- 第3回 実習日誌の漢字を書いてみよう② 6月・7月の保育
- 第4回 実習日誌の漢字を書いてみよう③ 8月・9月・10月の保育
- 第5回 実習日誌の漢字を書いてみよう④ 11月・12月の保育
- 第6回 実習日誌の漢字を書いてみよう⑤ 1月・2月・3月の保育
- 第7回 確認したい保育基礎用語
- 第8回 保育の方法・形態
- 第9回 保育の計画と子どもの発達
- 第10回 子どもの遊び
- 第11回 生活と栄養
- 第12回 疾病
- 第13回 障がい児保育・気になる子ども
- 第14回 子育て支援

第15回 授業のまとめ（社会人になっても必要な文章力とは）
期末試験

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物・期末試験の成績等によって評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%。

教科書

毎回、授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配付する。

学生へのメッセージ

文章を書くのが好きという人は、まずいません。
この授業15回を通して、自然に文章力を身に付けて行くことが文章上達の近道です。
がんばって下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室
月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513143702							
講義名	文章表現 CD							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	調整中							
代表時限	調整中							
科目分類名	教養科目							
科目分野名	B群							
対象学部・年次	短期大学部・2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>西田 直樹</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	西田 直樹	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	西田 直樹	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

文章表現の方法について学ぶ。

実習や就職試験などで実用とされる文章力と、社会人として必要な公用文を書く力を身につける。

学期前半は、主として実習で役立つ文章力や語彙力を養う。

学期後半は、主として就職活動に役立つ文章力を養う。

到達目標については、学習成果における②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

準備学習については①漢字の知識を深める②社会への関心を深める③保育の専門用語への理解を深めるの3つの視点から予習課題のプリントを毎回配付する。

プリントに記載した指示にしたがって、予習を行うこと。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。予習・復習の時間は、それぞれで約2時間とする。

授業の概要及び授業計画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス (作短2年生に必要な文章力とは) |
| 第2回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう① 4月・5月の保育 |
| 第3回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう② 6月・7月の保育 |
| 第4回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう③ 8月・9月・10月の保育 |
| 第5回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう④ 11月・12月の保育 |
| 第6回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう⑤ 1月・2月・3月の保育 |
| 第7回 | 確認したい保育基礎用語 |
| 第8回 | 保育の方法・形態 |
| 第9回 | 保育の計画と子どもの発達 |
| 第10回 | 子どもの遊び |
| 第11回 | 生活と栄養 |
| 第12回 | 疾病 |
| 第13回 | 障がい児保育・気になる子ども |
| 第14回 | 子育て支援 |

第15回 授業のまとめ（社会人になっても必要な文章力とは）
期末試験

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物・期末試験の成績等によって評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%。

教科書

毎回、授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配付する。

学生へのメッセージ

文章を書くのが好きという人は、まずいません。
この授業15回を通して、自然に文章力を身に付けて行くことが文章上達の近道です。
がんばって下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室
月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513143703
講義名	文章表現 EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	調整中
代表時限	調整中
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

文章表現の方法について学ぶ。

実習や就職試験などで実用とされる文章力と、社会人として必要な公用文を書く力を身につける。

学期前半は、主として実習で役立つ文章力や語彙力を養う。

学期後半は、主として就職活動に役立つ文章力を養う。

到達目標については、学習成果における②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

準備学習については①漢字の知識を深める②社会への関心を深める③保育の専門用語への理解を深めるの3つの視点から予習課題のプリントを毎回配付する。

プリントに記載した指示にしたがって、予習を行うこと。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。予習・復習の時間は、それぞれで約2時間とする。

授業の概要及び授業計画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス (作短2年生に必要な文章力とは) |
| 第2回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう① 4月・5月の保育 |
| 第3回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう② 6月・7月の保育 |
| 第4回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう③ 8月・9月・10月の保育 |
| 第5回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう④ 11月・12月の保育 |
| 第6回 | 実習日誌の漢字を書いてみよう⑤ 1月・2月・3月の保育 |
| 第7回 | 確認したい保育基礎用語 |
| 第8回 | 保育の方法・形態 |
| 第9回 | 保育の計画と子どもの発達 |
| 第10回 | 子どもの遊び |
| 第11回 | 生活と栄養 |
| 第12回 | 疾病 |
| 第13回 | 障がい児保育・気になる子ども |
| 第14回 | 子育て支援 |

第15回 授業のまとめ（社会人になっても必要な文章力とは）
期末試験

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物・期末試験の成績等によって評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%。

教科書

毎回、授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配付する。

学生へのメッセージ

文章を書くのが好きという人は、まずいません。
この授業15回を通して、自然に文章力を身に付けて行くことが文章上達の近道です。
がんばって下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室
月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513147901	
講義名	臨床心理学 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな心の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが、また、問題に限らずとも、子どもの絵や遊びには、子どもの気持ち、知的な高さ、精神的な成熟度、社会性の発達程度、運動機能の成長度など、さまざまなことが表現されています。

本授業では、保育中の子どもの行動を、より多面的に理解できるようになるために、子どもの絵や遊びについて学びます。

また、他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では、自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、①②を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・班決め）
- 第2回 心理テスト①（TEGと交流分析）
- 第3回 人格論（フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論）
- 第4回 表現療法①（コラージュ療法・箱庭療法）
- 第5回 表現療法②（空間象徴理論）
- 第6回 心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論）
- 第7回 心理テスト②（樹木画・人物画）
- 第8回 心の発達の基礎理論②（エリクソンの発達論）
- 第9回 心理テスト③（HTP・家族画）
- 第10回 発達検査（遠城寺式・津守稲毛式）
- 第11回 自己分析
- 第12回 他者分析
- 第13回 心理テスト④（P-F・Y-G・SCT）

第14回 ストレス・コーピングと雨中人物画
第15回 まとめと発表（他者分析の結果について）
期末試験

本授業では、なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には、心理テスト、描画、ワークを通して、子どもを理解する視点について体験的に学びます。

講義の週には、これらの背景にある基礎理論について学びます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 期末レポート 70%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

学生へのメッセージ

子どもの言動、製作物、遊びなどには、ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。

心の問題、発達課題、子どもの気持ち、家族の関係などなど。

これらのことを意識し、「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう、一緒に学んでいきましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513147902	
講義名	臨床心理学 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな心の問題に出会えます。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが、また、問題に限らずとも、子どもの絵や遊びには、子どもの気持ち、知的な高さ、精神的な成熟度、社会性の発達の程度、運動機能の成長度など、さまざまなことが表現されています。

本授業では、保育中の子どもの行動を、より多面的に理解できるようになるために、子どもの絵や遊びについて学びます。

また、他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では、自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、①②を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の進め方・班決め）
第2回	心理テスト①（TEGと交流分析）
第3回	人格論（フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論）
第4回	表現療法①（コラージュ療法・箱庭療法）
第5回	表現療法②（空間象徴理論）
第6回	心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論）
第7回	心理テスト②（樹木画・人物画）
第8回	心の発達の基礎理論②（エリクソンの発達論）
第9回	心理テスト③（HTP・家族画）
第10回	発達検査（遠城寺式・津守稻毛式）
第11回	自己分析
第12回	他者分析
第13回	心理テスト④（P-F・Y-G・SCT）

第14回 ストレス・コーピングと雨中人物画
第15回 まとめと発表（他者分析の結果について）
期末試験

本授業では、なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には、心理テスト、描画、ワークを通して、子どもを理解する視点について体験的に学びます。

講義の週には、これらの背景にある基礎理論について学びます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 期末レポート 70%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

学生へのメッセージ

子どもの言動、製作物、遊びなどには、ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。

心の問題、発達課題、子どもの気持ち、家族の関係などなど。

これらのことを意識し、「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう、一緒に学んでいきましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513147903
講義名	臨床心理学 EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな心の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれません。また、問題に限らずとも、子どもの絵や遊びには、子どもの気持ち、知的な高さ、精神的な成熟度、社会性の発達程度、運動機能の成長度など、さまざまなことが表現されています。

本授業では、保育中の子どもの行動を、より多面的に理解できるようになるために、子どもの絵や遊びについて学びます。

また、他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では、自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、①②を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・班決め）
- 第2回 心理テスト①（TEGと交流分析）
- 第3回 人格論（フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論）
- 第4回 表現療法①（コラージュ療法・箱庭療法）
- 第5回 表現療法②（空間象徴理論）
- 第6回 心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論）
- 第7回 心理テスト②（樹木画・人物画）
- 第8回 心の発達の基礎理論②（エリクソンの発達論）
- 第9回 心理テスト③（HTP・家族画）
- 第10回 発達検査（遠城寺式・津守稲毛式）
- 第11回 自己分析
- 第12回 他者分析
- 第13回 心理テスト④（P-F・Y-G・SCT）

第14回 ストレス・コーピングと雨中人物画
第15回 まとめと発表（他者分析の結果について）
期末試験

本授業では、なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には、心理テスト、描画、ワークを通して、子どもを理解する視点について体験的に学びます。

講義の週には、これらの背景にある基礎理論について学びます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 期末レポート 70%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

学生へのメッセージ

子どもの言動、製作物、遊びなどには、ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。

心の問題、発達課題、子どもの気持ち、家族の関係などなど。

これらのことを意識し、「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう、一緒に学んでいきましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151501	
講義名	発達心理学 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児・児童・青年・成人・高齢期まで、人の一生を通じた発達のプロセスを概観し、各発達段階の特徴や発達を規定する諸要因を理解する。そして、生涯発達の観点を身につけ、発達支援における保育や教育、福祉の役割について考察する。本授業では特に、保育実践にかかわる発達初期の子どもの理解と心理学的知識の習得に力点を置く。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業の進度にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 発達的な見方と保育
- 第2回 発達段階と発達理論
- 第3回 発達と環境
- 第4回 胎児期・新生児期の発達
- 第5回 乳児期の発達:認知能力
- 第6回 乳児期の発達:コミュニケーション能力
- 第7回 幼児期の発達
- 第8回 愛着:形成過程
- 第9回 愛着:関連要因
- 第10回 遊び
- 第11回 ことば:発達過程
- 第12回 ことば:障害
- 第13回 児童期・青年期の発達
- 第14回 成人期以降の発達
- 第15回 発達心理学のまとめ
- 期末試験

発達初期の特徴と初期経験の重要性について重点的に触れ、段階的に、後の発達段階とのつながりや青年期以降における環境との適応的な相互作用について論じる。そして、発達援助の基

本的な考え方、生涯発達見通す姿勢についてまとめる。

授業計画表

成績評価法

定期試験50%、課題30%、授業への取り組み姿勢20%の割合で総合的に評価する。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

無藤隆他（2009年）『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房）

櫻井茂男他（2010年）『しっかり学べる発達心理学 改訂版』（福村出版）

研究室（訪問先等）

月・火・水・木が出講日です。直接研究室（中央研究棟2階226研究室）を訪ねてください。

電話番号

028-670-3686（研究室）

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151502	
講義名	発達心理学 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児・児童・青年・成人・高齢期まで、人の一生を通じた発達のプロセスを概観し、各発達段階の特徴や発達を規定する諸要因を理解する。そして、生涯発達の観点を身につけ、発達支援における保育や教育、福祉の役割について考察する。本授業では特に、保育実践にかかわる発達初期の子どもの理解と心理学的知識の習得に力点を置く。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業の進度にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 発達的な見方と保育
- 第2回 発達段階と発達理論
- 第3回 発達と環境
- 第4回 胎児期・新生児期の発達
- 第5回 乳児期の発達:認知能力
- 第6回 乳児期の発達:コミュニケーション能力
- 第7回 幼児期の発達
- 第8回 愛着:形成過程
- 第9回 愛着:関連要因
- 第10回 遊び
- 第11回 ことば:発達過程
- 第12回 ことば:障害
- 第13回 児童期・青年期の発達
- 第14回 成人期以降の発達
- 第15回 発達心理学のまとめ
- 期末試験

発達初期の特徴と初期経験の重要性について重点的に触れ、段階的に、後の発達段階とのつながりや青年期以降における環境との適応的な相互作用について論じる。そして、発達援助の基

本的な考え方、生涯発達見通す姿勢についてまとめる。

授業計画表

成績評価法

定期試験50%、課題30%、授業への取り組み姿勢20%の割合で総合的に評価する。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

無藤隆他（2009年）『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房）

櫻井茂男他（2010年）『しっかり学べる発達心理学 改訂版』（福村出版）

研究室（訪問先等）

月・火・水・木が出講日です。直接研究室（中央研究棟2階226研究室）を訪ねてください。

電話番号

028-670-3686（研究室）

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151503	
講義名	発達心理学 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児・児童・青年・成人・高齢期まで、人の一生を通じた発達のプロセスを概観し、各発達段階の特徴や発達を規定する諸要因を理解する。そして、生涯発達の観点を身につけ、発達支援における保育や教育、福祉の役割について考察する。本授業では特に、保育実践にかかわる発達初期の子どもの理解と心理学的知識の習得に力点を置く。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業の進度にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 発達的な見方と保育
- 第2回 発達段階と発達理論
- 第3回 発達と環境
- 第4回 胎児期・新生児期の発達
- 第5回 乳児期の発達:認知能力
- 第6回 乳児期の発達:コミュニケーション能力
- 第7回 幼児期の発達
- 第8回 愛着:形成過程
- 第9回 愛着:関連要因
- 第10回 遊び
- 第11回 ことば:発達過程
- 第12回 ことば:障害
- 第13回 児童期・青年期の発達
- 第14回 成人期以降の発達
- 第15回 発達心理学のまとめ
- 期末試験

発達初期の特徴と初期経験の重要性について重点的に触れ、段階的に、後の発達段階とのつながりや青年期以降における環境との適応的な相互作用について論じる。そして、発達援助の基

本的な考え方、生涯発達見通す姿勢についてまとめる。

授業計画表

成績評価法

定期試験50%、課題30%、授業への取り組み姿勢20%の割合で総合的に評価する。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

無藤隆他（2009年）『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房）

櫻井茂男他（2010年）『しっかり学べる発達心理学 改訂版』（福村出版）

研究室（訪問先等）

月・火・水・木が出講日です。直接研究室（中央研究棟2階226研究室）を訪ねてください。

電話番号

028-670-3686（研究室）

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151801	
講義名	体育講義 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	C群	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	福田 将史	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

体力水準や健康を良好な状態に保つためにも、生活習慣の予防・改善にも運動やスポーツを行うことの有効性が認められている。運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を身につけ、自分にあった健康管理の方法を学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に、①②③を重視する。

準備学習

日頃から運動・栄養・休養のバランスを意識し、特に運動と健康の維持・増進との関係についての知識を得るよう心がける。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した授業計画の予習を行うこと。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を得ることで、自分にあった健康管理の方法を探る。

第1回 準備運動と整理運動（45分）

第2回 健康の意味とQOL

第3回 運動の必要性和運動嫌いの子供の特徴

第4回 子供のスポーツと怪我

第5回 メタボリックシンドローム

第6回 食物アレルギー

第7回 女性の病気

第8回 睡眠と成長ホルモン

期末試験

授業計画表

成績評価法

提出物、期末試験、授業への取り組み姿勢などから総合的に評価する。

毎回授業の終わりに復習カードによる内容理解度確認の提出を求めるが、これも課題への取

り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

毎回の授業内容のプリント、資料を配布する。

参考書

シラバスに従って、次回の授業内容について、図書館、インターネット等で検索する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟4階 430研究室

電話番号

028-670-3780

授業用E-mail

m-fukuda@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151802	
講義名	体育講義 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科(短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	C群	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	福田 将史	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

体力水準や健康を良好な状態に保つためにも、生活習慣の予防・改善にも運動やスポーツを行うことの有効性が認められている。運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を身につけ、自分にあつた健康管理の方法を学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に、①②③を重視する。

準備学習

日頃から運動・栄養・休養のバランスを意識し、特に運動と健康の維持・増進との関係についての知識を得るよう心がける。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した授業計画の予習を行うこと。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習(予習)やテキストの下読みをして授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を得ることで、自分にあつた健康管理の方法を探る。

第1回 準備運動と整理運動(45分)

第2回 健康の意味とQOL

第3回 運動の必要性と運動嫌いの子供の特徴

第4回 子供のスポーツと怪我

第5回 メタボリックシンドローム

第6回 食物アレルギー

第7回 女性の病気

第8回 睡眠と成長ホルモン

期末試験

授業計画表

成績評価法

提出物、期末試験、授業への取り組み姿勢などから総合的に評価する。

毎回授業の終わりに復習カードによる内容理解度確認の提出を求めるが、これも課題への取

り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

毎回の授業内容のプリント、資料を配布する。

参考書

シラバスに従って、次回の授業内容について、図書館、インターネット等で検索する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟4階 430研究室

電話番号

028-670-3780

授業用E-mail

m-fukuda@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151803	
講義名	体育講義 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	C 群	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	福田 将史	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

体力水準や健康を良好な状態に保つためにも、生活習慣の予防・改善にも運動やスポーツを行うことの有効性が認められている。運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を身につけ、自分にあった健康管理の方法を学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に、①②③を重視する。

準備学習

日頃から運動・栄養・休養のバランスを意識し、特に運動と健康の維持・増進との関係についての知識を得るよう心がける。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した授業計画の予習を行うこと。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を得ることで、自分にあった健康管理の方法を探る。

第1回 準備運動と整理運動（45分）

第2回 健康の意味とQOL

第3回 運動の必要性和運動嫌いの子供の特徴

第4回 子供のスポーツと怪我

第5回 メタボリックシンドローム

第6回 食物アレルギー

第7回 女性の病気

第8回 睡眠と成長ホルモン

期末試験

授業計画表

成績評価法

提出物、期末試験、授業への取り組み姿勢などから総合的に評価する。

毎回授業の終わりに復習カードによる内容理解度確認の提出を求めるが、これも課題への取

り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

毎回の授業内容のプリント、資料を配布する。

参考書

シラバスに従って、次回の授業内容について、図書館、インターネット等で検索する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟4階 430研究室

電話番号

028-670-3780

授業用E-mail

m-fukuda@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151901
講義名	体育実技 AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	C群
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	福田 将史	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

現代社会においては、健康を維持・増進するために身体運動が不可欠である。楽しみながら身体を動かしストレスを解消するにはスポーツが最適である。体育実技では、教育的手段としてのスポーツを楽しみながら、効果的に技能を習得し、身体運動としての習慣化の基礎を作ることを学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

歩くこと、階段昇降、身体を動かすことなどを常に意識して日常生活を送ること。
 次回の運動の内容、スポーツ種目の最新のルールを各自で調べ、授業の初めに説明できるようにしておく。必ず事前に準備学習(予習)として種目のルールを理解して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス(場所、服装、遅刻、授業の進め方、評価方法などについて)
- 第2回：ストレッチングと柔軟体操
- 第3回：バスケットボール①
- 第4回：バスケットボール②
- 第5回：バスケットボール③
- 第6回：バスケットボール④
- 第7回：バドミントン①
- 第8回：バドミントン②
- 第9回：バドミントン③
- 第10回：バドミントン④
- 第11回：ソフトバレーボール
- 第12回：バレーボール①
- 第13回：バレーボール②
- 第14回：バレーボール③
- 第15回：バレーボール④
- 第16回：卓球①
- 第17回：卓球②
- 第18回：卓球③
- 第19回：卓球④

第20回：卓球⑤
第21回：サロンフットボール①
第22回：サロンフットボール②
第23回：準備運動と整理運動（45分）
期末試験

様々なスポーツを体験することで、楽しさ、ルール、マナー、チームワークの他、ストレス解消作用、健康への影響などを学習する。

授業計画表

特記事項等

※ 授業での着衣は名前の確認できるものに限る。
(短大指定のジャージ、Tシャツ、短パン、体育館シューズなど)

成績評価法

技能レベル、取組み姿勢や提出物、授業態度（服装、私語、携帯使用含）から総合的に評価する。
授業の準備、片付けに協力する姿勢も成績評価に含まれる。

毎回授業の終わりに復習カードによる内容理解度確認の提出を求めるが、これも課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

必要に応じてプリントを配布したり、板書によって授業の内容を説明しながら進めていく。

参考書

インターネットで運動の内容やスポーツの最新ルールについて検索する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟4階 430研究室

電話番号

028-670-3780

授業用E-mail

m-fukuda@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151902						
講義名	体育実技 CD						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	火曜日						
代表時限	3 時限						
科目分類名	教養科目						
科目分野名	C 群						
対象学部・年次	短期大学部・2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>福田 将史</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	福田 将史	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	福田 将史	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

現代社会においては、健康を維持・増進するために身体運動が不可欠である。楽しみながら身体を動かしストレスを解消するにはスポーツが最適である。体育実技では、教育的手段としてのスポーツを楽しみながら、効果的に技能を習得し、身体運動としての習慣化の基礎を作ることを学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

歩くこと、階段昇降、身体を動かすことなどを常に意識して日常生活を送ること。
 次回の運動の内容、スポーツ種目の最新のルールを各自で調べ、授業の初めに説明できるようにしておく。必ず事前に準備学習(予習)として種目のルールを理解して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス(場所、服装、遅刻、授業の進め方、評価方法などについて)
- 第2回：ストレッチングと柔軟体操
- 第3回：バスケットボール①
- 第4回：バスケットボール②
- 第5回：バスケットボール③
- 第6回：バスケットボール④
- 第7回：バドミントン①
- 第8回：バドミントン②
- 第9回：バドミントン③
- 第10回：バドミントン④
- 第11回：ソフトバレーボール
- 第12回：バレーボール①
- 第13回：バレーボール②
- 第14回：バレーボール③
- 第15回：バレーボール④
- 第16回：卓球①
- 第17回：卓球②
- 第18回：卓球③
- 第19回：卓球④

第20回：卓球⑤
第21回：サロンフットボール①
第22回：サロンフットボール②
第23回：準備運動と整理運動（45分）
期末試験

様々なスポーツを体験することで、楽しさ、ルール、マナー、チームワークの他、ストレス解消作用、健康への影響などを学習する。

授業計画表

特記事項等

※ 授業での着衣は名前の確認できるものに限る。
(短大指定のジャージ、Tシャツ、短パン、体育館シューズなど)

成績評価法

技能レベル、取組み姿勢や提出物、授業態度（服装、私語、携帯使用含）から総合的に評価する。
授業の準備、片付けに協力する姿勢も成績評価に含まれる。

毎回授業の終わりに復習カードによる内容理解度確認の提出を求めるが、これも課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

必要に応じてプリントを配布したり、板書によって授業の内容を説明しながら進めていく。

参考書

インターネットで運動の内容やスポーツの最新ルールについて検索する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟4階 430研究室

電話番号

028-670-3780

授業用E-mail

m-fukuda@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513151903	
講義名	体育実技 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	C群	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	福田 将史	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

現代社会においては、健康を維持・増進するために身体運動が不可欠である。楽しみながら身体を動かしストレスを解消するにはスポーツが最適である。体育実技では、教育的手段としてのスポーツを楽しみながら、効果的に技能を習得し、身体運動としての習慣化の基礎を作ることを学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

歩くこと、階段昇降、身体を動かすことなどを常に意識して日常生活を送ること。
 次回の運動の内容、スポーツ種目の最新のルールを各自で調べ、授業の初めに説明できるようにしておく。必ず事前に準備学習（予習）として種目のルールを理解して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス（場所、服装、遅刻、授業の進め方、評価方法などについて）
- 第2回：ストレッチングと柔軟体操
- 第3回：バスケットボール①
- 第4回：バスケットボール②
- 第5回：バスケットボール③
- 第6回：バスケットボール④
- 第7回：バドミントン①
- 第8回：バドミントン②
- 第9回：バドミントン③
- 第10回：バドミントン④
- 第11回：ソフトバレーボール
- 第12回：バレーボール①
- 第13回：バレーボール②
- 第14回：バレーボール③
- 第15回：バレーボール④
- 第16回：卓球①
- 第17回：卓球②
- 第18回：卓球③
- 第19回：卓球④

第20回：卓球⑤
第21回：サロンフットボール①
第22回：サロンフットボール②
第23回：準備運動と整理運動（45分）
期末試験

様々なスポーツを体験することで、楽しさ、ルール、マナー、チームワークの他、ストレス解消作用、健康への影響などを学習する。

授業計画表

特記事項等

※ 授業での着衣は名前の確認できるものに限る。
(短大指定のジャージ、Tシャツ、短パン、体育館シューズなど)

成績評価法

技能レベル、取組み姿勢や提出物、授業態度（服装、私語、携帯使用含）から総合的に評価する。
授業の準備、片付けに協力する姿勢も成績評価に含まれる。

毎回授業の終わりに復習カードによる内容理解度確認の提出を求めるが、これも課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

必要に応じてプリントを配布したり、板書によって授業の内容を説明しながら進めていく。

参考書

インターネットで運動の内容やスポーツの最新ルールについて検索する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟4階 430研究室

電話番号

028-670-3780

授業用E-mail

m-fukuda@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513152001	
講義名	ライフデザイン AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会人として自立した存在になるためには、自分の生き方に主体的に関わる姿勢が必要である。本授業では、自分と自分が歩んできた状況や社会に目を向け、自己実現を目指して両者をすり合わせる作業を通じ、キャリア形成への適応力を進めていく。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と協調性、④人間性と協調性が該当する。特に①④を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。

また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ライフデザインの必要性について
 - 第2回 生活とお金について (特別講義)
 - 第3回 健康セミナー：出産と妊娠について (特別講義)
 - 第4回 人生とライフプランについて (特別講義)
 - 第5回 労働問題について (特別授業)
 - 第6回 自分について考える① 自分の定義
 - 第7回 自分について考える② 自分の居場所
 - 第8回 自分について考える③ 自分の葛藤とバランス
 - 第9回 自己実現と働くということ① 事例検討
 - 第10回 自己実現と働くということ② グループワーク
 - 第11回 自己実現と働くということ③ グループワークまとめ
 - 第12回 キャリアについて考える① 大学生活のウソとホント
 - 第13回 キャリアについて考える② 大学生活を振り返る
 - 第14回 キャリアについて考える③ 選択と決断の自己史
 - 第15回 キャリアについて考える④ 社会人としての自分
- 期末試験

自分を捉える視点を整理し、仕事や家庭生活に関する様々なルールや規制等について情報を集めながら、ライフデザインの道筋と人生における自分の軸について考えていく。

授業計画表
成績評価法
期末試験50%、授業への取り組み姿勢・授業中の課題50%の割合で総合的に評価する。
教科書
適宜資料を配布する。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-670-3686（研究室）
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513152002	
講義名	ライフデザイン CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会人として自立した存在になるためには、自分の生き方に主体的に関わる姿勢が必要である。本授業では、自分と自分が歩んできた状況や社会に目を向け、自己実現を目指して両者をすり合わせる作業を通じ、キャリア形成への適応力を進めていく。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と協調性、④人間性と協調性が該当する。特に①④を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。

また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ライフデザインの必要性について
 - 第2回 生活とお金について (特別講義)
 - 第3回 健康セミナー：出産と妊娠について (特別講義)
 - 第4回 人生とライフプランについて (特別講義)
 - 第5回 労働問題について (特別授業)
 - 第6回 自分について考える① 自分の定義
 - 第7回 自分について考える② 自分の居場所
 - 第8回 自分について考える③ 自分の葛藤とバランス
 - 第9回 自己実現と働くということ① 事例検討
 - 第10回 自己実現と働くということ② グループワーク
 - 第11回 自己実現と働くということ③ グループワークまとめ
 - 第12回 キャリアについて考える① 大学生活のウソとホント
 - 第13回 キャリアについて考える② 大学生活を振り返る
 - 第14回 キャリアについて考える③ 選択と決断の自己史
 - 第15回 キャリアについて考える④ 社会人としての自分
- 期末試験

自分を捉える視点を整理し、仕事や家庭生活に関する様々なルールや規制等について情報を集めながら、ライフデザインの道筋と人生における自分の軸について考えていく。

授業計画表
成績評価法
期末試験50%、授業への取り組み姿勢・授業中の課題50%の割合で総合的に評価する。
教科書
適宜資料を配布する。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-670-3686（研究室）
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	513152003
講義名	ライフデザイン EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B 群
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会人として自立した存在になるためには、自分の生き方に主体的に関わる姿勢が必要である。本授業では、自分と自分が歩んできた状況や社会に目を向け、自己実現を目指して両者をすり合わせる作業を通じ、キャリア形成への適応力を進めていく。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と協調性、④人間性と協調性が該当する。特に①④を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。発表予定にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ライフデザインの必要性について
- 第2回 生活とお金について (特別講義)
- 第3回 健康セミナー：出産と妊娠について (特別講義)
- 第4回 人生とライフプランについて (特別講義)
- 第5回 労働問題について (特別授業)
- 第6回 自分について考える① 自分の定義
- 第7回 自分について考える② 自分の居場所
- 第8回 自分について考える③ 自分の葛藤とバランス
- 第9回 自己実現と働くということ① 事例検討
- 第10回 自己実現と働くということ② グループワーク
- 第11回 自己実現と働くということ③ グループワークまとめ
- 第12回 キャリアについて考える① 大学生活のウソとホント
- 第13回 キャリアについて考える② 大学生活を振り返る
- 第14回 キャリアについて考える③ 選択と決断の自己史
- 第15回 キャリアについて考える④ 社会人としての自分

期末試験

自分を捉える視点を整理し、仕事や家庭生活に関する様々なルールや規制等について情報を集めながら、ライフデザインの道筋と人生における自分の軸について考えていく。

授業計画表
成績評価法
期末試験50%、授業への取り組み姿勢・授業中の課題50%の割合で総合的に評価する。
教科書
適宜資料を配布する。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-670-3686（研究室）
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100101	
講義名	音楽I AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	井上 修	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な知識や実践力の習得を目標としている。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを学ぶ。また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識なども学ぶことで、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

楽典の予習。授業で扱った内容の確認問題を次回以降の授業で実施する。

取り上げる曲の譜読み、また歌詞の内容や、行事に関連した歌であればその行事についても調べておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス、幼児保育現場での音楽教育について／おはよう、おかえりのうた、おべんとう
 第2回 五線、音部記号、大譜表／ぶんぶんぶん、こぎつね、どんぐりころころ
 第3回 音符の種類、付点、変化記号／とんぼのめがね、すうじの歌、雨だれぽったん
 第4回 休符、小節、縦線終止線、反復記号／豆まき、ふしぎなポケット、山の音楽家
 第5回 拍子記号／たなばたさま、まつぼっくり、はたけのポルカ
 第6回 音名と階名／こおろぎ、たきび、夕焼け小焼け
 第7回 音の高さの表記、高音域&低音域の表記／こいのぼり、あくしゅでこんにちは、かたつむり
 第8回 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コードマーク／ぞうさん、お正月、おはながわらった
 第9回 音程 (1) 音程とは？／先生とおともだち、うんどうかい、虫のこえ
 第10回 音程 (2) 「長」と「短」／しゃぼん玉、とけいのうた、めだかがっこう
 第11回 音程 (3) 「完全」／大きなたいこ、ありさんのおはなし、一年生になったら
 第12回 音程 (4) 「増」と「減」／やきいもグーチーパー、わらいんぼコスモス、月
 第13回 音程 (5) 音程の相互関係／うみ、はをみがきましょう、おつかいありさん
 第14回 音程のまとめ／ハッピーバースデー・トゥーユー、アイアイ、雪のペンキ屋さん
 第15回 楽典の総まとめ／やぎさんゆうびん、雪、こぶたぬきつねこ
 期末試験 (筆記)

授業計画表
成績評価法
期末試験（6割）に加え、授業内での演習への取り組み（4割）など総合的に評価する。
教科書
山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』 共同音楽出版 山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』 共同音楽出版 音楽Ⅲのテキスト「幼児のうた100曲」「実用子供の歌曲200選」も使用する。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階229研究室 第2体育館1階音楽準備室 火、水、金が出講日です。直接、研究室もしくは音楽準備室を訪ねてください。
電話番号
028-670-3689(研究室)
授業用E-mail
inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100102	
講義名	音楽I CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	井上 修	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な知識や実践力の習得を目標としている。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを学ぶ。また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識なども学ぶことで、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

楽典の予習。授業で扱った内容の確認問題を次回以降の授業で実施する。

取り上げる曲の譜読み、また歌詞の内容や、行事に関連した歌であればその行事についても調べておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス、幼児保育現場での音楽教育について／おはよう、おかえりのうた、おべんとう
- 第2回 五線、音部記号、大譜表／ぶんぶんぶん、こぎつね、どんぐりころころ
- 第3回 音符の種類、付点、変化記号／とんぼのめがね、すうじの歌、雨だれぽったん
- 第4回 休符、小節、縦線終止線、反復記号／豆まき、ふしぎなポケット、山の音楽家
- 第5回 拍子記号／たなばたさま、まつぼっくり、はたけのポルカ
- 第6回 音名と階名／こおろぎ、たきび、夕焼け小焼け
- 第7回 音の高さの表記、高音域&低音域の表記／このぼり、あくしゅでこんにちは、かたつむり
- 第8回 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コーダマーク／ぞうさん、お正月、おはながわらった
- 第9回 音程 (1) 音程とは？／先生とおともだち、うんどうかい、虫のこえ
- 第10回 音程 (2) 「長」と「短」／しゃぼん玉、とけいのうた、めだかのがっこう
- 第11回 音程 (3) 「完全」／大きなたいこ、ありさんのおはなし、一年生になったら
- 第12回 音程 (4) 「増」と「減」／やきいもグーチーパー、わらいんぼコスモス、月
- 第13回 音程 (5) 音程の相互関係／うみ、はをみがきましょう、おつかいありさん
- 第14回 音程のまとめ／ハッピーバースデー・トゥーユー、アイアイ、雪のペンキ屋さん
- 第15回 楽典の総まとめ／やぎさんゆうびん、雪、こぶためきつねこ
- 期末試験 (筆記)

授業計画表
成績評価法
期末試験（6割）に加え、授業内での演習への取り組み（4割）など総合的に評価する。
教科書
山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』 共同音楽出版 山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』 共同音楽出版 音楽Ⅲのテキスト「幼児のうた100曲」「実用子供の歌曲200選」も使用する。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階229研究室 第2体育館1階音楽準備室 火、水、金が出講日です。直接、研究室もしくは音楽準備室を訪ねてください。
電話番号
028-670-3689(研究室)
授業用E-mail
inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100103	
講義名	音楽I EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	井上 修	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では保育の現場での音楽活動で必要とされる基礎的な知識や実践力の習得を目標としている。

童謡や季節の唱歌など、現場で子供たちに教えるために最低限必要とされるレパートリーを学ぶ。また、楽譜を読むのに必要な楽典の知識なども学ぶことで、新しいレパートリーでも楽譜からアプローチできる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

楽典の予習。授業で扱った内容の確認問題を次回以降の授業で実施する。

取り上げる曲の譜読み、また歌詞の内容や、行事に関連した歌であればその行事についても調べておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス、幼児保育現場での音楽教育について／おはよう、おかえりのうた、おべんとう
- 第2回 五線、音部記号、大譜表／ぶんぶんぶん、こぎつね、どんぐりころころ
- 第3回 音符の種類、付点、変化記号／とんぼのめがね、すうじの歌、雨だれぽったん
- 第4回 休符、小節、縦線終止線、反復記号／豆まき、ふしぎなポケット、山の音楽家
- 第5回 拍子記号／たなばたさま、まつぼっくり、はたけのポルカ
- 第6回 音名と階名／こおろぎ、たきび、夕焼け小焼け
- 第7回 音の高さの表記、高音域&低音域の表記／こいのぼり、あくしゅでこんにちは、かたつむり
- 第8回 ダ・カーポ、ダル・セーニョ、コーダマーク／ぞうさん、お正月、おはながわらった
- 第9回 音程 (1) 音程とは？／先生とおともだち、うんどうかい、虫のこえ
- 第10回 音程 (2) 「長」と「短」／しゃぼん玉、とけいのうた、めだかのがっこう
- 第11回 音程 (3) 「完全」／大きなたいこ、ありさんのおはなし、一年生になったら
- 第12回 音程 (4) 「増」と「減」／やきいもグーチーパー、わらいんぼコスモス、月
- 第13回 音程 (5) 音程の相互関係／うみ、はをみがきましょう、おつかいありさん
- 第14回 音程のまとめ／ハッピーバースデー・トゥーユー、アイアイ、雪のペンキ屋さん
- 第15回 楽典の総まとめ／やぎさんゆうびん、雪、こぶためきつね
- 期末試験 (筆記)

授業計画表
成績評価法
期末試験（6割）に加え、授業内での演習への取り組み（4割）など総合的に評価する。
教科書
山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』 共同音楽出版 山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』 共同音楽出版 音楽Ⅲのテキスト「幼児のうた100曲」「実用子供の歌曲200選」も使用する。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階229研究室 第2体育館1階音楽準備室 火、水、金が出講日です。直接、研究室もしくは音楽準備室を訪ねてください。
電話番号
028-670-3689(研究室)
授業用E-mail
inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100201	
講義名	音楽II AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科(短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	井上 修	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では、保育の現場での音楽活動に必要な基礎的能力の向上を目標とする。
音楽¹で学んだことを踏まえ、曲の理解度を深めるため歌詞の内容についても学ぶ。また、伴奏や弾き歌いにも必要になってくるコードの知識も身につける。
到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

楽典の予習。授業で扱った内容の確認問題を次回以降の授業で実施する。
新しい曲の譜読み。また歌詞の内容や、行事に関連した歌であればその行事についても調べておく。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 音楽¹の楽典の復習／おぼけなんてないさ、南の島のハメハメハ大王、思い出のアルバム
第2回 長調／おんまはみんな、そうだったらいいのにな、コンコンクシャンのうた
第3回 短調／山のワルツ、あめふりくまのこ、うれしいひな祭り
第4回 近親調(属調、下屬調)／森のくまさん、うみのそこにはあおいうち、きのこ
第5回 近親調(平行調)／おかあさん、おもちゃのチャチャチャ、バスごっこ
第6回 近親調(同主調)／きよしこの夜。ミッキー・マウス・マーチ、ゴリラのうた
第7回 三和音のコードネーム／水あそび、とんでったバナナ、ゆりかごのうた
第8回 七の和音のコードネーム／カレンダーマーチ、かわいいかくれんぼ、せかいじゅうのこどもたちが
第9回 コードネームのまとめ／シャベルでホイ、線路はつづくよどこまでも、イルカはザンフラコ
第10回 和音の基本形と転回形／赤鼻のトナカイ、ジングルベル、犬のおまわりさん
第11回 三和音の種類(ダイアトニックコード)／こいのぼり、大きな古時計、さんぽ
第12回 主要三和音、属七の和音／うみ、ともだち讃歌、ことりのうた、
第13回 和音の配置(トニック、サブドミナント、ドミナント)／まっかな秋、ホ・ホ・ホ、ドレミのうた
第14回 楽典の復習／あわてんぼうのサンタクロース、手のひらを太陽に、あまだれぼったん
第15回 楽典演習問題／北風小僧の寒太郎、ドロップスの歌、バナナのおやこ
期末試験

取り扱う曲は進度をみて増やす予定。また曲によっては内容についてリサーチし、ディスカッションを行う。

授業計画表

成績評価法

期末試験（6割）に加え、授業内での演習への取り組み（4割）など総合的に評価する。

教科書

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』 共同音楽出版

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』 共同音楽出版

音楽Ⅲのテキスト「幼児のうた100曲」「実用子供の歌曲200選」も使用する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階229研究室 第2体育館1階音楽準備室

火、水、金が出講日です。直接、研究室もしくは音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

028-670-3689(研究室)

授業用E-mail

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100202	
講義名	音楽II CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	井上 修	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では、保育の現場での音楽活動に必要な基礎的能力の向上を目標とする。
 音楽¹で学んだことを踏まえ、曲の理解度を深めるため歌詞の内容についても学ぶ。また、伴奏や弾き歌いにも必要になってくるコードの知識も身につける。
 到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

楽典の予習。授業で扱った内容の確認問題を次回以降の授業で実施する。
 新しい曲の譜読み。また歌詞の内容や、行事に関連した歌であればその行事についても調べておく。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 音楽¹の楽典の復習／おぼけなんてないさ、南の島のハメハメハ大王、思い出のアルバム
 - 第2回 長調／おんまはみんな、そうだったらいいのにな、コンコンクシャンのうた
 - 第3回 短調／山のワルツ、あめふりくまのこ、うれしいひな祭り
 - 第4回 近親調(属調、下屬調)／森のくまさん、うみのそこにはあおいうち、きのこ
 - 第5回 近親調(平行調)／おかあさん、おもちゃのチャチャチャ、バスごっこ
 - 第6回 近親調(同主調)／きよしこの夜。ミッキーマウス・マーチ、ゴリラのうた
 - 第7回 三和音のコードネーム／水あそび、とんでったバナナ、ゆりかごのうた
 - 第8回 七の和音のコードネーム／カレンダーマーチ、かわいいかくれんぼ、せかいじゅうのこどもたちが
 - 第9回 コードネームのまとめ／シャベルでホイ、線路はつづくよどこまでも、イルカはザンフラコ
 - 第10回 和音の基本形と転回形／赤鼻のトナカイ、ジングルベル、犬のおまわりさん
 - 第11回 三和音の種類(ダイアトニックコード)／こいのぼり、大きな古時計、さんぽ
 - 第12回 主要三和音、属七の和音／うみ、ともだち讃歌、ことりのうた、
 - 第13回 和音の配置(トニック、サブドミナント、ドミナント)／まっかな秋、ホ・ホ・ホ、ドレミのうた
 - 第14回 楽典の復習／あわてんぼうのサンタクロース、手のひらを太陽に、あまだれぼったん
 - 第15回 楽典演習問題／北風小僧の寒太郎、ドロップスの歌、バナナのおやこ
- 期末試験

取り扱う曲は進度をみて増やす予定。また曲によっては内容についてリサーチし、ディスカッションを行う。

授業計画表

成績評価法

期末試験（6割）に加え、授業内での演習への取り組み（4割）など総合的に評価する。

教科書

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』 共同音楽出版

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』 共同音楽出版

音楽Ⅲのテキスト「幼児のうた100曲」「実用子供の歌曲200選」も使用する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階229研究室 第2体育館1階音楽準備室

火、水、金が出講日です。直接、研究室もしくは音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

028-670-3689(研究室)

授業用E-mail

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100203	
講義名	音楽II EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科(短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	井上 修	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では、保育の現場での音楽活動に必要な基礎的能力の向上を目標とする。
 音楽¹で学んだことを踏まえ、曲の理解度を深めるため歌詞の内容についても学ぶ。また、伴奏や弾き歌いにも必要になってくるコードの知識も身につける。
 到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

楽典の予習。授業で扱った内容の確認問題を次回以降の授業で実施する。
 新しい曲の譜読み。また歌詞の内容や、行事に関連した歌であればその行事についても調べておく。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 音楽¹の楽典の復習／おばけなんてないさ、南の島のハメハメハ大王、思い出のアルバム
 - 第2回 長調／おんまはみんな、そうだったらいいのにな、コンコンクシャンのうた
 - 第3回 短調／山のワルツ、あめふりくまのこ、うれしいひな祭り
 - 第4回 近親調(属調、下屬調)／森のくまさん、うみのそこにはあおいうち、きのこ
 - 第5回 近親調(平行調)／おかあさん、おもちゃのチャチャチャ、バスごっこ
 - 第6回 近親調(同主調)／きよしこの夜。ミッキーマウス・マーチ、ゴリラのうた
 - 第7回 三和音のコードネーム／水あそび、とんでったバナナ、ゆりかごのうた
 - 第8回 七の和音のコードネーム／カレンダーマーチ、かわいかくれんぼ、せかいじゅうのこどもたちが
 - 第9回 コードネームのまとめ／シャベルでホイ、線路はつづくよどこまでも、イルカはザンブラコ
 - 第10回 和音の基本形と転回形／赤鼻のトナカイ、ジングルベル、犬のおまわりさん
 - 第11回 三和音の種類(ダイアトニックコード)／こいのぼり、大きな古時計、さんぽ
 - 第12回 主要三和音、属七の和音／うみ、ともだち讃歌、ことりのうた、
 - 第13回 和音の配置(トニック、サブドミナント、ドミナント)／まっかな秋、ホ・ホ・ホ、ドレミのうた
 - 第14回 楽典の復習／あわてんぼうのサンタクロース、手のひらを太陽に、あまだれぼったん
 - 第15回 楽典演習問題／北風小僧の寒太郎、ドロップスの歌、バナナのおやこ
- 期末試験

取り扱う曲は進度をみて増やす予定。また曲によっては内容についてリサーチし、ディスカッションを行う。

授業計画表

成績評価法

期末試験（6割）に加え、授業内での演習への取り組み（4割）など総合的に評価する。

教科書

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（1）』 共同音楽出版

山本英子著 『ピアノのアトリエ 楽典レッスン（2）』 共同音楽出版

音楽Ⅲのテキスト「幼児のうた100曲」「実用子供の歌曲200選」も使用する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階229研究室 第2体育館1階音楽準備室

火、水、金が出講日です。直接、研究室もしくは音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

028-670-3689(研究室)

授業用E-mail

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100301
講義名	音楽III ABC
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	井上 修	指定なし
指定なし	吉川 有子	指定なし
指定なし	山本 聡子	指定なし
指定なし	川口 純子	指定なし
指定なし	上野 奈津子	指定なし
指定なし	林 朋子	指定なし
指定なし	小野 智恵	指定なし
指定なし	川井 理香	指定なし
指定なし	金田 初江	指定なし
指定なし	齊藤 亜紀奈	指定なし
指定なし	篠崎 のぞみ	指定なし
指定なし	田村 友美	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育者にとって、ピアノ技能は重要なスキルの一つとなっています。本授業では、ピアノ技能の基礎と、主にコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い技能を習得します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

ピアノ技能の習得には、毎日の自主練習が必須となります。課題を十分に練習した上で毎週のレッスンに臨んでください。

授業の概要及び授業計画

本授業は個人レッスン形式で行います。ピアノのテクニックの他に、正しい譜読みの方法やペダルの使用法、コード伴奏のアレンジ法についても学びます。

経験者クラス：6～7名

初心者クラス：4名

本学で定めた「ピアノグレード表」に従い、必修課題曲²⁷曲と選択課題曲を各自の進度に応じ

て順次履修していきます。

【必修課題曲】

ぶんぶんぶん・こぎつね・どんぐりころころ・とんぼのめがね・すうじの歌・雨だれぽったん・豆まき・ふしぎなポケット・山の音楽家・たなばたさま・まつぼっくり・はたけのポリカ・こおろぎ・たきび・夕焼小焼・こいのぼり・あくしゅでこんにちわ・かたつむり・ぞうさん・お正月・おはながわらった・先生とおともだち・うんどうかい・虫のこえ・おはよう・おかえりのうた・おべんとう

授業計画表

成績評価法

実技試験、グレードの進捗状況、学習態度等により総合的に評価します。

教科書

「幼児の歌100曲」[第2版]在原章子他著 全音楽譜出版社

「こどもの歌曲200選」松山祐士編 ドレミ楽譜出版社

参考書

「バイエル教則本」(全音楽譜出版社)

「ブルグミュラー25の練習曲」(全音楽譜出版社)

「ソナチネアルバム1」(全音楽譜出版社)

学生へのメッセージ

毎日の練習の積み重ねでピアノは確実に上達します。1日最低30分、ピアノに触れる時間を作ってください。

研究室(訪問先等)

長澤：227研究室 出講日は水・木・金曜日です。

井上：229研究室 出講日は火・水・金曜日です。

直接、研究室または音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

長澤：028-670-3687

井上：028-670-3689

音楽準備室：028-670-3600

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100302
講義名	音楽Ⅲ DEF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科(短大)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	井上 修	指定なし
指定なし	吉川 有子	指定なし
指定なし	山本 聡子	指定なし
指定なし	川口 純子	指定なし
指定なし	上野 奈津子	指定なし
指定なし	林 朋子	指定なし
指定なし	小野 智恵	指定なし
指定なし	川井 理香	指定なし
指定なし	金田 初江	指定なし
指定なし	齊藤 亜紀奈	指定なし
指定なし	篠崎 のぞみ	指定なし
指定なし	田村 友美	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育者にとって、ピアノ技能は重要なスキルの一つとなっています。本授業では、ピアノ技能の基礎と、主にコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い技能を習得します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

ピアノ技能の習得には、毎日の自主練習が必須となります。課題を十分に練習した上で毎週のレッスンに臨んでください。

授業の概要及び授業計画

本授業は個人レッスン形式で行います。ピアノのテクニックの他に、正しい譜読みの方法やペダルの使用法、コード伴奏のアレンジ法についても学びます。

経験者クラス：6～7名

初心者クラス：4名

本学で定めた「ピアノグレード表」に従い、必修課題曲²⁷曲と選択課題曲を各自の進度に応じ

て順次履修していきます。

【必修課題曲】

ぶんぶんぶん・こぎつね・どんぐりころころ・とんぼのめがね・すうじの歌・雨だれぽったん・豆まき・ふしぎなポケット・山の音楽家・たなばたさま・まつぼっくり・はたけのポリカ・こおろぎ・たきび・夕焼小焼・こいのぼり・あくしゅでこんにちわ・かたつむり・ぞうさん・お正月・おはながわらった・先生とおともだち・うんどうかい・虫のこえ・おはよう・おかえりのうた・おべんとう

授業計画表

成績評価法

実技試験、グレードの進捗状況、学習態度等により総合的に評価します。

教科書

「幼児の歌100曲」[第2版]在原章子他著 全音楽譜出版社

「こどもの歌曲200選」松山祐士編 ドレミ楽譜出版社

参考書

「バイエル教則本」(全音楽譜出版社)

「ブルグミュラー25の練習曲」(全音楽譜出版社)

「ソナチネアルバム1」(全音楽譜出版社)

学生へのメッセージ

毎日の練習の積み重ねでピアノは確実に上達します。1日最低30分、ピアノに触れる時間を作ってください。

研究室(訪問先等)

長澤：227研究室 出講日は水・木・金曜日です。

井上：229研究室 出講日は火・水・金曜日です。

直接、研究室または音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

長澤：028-670-3687

井上：028-670-3689

音楽準備室：028-670-3600

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100401
講義名	音楽Ⅳ ABC
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	井上 修	指定なし
指定なし	吉川 有子	指定なし
指定なし	山本 聡子	指定なし
指定なし	川口 純子	指定なし
指定なし	上野 奈津子	指定なし
指定なし	林 朋子	指定なし
指定なし	小野 智恵	指定なし
指定なし	川井 理香	指定なし
指定なし	金田 初江	指定なし
指定なし	齊藤 亜紀奈	指定なし
指定なし	篠崎 のぞみ	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では行事の歌、季節の歌を中心とした様々な子どもの歌が歌われています。本授業では、子どもの歌のレパートリーを広げ、様々な伴奏法による弾き歌いの実践力の習得を目指します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

弾き歌い技能の習得には、毎日の自主練習が必須となります。課題を十分に練習した上で毎週のレッスンに臨んでください。

授業の概要及び授業計画

本授業は個人レッスン形式で行います。

経験者クラス：6～7名

初心者クラス：4名

本学で定めた「ピアノグレード表」に従い、必修課題曲²⁷曲と選択課題曲を各自の進度に応じて順次履修していきます。

【必修課題曲】

しゃぼん玉・とけいのうた・めだかのがっこう・大きなたいこ・ありさんのおはなし・いちねんせいになったら・やきいもグーチーパー・わらいんぼコスモス・月・うみ・はをみがきましよう・おつかいありさん・ハッピーバースデートゥーユー・アイアイ・雪のペンキ屋さん・やぎさんゆうびん・雪・こぶたぬきつねこ・おばけなんてないさ・南の島のハメハメハ大王・思い出のアルバム・おんまはみんな・そうだったらいいのにな・コンコンクシャンのうた・山のワルツ・あめふりくまのこ・うれしいひな祭り

授業計画表

成績評価法

実技試験、グレードの進捗状況、学習態度等により総合的に評価します。

教科書

「幼児の歌100曲」[第2版]在原章子他著 全音楽譜出版社

学生へのメッセージ

毎日の練習の積み重ねでピアノは確実に上達します。1日最低30分、ピアノに触れる時間を作ってください。

研究室（訪問先等）

長澤：227研究室 出講日は水・木・金曜日です。
井上：229研究室 出講日は火・水・金曜日です。
直接、研究室または音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100402
講義名	音楽Ⅳ DEF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	井上 修	指定なし
指定なし	吉川 有子	指定なし
指定なし	山本 聡子	指定なし
指定なし	川口 純子	指定なし
指定なし	上野 奈津子	指定なし
指定なし	林 朋子	指定なし
指定なし	小野 智恵	指定なし
指定なし	川井 理香	指定なし
指定なし	金田 初江	指定なし
指定なし	齊藤 亜紀奈	指定なし
指定なし	篠崎 のぞみ	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では行事の歌、季節の歌を中心とした様々な子どもの歌が歌われています。本授業では、子どもの歌のレパートリーを広げ、様々な伴奏法による弾き歌いの実践力の習得を目指します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

弾き歌い技能の習得には、毎日の自主練習が必須となります。課題を十分に練習した上で毎週のレッスンに臨んでください。

授業の概要及び授業計画

本授業は個人レッスン形式で行います。

経験者クラス：6～7名

初心者クラス：4名

本学で定めた「ピアノグレード表」に従い、必修課題曲²⁷曲と選択課題曲を各自の進度に応じて順次履修していきます。

【必修課題曲】

しゃぼん玉・とけいのうた・めだかのがっこう・大きなたいこ・ありさんのおはなし・いちねんせいになったら・やきいもグーチーパー・わらいんぼコスモス・月・うみ・はをみがきましよう・おつかいありさん・ハッピーバースデートゥーユー・アイアイ・雪のペンキ屋さん・やぎさんゆうびん・雪・こぶたぬきつねこ・おばけなんてないさ・南の島のハメハメハ大王・思い出のアルバム・おんまはみんな・そうだったらいいのにな・コンコンクシャンのうた・山のワルツ・あめふりくまのこ・うれしいひな祭り

授業計画表

成績評価法

実技試験、グレードの進捗状況、学習態度等により総合的に評価します。

教科書

「幼児の歌100曲」[第2版]在原章子他著 全音楽譜出版社

学生へのメッセージ

毎日の練習の積み重ねでピアノは確実に上達します。1日最低30分、ピアノに触れる時間を作ってください。

研究室（訪問先等）

長澤：227研究室 出講日は水・木・金曜日です。
井上：229研究室 出講日は火・水・金曜日です。
直接、研究室または音楽準備室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

inoue@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100701	
講義名	環境教育	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

アウトドアブームと言われながら、表面的なオートキャンプやバーベキューにとどまっているのが、日本のアウトドアライフの現状である。そこで、本講義は身近な環境でより深い自然体験を得るための知識と技術を身につけることを目的とする。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、子どもたちに「センス・オブ・ワンダー」（自然の神秘さに目をみはる感性）を伝えるすべを学んでいただきたい。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に③、④を重視する。

準備学習

特になし

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス センス・オブ・ワンダーと自然体験
 - 第2回：仲間づくりのアクティビティ1 ボールを使って
 - 第3回：仲間づくりのアクティビティ2 フラフープを使って
 - 第4回：仲間づくりのアクティビティ3 風船を使って
 - 第5回：仲間づくりのアクティビティ4 身体を使って
 - 第6回：レイチェル・カーソンとセンス・オブ・ワンダー
 - 第7回：自然のアクティビティ1 室内でネイチャーゲーム
 - 第8回：自然のアクティビティ2 自然の色探し フィールドビンゴ
 - 第9回：自然のアクティビティ3 フィールドパターン 自然の顔探し
 - 第10回：自然のアクティビティ4 自然の顔探し 森の展覧会
 - 第11回：キャンパス探検 幼児向けの散歩道と遊びを探す
 - 第12回：キャンパスの散歩道1 ラフスケッチ
 - 第13回：キャンパスの散歩道2 下書き
 - 第14回：キャンパスの散歩道3 清書
 - 第15回：キャンパスの散歩道4 指導案作成
- 期末試験

体験学習法に基づいた体験型の学習スタイルである。教室だけでなく、プレー室や屋外も授業の場となる。また、散歩を題材に、指導案作成の基礎も学ぶ。

授業計画表
成績評価法
定期試験（４５％）、レポート（４５％）、授業中の演習課題（１０％）により評価する。 レポート：散歩道マップ、指導案 課題：各種アクティビティ
教科書
なし
参考書
『ネイチャーゲーム〈1〉』 ジョセフ・B. コーネル 柏書房 ¥1,680 『3歳からの自然体験ゲーム』 ジャクリーヌ ホースフォール 柏書房 ¥1,890
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階 224研究室 火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100702	
講義名	環境教育	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

アウトドアブームと言われながら、表面的なオートキャンプやバーベキューにとどまっているのが、日本のアウトドアライフの現状である。そこで、本講義は身近な環境でより深い自然体験を得るための知識と技術を身につけることを目的とする。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、子どもたちに「センス・オブ・ワンダー」(自然の神秘さに目をみはる感性)を伝えるすべを学んでいただきたい。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に③、④を重視する。

準備学習

特になし

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス センス・オブ・ワンダーと自然体験
- 第2回：仲間づくりのアクティビティ1 ボールを使って
- 第3回：仲間づくりのアクティビティ2 フラフープを使って
- 第4回：仲間づくりのアクティビティ3 風船を使って
- 第5回：仲間づくりのアクティビティ4 身体を使って
- 第6回：レイチェル・カーソンとセンス・オブ・ワンダー
- 第7回：自然のアクティビティ1 室内でネイチャーゲーム
- 第8回：自然のアクティビティ2 自然の色探し フィールドビンゴ
- 第9回：自然のアクティビティ3 フィールドパターン 自然の顔探し
- 第10回：自然のアクティビティ4 自然の顔探し 森の展覧会
- 第11回：キャンパス探検 幼児向けの散歩道と遊びを探す
- 第12回：キャンパスの散歩道1 ラフスケッチ
- 第13回：キャンパスの散歩道2 下書き
- 第14回：キャンパスの散歩道3 清書
- 第15回：キャンパスの散歩道4 指導案作成

期末試験

体験学習法に基づいた体験型の学習スタイルである。教室だけでなく、プレー室や屋外も授業の場となる。また、散歩を題材に、指導案作成の基礎も学ぶ。

授業計画表
成績評価法
定期試験（４５％）、レポート（４５％）、授業中の演習課題（１０％）により評価する。 レポート：散歩道マップ、指導案 課題：各種アクティビティ
教科書
なし
参考書
『ネイチャーゲーム〈1〉』 ジョセフ・B. コーネル 柏書房 ¥1,680 『3歳からの自然体験ゲーム』 ジャクリーヌ ホースフォール 柏書房 ¥1,890
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階 224研究室 火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100801	
講義名	くらしと生物学	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B 群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

くらしが都市化するにつれて、私たちが生きものと接する機会が少なくなっている。しかし、食べもののほとんどは動植物由来であるし、味噌・醤油などの調味料も微生物の営みを利用した発酵で作られている。また、最近では花粉症をはじめとした生物起源のアレルギー症で悩んでいる人も多い。

この授業では、学生諸君が社会生活を送るのに必要な生物学の知識を深められるように、人間のくらしと生物の関わりについて、身近な話題を取り上げて講義を行う。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

準備学習

特になし

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

第1回：ガイダンス くらしの中にひそむ生物学の諸問題

水はどこから来て、どこへ行く？

第2回：生物の進化 進化カレンダー

第3回：生物の特徴と共通性 人間と細菌の違い

第4回：細胞 生命の最小単位

第5回：物質代謝とエネルギー 代謝生きるために体の中で起こっていること

第6回：子どもに多いアトピー性皮膚炎 免疫とアレルギー

第7回：化粧品アレルギー ストレスとアレルギー

第8回：新しい病気？ 鳥インフルエンザ、SARS、BSE、O-157、AIDSなどの感染症

第9回：精子が減るって本当？ 環境ホルモンとダイオキシン

第10回：生態学の基礎 みんな家が必要だ

第11回：生態学とは 個体群生態学と生態系生態学

第12回：生きものと人間の共生を考える 「生物多様性とちぎ戦略」

第13回：地球が危ない！？ 地球環境問題の本質

第14回：くらしの中で役に立っている生物 発酵について

第15回：まとめ これまでの授業を振り返る。

定期試験：試験を実施する（筆記試験）。

毎回、プリントを配布して講義をすすめる。また、ワークシート等を用いて、参加型の授業も行う。さらに、テーマごとにビデオやDVD教材も用いる。

授業計画表

成績評価法

定期試験（90%）、授業中の演習課題（10%）により評価する。

課題：水はどこから来て、どこへ行く？、みんな家が必要だ、みんなのトンボ池

教科書

なし

参考書

『地球大進化 46億年』 NHK「地球大進化」プロジェクト 日本放送協会 各¥1,995

『奪われし未来』 シーア・コルボーン 翔泳社 ¥1,470

『不都合な真実』 アル・ゴア ランダムハウス講談社 ¥2,940

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515100802
講義名	くらしと生物学
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

くらしが都市化するにつれて、私たちが生きものと接する機会が少なくなっている。しかし、食べもののほとんどは動植物由来であるし、味噌・醤油などの調味料も微生物の営みを利用した発酵で作られている。また、最近では花粉症をはじめとした生物起源のアレルギー症で悩んでいる人も多い。

この授業では、学生諸君が社会生活を送るのに必要な生物学の知識を深められるように、人間のくらしと生物の関わりについて、身近な話題を取り上げて講義を行う。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に④を重視する。

準備学習

特になし

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませてください。

授業の概要及び授業計画

第1回：ガイダンス くらしの中にひそむ生物学の諸問題

水はどこから来て、どこへ行く？

第2回：生物の進化 進化カレンダー

第3回：生物の特徴と共通性 人間と細菌の違い

第4回：細胞 生命の最小単位

第5回：物質代謝とエネルギー 代謝生きるために体の中で起こっていること

第6回：子どもに多いアトピー性皮膚炎 免疫とアレルギー

第7回：化粧品アレルギー ストレスとアレルギー

第8回：新しい病気？ 鳥インフルエンザ、SARS、BSE、O-157、AIDSなどの感染症

第9回：精子が減るって本当？ 環境ホルモンとダイオキシン

第10回：生態学の基礎 みんな家が必要だ

第11回：生態学とは 個体群生態学と生態系生態学

第12回：生きものと人間の共生を考える 「生物多様性とちぎ戦略」

第13回：地球が危ない！？ 地球環境問題の本質

第14回：くらしの中で役に立っている生物 発酵について

第15回：まとめ これまでの授業を振り返る。

定期試験：試験を実施する（筆記試験）。

毎回、プリントを配布して講義をすすめる。また、ワークシート等を用いて、参加型の授業も行う。さらに、テーマごとにビデオやDVD教材も用いる。

授業計画表

成績評価法

定期試験（90%）、授業中の演習課題（10%）により評価する。

課題：水はどこから来て、どこへ行く？、みんな家が必要だ、みんなのトンボ池

教科書

なし

参考書

『地球大進化 46億年』 NHK「地球大進化」プロジェクト 日本放送協会 各¥1,995

『奪われし未来』 シーア・コルボーン 翔泳社 ¥1,470

『不都合な真実』 アル・ゴア ランダムハウス講談社 ¥2,940

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515101101
講義名	児童文化I AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし
指定なし	遠藤 隼	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

伝承遊びや集団遊びを演習するとともに、グループワークを体験する。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべを学んでいただきたい。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス 豊かな遊びの数々 幼少期の遊びの思い出
 - 第2回：伝承遊び
 - 第3回：集団遊び
 - 第4回：新聞紙遊び
 - 第5回：絵本1 絵本について（図書館）・絵本読み聞かせのビデオ・グループ練習
 - 第6回：絵本2 グループ練習
 - 第7回：絵本3 絵本の読み聞かせの発表
 - 第8回：外で遊ぶ
 - 第9回：グループワーク1 キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ 班分け
 - 第10回：グループワーク2 班旗作り1 グループの旗のデザイン 下書き
 - 第11回：グループワーク3 班旗作り2 布描きクレヨンで描く
 - 第12回：グループワーク4 班旗作り3 班旗の完成と手直し
 - 第13回：グループワーク5 プログラム決定、メニュー・スタンプについて
 - 第14回：グループワーク6 グループメンバー、スタンプの最終確認
 - 第15回：実習に行くまえに復習しておきたい児童文化財・保育実技
- 期末試験

前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。

授業計画表

成績評価法

出席を前提とし、2 / 3以上出席しないと評価の対象としない。
授業中の演習課題（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。
演習課題：各種アクティビティ
レポート：外遊び／室内遊びについて、絵本の読み聞かせについて

教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。

講義コード	515101102
講義名	児童文化I CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし
指定なし	遠藤 隼	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

伝承遊びや集団遊びを演習するとともに、グループワークを体験する。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべを学んでいただきたい。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス 豊かな遊びの数々 幼少期の遊びの思い出
 - 第2回：伝承遊び
 - 第3回：集団遊び
 - 第4回：新聞紙遊び
 - 第5回：絵本1 絵本について（図書館）・絵本読み聞かせのビデオ・グループ練習
 - 第6回：絵本2 グループ練習
 - 第7回：絵本3 絵本の読み聞かせの発表
 - 第8回：外で遊ぶ
 - 第9回：グループワーク1 キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ 班分け
 - 第10回：グループワーク2 班旗作り1 グループの旗のデザイン 下書き
 - 第11回：グループワーク3 班旗作り2 布描きクレヨンで描く
 - 第12回：グループワーク4 班旗作り3 班旗の完成と手直し
 - 第13回：グループワーク5 プログラム決定、メニュー・スタンプについて
 - 第14回：グループワーク6 グループメンバー、スタンプの最終確認
 - 第15回：実習に行くまえに復習しておきたい児童文化財・保育実技
- 期末試験

前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。

授業計画表

成績評価法

出席を前提とし、2 / 3以上出席しないと評価の対象としない。
授業中の演習課題（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。
演習課題：各種アクティビティ
レポート：外遊び／室内遊びについて、絵本の読み聞かせについて

教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	515101103
講義名	児童文化I EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし
指定なし	遠藤 隼	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

伝承遊びや集団遊びを演習するとともに、グループワークを体験する。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべを学んでいただきたい。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス 豊かな遊びの数々 幼少期の遊びの思い出
 - 第2回：伝承遊び
 - 第3回：集団遊び
 - 第4回：新聞紙遊び
 - 第5回：絵本1 絵本について（図書館）・絵本読み聞かせのビデオ・グループ練習
 - 第6回：絵本2 グループ練習
 - 第7回：絵本3 絵本の読み聞かせの発表
 - 第8回：外で遊ぶ
 - 第9回：グループワーク1 キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ 班分け
 - 第10回：グループワーク2 班旗作り1 グループの旗のデザイン 下書き
 - 第11回：グループワーク3 班旗作り2 布描きクレヨンで描く
 - 第12回：グループワーク4 班旗作り3 班旗の完成と手直し
 - 第13回：グループワーク5 プログラム決定、メニュー・スタンプについて
 - 第14回：グループワーク6 グループメンバー、スタンプの最終確認
 - 第15回：実習に行くまえに復習しておきたい児童文化財・保育実技
- 期末試験

前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。

授業計画表

成績評価法

出席を前提とし、2 / 3以上出席しないと評価の対象としない。
授業中の演習課題（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。

演習課題：各種アクティビティ

レポート：外遊び／室内遊びについて、絵本の読み聞かせについて

教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	515101201									
講義名	児童文化II AB									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科 (短大)									
講義開講時期	後期									
講義区分										
基準単位数	2									
時間	30.00									
代表曜日	金曜日									
代表時限	4時限									
科目分類名	専門科目									
科目分野名	教科に関する科目									
対象学部・年次	短期大学部・1～2年									
必須/選択	選択									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>山本 詩織</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>指定なし</td> <td>遠藤 隼</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	山本 詩織	指定なし	指定なし	遠藤 隼	指定なし
職種	氏名	所属								
指定なし	山本 詩織	指定なし								
指定なし	遠藤 隼	指定なし								

授業の到達目標及びテーマ

児童文化教材について学ぶとともに、グループワークを体験する。
 将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働いたりするであろうみなさんには、児童文化教材の有用性と仲間と協力しながら遊ぶ楽しさ、および、協力しながらイベントをやり遂げるすべについて学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

1泊2日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、お話し、絵本、紙芝居、手遊び、ペープサート、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。

- 第1回：グループワークキャンプの準備1 スタンツの練習
- 第2回：グループワークキャンプの準備2 スタンツのリハーサル
- 第3回：グループワークキャンプのふりかえり（グループ）
- 第4回：グループワークキャンプのふりかえり（個人）
- 第5回：手遊び 手遊びのビデオ、手遊びを演じる
- 第6回：お話し1 グループ練習の導入
- 第7回：お話し2 グループ練習の展開
- 第8回：お話し3 お話しの実演
- 第9回：紙芝居1 グループ練習の導入
- 第10回：紙芝居2 グループ練習の展開
- 第11回：紙芝居3 紙芝居の実演
- 第12回：ペープサートとパネルシアター1 基礎的な事項の確認、ビデオ
- 第13回：ペープサートとパネルシアター2 ペープサートの製作
- 第14回：ペープサートとパネルシアター3 パネルシアターの製作
- 第15回：ペープサートとパネルシアター4 ペープサートとパネルシアターの実演

期末試験

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。

授業計画表

成績評価法

出席を前提とし、2/3以上出席しないと評価の対象としない。
授業中の演習課題（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。
演習課題：各種アクティビティ
レポート：紙芝居について、ペープサートもしくはパネルシアターについて

教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	515101202
講義名	児童文化II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし
指定なし	遠藤 隼	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

児童文化教材について学ぶとともに、グループワークを体験する。
 将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働いたりするであろうみなさんには、児童文化教材の有用性と仲間と協力しながら遊ぶ楽しさ、および、協力しながらイベントをやり遂げるすべについて学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

1泊2日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、お話し、絵本、紙芝居、手遊び、ペープサート、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。

- 第1回：グループワークキャンプの準備1 スタッツの練習
- 第2回：グループワークキャンプの準備2 スタッツのリハーサル
- 第3回：グループワークキャンプのふりかえり（グループ）
- 第4回：グループワークキャンプのふりかえり（個人）
- 第5回：手遊び 手遊びのビデオ、手遊びを演じる
- 第6回：お話し1 グループ練習の導入
- 第7回：お話し2 グループ練習の展開
- 第8回：お話し3 お話しの実演
- 第9回：紙芝居1 グループ練習の導入
- 第10回：紙芝居2 グループ練習の展開
- 第11回：紙芝居3 紙芝居の実演
- 第12回：ペープサートとパネルシアター1 基礎的な事項の確認、ビデオ
- 第13回：ペープサートとパネルシアター2 ペープサートの製作
- 第14回：ペープサートとパネルシアター3 パネルシアターの製作
- 第15回：ペープサートとパネルシアター4 ペープサートとパネルシアターの実演

期末試験

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。

授業計画表

成績評価法

出席を前提とし、2/3以上出席しないと評価の対象としない。
授業中の演習課題（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。
演習課題：各種アクティビティ
レポート：紙芝居について、ペープサートもしくはパネルシアターについて

教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	515101203									
講義名	児童文化II EF									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科 (短大)									
講義開講時期	後期									
講義区分										
基準単位数	2									
時間	30.00									
代表曜日	金曜日									
代表時限	3時限									
科目分類名	専門科目									
科目分野名	教科に関する科目									
対象学部・年次	短期大学部・1～2年									
必須/選択	選択									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>山本 詩織</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>指定なし</td> <td>遠藤 隼</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	山本 詩織	指定なし	指定なし	遠藤 隼	指定なし
職種	氏名	所属								
指定なし	山本 詩織	指定なし								
指定なし	遠藤 隼	指定なし								

授業の到達目標及びテーマ

児童文化教材について学ぶとともに、グループワークを体験する。

将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働いたりするであろうみなさんには、児童文化教材の有用性と仲間と協力しながら遊ぶ楽しさ、および、協力しながらイベントをやり遂げるすべについて学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

1泊2日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、お話し、絵本、紙芝居、手遊び、ペープサート、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。

- 第1回：グループワークキャンプの準備1 スタンツの練習
- 第2回：グループワークキャンプの準備2 スタンツのリハーサル
- 第3回：グループワークキャンプのふりかえり（グループ）
- 第4回：グループワークキャンプのふりかえり（個人）
- 第5回：手遊び 手遊びのビデオ、手遊びを演じる
- 第6回：お話し1 グループ練習の導入
- 第7回：お話し2 グループ練習の展開
- 第8回：お話し3 お話しの実演
- 第9回：紙芝居1 グループ練習の導入
- 第10回：紙芝居2 グループ練習の展開
- 第11回：紙芝居3 紙芝居の実演
- 第12回：ペープサートとパネルシアター1 基礎的な事項の確認、ビデオ
- 第13回：ペープサートとパネルシアター2 ペープサートの製作
- 第14回：ペープサートとパネルシアター3 パネルシアターの製作
- 第15回：ペープサートとパネルシアター4 ペープサートとパネルシアターの実演

期末試験

※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。

授業計画表

成績評価法

出席を前提とし、2/3以上出席しないと評価の対象としない。
授業中の演習課題（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。
演習課題：各種アクティビティ
レポート：紙芝居について、ペープサートもしくはパネルシアターについて

教科書

○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 [第2版]』萌文書林、2003年。

参考書

- 村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。
- 松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。
- 佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。
- 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	515101801
講義名	図画工作I AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	赤羽 薫	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」について理解する。
- 2) 造形表現の基礎を理解する。
- 3) 素材の特性を生かした表現ができる。
- 4) 表現することの楽しさを実感する。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

造形表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにするとともに実践力を身につける。

授業計画

- 第1回：造形表現とは何か、領域「表現」のねらい及び内容について
- 第2回：色彩の基礎
- 第3回：配色について
- 第4回：色面構成
- 第5回：形について デッサン
- 第6回：幼児の造形の特徴と発達
- 第7回：素材と道具について
- 第8回：基礎技法（1）フロッタージュ
- 第9回：基礎技法（2）ちぎり絵
- 第10回：基礎技法（3）指絵
- 第11回：基礎技法（4）ドリッピング（吹き絵、流し絵、かけ絵）
- 第12回：基礎技法（5）はじき絵、にじみ絵
- 第13回：基礎技法（6）型押し絵
- 第14回：基礎技法（7）デカルコマニー、ビー玉版画
- 第15回：評価と鑑賞について

定期試験
授業計画表
成績評価法
色彩の基礎及び幼児の造形の特徴と発達の理解について、期末試験で評価する（30％）。 デッサン及び色面構成について作品を評価する（20％）。 基礎技法については作品及び学習内容や気づきをファイルにまとめ、その成果を評価する（50％）。
教科書
新造形表現 理論・実践編（花篤實・岡田愨吾編著、三晃書房出版）
参考書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515101802	
講義名	図画工作I CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	赤羽 薫	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」について理解する。
- 2) 造形表現の基礎を理解する。
- 3) 素材の特性を生かした表現ができる。
- 4) 表現することの楽しさを実感する。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

造形表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにするとともに実践力を身につける。

授業計画

第1回：造形表現とは何か、領域「表現」のねらい及び内容について

第2回：色彩の基礎

第3回：配色について

第4回：色面構成

第5回：形について デッサン

第6回：幼児の造形の特徴と発達

第7回：素材と道具について

第8回：基礎技法（1）フロッターージュ

第9回：基礎技法（2）ちぎり絵

第10回：基礎技法（3）指絵

第11回：基礎技法（4）ドリッピング（吹き絵、流し絵、かけ絵）

第12回：基礎技法（5）はじき絵、にじみ絵

第13回：基礎技法（6）型押し絵

第14回：基礎技法（7）デカルコマニー、ビー玉版画

第15回：評価と鑑賞について

定期試験
授業計画表
成績評価法
色彩の基礎及び幼児の造形の特徴と発達の理解について、期末試験で評価する（30％）。 デッサン及び色面構成について作品を評価する（20％）。 基礎技法については作品及び学習内容や気づきをファイルにまとめ、その成果を評価する（50％）。
教科書
新造形表現 理論・実践編（花篤實・岡田愨吾編著、三晃書房出版）
参考書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515101803						
講義名	図画工作I EF						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	火曜日						
代表時限	4時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>赤羽 薫</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	赤羽 薫	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	赤羽 薫	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」について理解する。
- 2) 造形表現の基礎を理解する。
- 3) 素材の特性を生かした表現ができる。
- 4) 表現することの楽しさを実感する。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

造形表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにするとともに実践力を身につける。

授業計画

- 第1回：造形表現とは何か、領域「表現」のねらい及び内容について
 第2回：色彩の基礎
 第3回：配色について
 第4回：色面構成
 第5回：形について デッサン
 第6回：幼児の造形の特性と発達
 第7回：素材と道具について
 第8回：基礎技法（1）フロッタージュ
 第9回：基礎技法（2）ちぎり絵
 第10回：基礎技法（3）指絵
 第11回：基礎技法（4）ドリッピング（吹き絵、流し絵、かけ絵）
 第12回：基礎技法（5）はじき絵、にじみ絵
 第13回：基礎技法（6）型押し絵
 第14回：基礎技法（7）デカルコマニー、ビー玉版画
 第15回：評価と鑑賞について

定期試験
授業計画表
成績評価法
色彩の基礎及び幼児の造形の特徴と発達の理解について、期末試験で評価する（30％）。 デッサン及び色面構成について作品を評価する（20％）。 基礎技法については作品及び学習内容や気づきをファイルにまとめ、その成果を評価する（50％）。
教科書
新造形表現 理論・実践編（花篤實・岡田愨吾編著、三晃書房出版）
参考書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515101901						
講義名	図画工作II AB						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	後期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	火曜日						
代表時限	1 時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
	<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>赤羽 薫</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>	職種	氏名	所属	指定なし	赤羽 薫	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	赤羽 薫	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感する。
 - 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
 - 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

日頃より造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業内で製作した作品課題はファイルに整理する。欠席または作品未完成の場合は空き時間等で完成させておく。

立体作品については写真等で記録をしておくこと。

作品ファイルは期末に提出し、採点対象となる。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

造形表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学び、共同製作の経験や身の周りのものを生かした造形をすることで幼児期の表現活動を支援するための実践力を身につける。

授業計画

第1回：鑑賞について発表

第2回：基礎技法 (1) マーブリング

第3回：基礎技法 (2) スクラッチ

第4回：基礎技法 (3) 紙染め

第5回：基礎技法 (4) ステンシル

第6回：基礎技法 (5) 紙版画

第7回：基礎技法 (6) スチレン版画

第8回：壁画製作（1）テーマとアイデア

第9回：壁画製作（2）共同製作

第10回：壁画製作（3）鑑賞

第11回：動くおもちゃ（1）①紙とストローで作る②ビニールで作る

第12回：動くおもちゃ（2）牛乳パックと輪ゴムで作る

第13回：紙とはさみの造形（1）連続模様

第14回：紙とはさみの造形（2）紋切遊び

第15回：紙とはさみの造形（3）○△□で作る

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

作品及び学習内容や気付きをファイルにまとめ、その成果を評価する（50%）。

幼児造形についてのレポートを評価する（50%）。

教科書

新造形表現 理論・実践編（花篤實・岡田愨吾編著、三晃書房出版）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515101902						
講義名	図画工作II CD						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	後期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	火曜日						
代表時限	4 時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>赤羽 薫</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	赤羽 薫	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	赤羽 薫	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感する。
 - 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
 - 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

日頃より造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業内で制作した作品課題はファイルに整理する。欠席または作品未完成の場合は空き時間等で完成させておく。

立体作品については写真等で記録をしておくこと。

作品ファイルは期末に提出し、採点対象となる。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

造形表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学び、共同制作の経験や身の周りのものを生かした造形をすることで幼児期の表現活動を支援するための実践力を身につける。

授業計画

第1回：鑑賞について発表

第2回：基礎技法 (1) マーブリング

第3回：基礎技法 (2) スクラッチ

第4回：基礎技法 (3) 紙染め

第5回：基礎技法 (4) ステンシル

第6回：基礎技法 (5) 紙版画

第7回：基礎技法 (6) スチレン版画

第8回：壁画製作（1）テーマとアイデア
第9回：壁画製作（2）共同製作
第10回：壁画製作（3）鑑賞
第11回：動くおもちゃ（1）①紙とストローで作る②ビニールで作る
第12回：動くおもちゃ（2）牛乳パックと輪ゴムで作る
第13回：紙とはさみの造形（1）連続模様
第14回：紙とはさみの造形（2）紋切遊び
第15回：紙とはさみの造形（3）○△□で作る
定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

作品及び学習内容や気付きをファイルにまとめ、その成果を評価する（50%）。
幼児造形についてのレポートを評価する（50%）。

教科書

新造形表現 理論・実践編（花篤實・岡田愨吾編著、三晃書房出版）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515101903
講義名	図画工作II EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	赤羽 薫	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
- 2) 素材の特性を生かした表現ができる。
- 3) 表現することの楽しさを実感する。
- 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

日頃より造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業内で制作した作品課題はファイルに整理する。欠席または作品未完成の場合は空き時間等で完成させておく。

立体作品については写真等で記録をしておくこと。

作品ファイルは期末に提出し、採点対象となる。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

造形表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学び、共同製作の経験や身の周りのものを生かした造形をすることで幼児期の表現活動を支援するための実践力を身につける。

授業計画

第1回：鑑賞について発表

第2回：基礎技法 (1) マーブリング

第3回：基礎技法 (2) スクラッチ

第4回：基礎技法 (3) 紙染め

第5回：基礎技法 (4) ステンシル

第6回：基礎技法 (5) 紙版画

第7回：基礎技法 (6) スチレン版画

第8回：壁画製作（1）テーマとアイデア
第9回：壁画製作（2）共同製作
第10回：壁画製作（3）鑑賞
第11回：動くおもちゃ（1）①紙とストローで作る②ビニールで作る
第12回：動くおもちゃ（2）牛乳パックと輪ゴムで作る
第13回：紙とはさみの造形（1）連続模様
第14回：紙とはさみの造形（2）紋切遊び
第15回：紙とはさみの造形（3）○△□で作る
定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

作品及び学習内容や気づきをファイルにまとめ、その成果を評価する（50%）。
幼児造形についてのレポートを評価する（50%）。

教科書

新造形表現 理論・実践編（花篤實・岡田愨吾編著、三晃書房出版）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102001	
講義名	図画工作III AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	川島 史也	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 2)幼児の素朴な表現を見出し、受けとめ、共感することができる。
- 3)様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
- 4)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

実習に向けて日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

幼児造形指導について学び、実践することを想定して自分で指導計画を立てる。様々な表現の知識技能を生かし、絵本を製作する。

授業計画

第1回：幼児造形指導の構え、指導の方法

第2回：造形遊び

第3回：季節の製作

第4回：テーマからの発想（1）季節の製作

第5回：テーマからの発想（2）ゲーム

第6回：教材研究（1）素材研究

第7回：教材研究（2）指導法の研究

第8回：紙による造形（1）牛乳パックで作る

第9回：紙による造形（2）ポップアップカード

第10回：絵本製作（1）アイデア

第11回：絵本製作（2）下絵

第12回：絵本製作（3）貼り絵

第13回：絵本製作（4）仕上げ

第14回：絵本製作（5）完成・製本
第15回：手作り絵本の発表・鑑賞
定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

指導計画について、学習内容の様子や気付きを記入したワークシート及び、事後レポートで評価する（50%）。手作り絵本の製作ワークシート・完成作品・鑑賞ワークシートを評価する（50%）。

教科書

表現の指導 造形（熊本高工編、同文書院）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102002	
講義名	図画工作III CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	川島 史也	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 2) 幼児の素朴な表現を見出し、受けとめ、共感することができる。
- 3) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
- 4) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

実習に向けて日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

幼児造形指導について学び、実践することを想定して自分で指導計画を立てる。様々な表現の知識技能を生かし、絵本を製作する。

授業計画

- 第1回： 幼児造形指導の構え、指導の方法
- 第2回： 造形遊び
- 第3回： 季節の製作
- 第4回： テーマからの発想 (1) 季節の製作
- 第5回： テーマからの発想 (2) ゲーム
- 第6回： 教材研究 (1) 素材研究
- 第7回： 教材研究 (2) 指導法の研究
- 第8回： 紙による造形 (1) 牛乳パックで作る
- 第9回： 紙による造形 (2) ポップアップカード
- 第10回： 絵本製作 (1) アイディア
- 第11回： 絵本製作 (2) 下絵
- 第12回： 絵本製作 (3) 貼り絵
- 第13回： 絵本製作 (4) 仕上げ

第14回：絵本製作（5）完成・製本

第15回：手作り絵本の発表・鑑賞

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

指導計画について、学習内容の様子や気づきを記入したワークシート及び、事後レポートで評価する（50%）。手作り絵本の製作ワークシート・完成作品・鑑賞ワークシートを評価する（50%）。

教科書

表現の指導 造形（熊本高工編、同文書院）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102003
講義名	図画工作III EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	川島 史也	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 2) 幼児の素朴な表現を見出し、受けとめ、共感することができる。
- 3) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
- 4) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

実習に向けて日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

幼児造形指導について学び、実践することを想定して自分で指導計画を立てる。様々な表現の知識技能を生かし、絵本を製作する。

授業計画

- 第1回： 幼児造形指導の構え、指導の方法
- 第2回： 造形遊び
- 第3回： 季節の製作
- 第4回： テーマからの発想 (1) 季節の製作
- 第5回： テーマからの発想 (2) ゲーム
- 第6回： 教材研究 (1) 素材研究
- 第7回： 教材研究 (2) 指導法の研究
- 第8回： 紙による造形 (1) 牛乳パックで作る
- 第9回： 紙による造形 (2) ポップアップカード
- 第10回： 絵本製作 (1) アイディア
- 第11回： 絵本製作 (2) 下絵
- 第12回： 絵本製作 (3) 貼り絵
- 第13回： 絵本製作 (4) 仕上げ

第14回：絵本製作（5）完成・製本

第15回：手作り絵本の発表・鑑賞

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

指導計画について、学習内容の様子や気付きを記入したワークシート及び、事後レポートで評価する（50%）。手作り絵本の製作ワークシート・完成作品・鑑賞ワークシートを評価する（50%）。

教科書

表現の指導 造形（熊本高工編、同文書院）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102101	
講義名	図画工作Ⅳ AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	川島 史也	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

夏季休業中に近隣の美術館において美術鑑賞をすることで、美術や表現に触れる経験をする。日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

とくに立体造形表現についての基礎を学び、作品へ発展させ、幼児への指導方法を学ぶ。

授業計画

- 第1回：共同製作 (1) テーマとアイディア
- 第2回：共同製作 (2) 素材研究・製作
- 第3回：共同製作 (3) 仕上げ・鑑賞
- 第4回：ダンボールによる製作 (1) 製作方法、アイディア
- 第5回：ダンボールによる製作 (2) 組み立て
- 第6回：粘土造形の基本
- 第7回：粘土造形「抽象形態」
- 第8回：自然素材による製作 (木片)
- 第9回：お面の製作 (1) アイディア
- 第10回：お面の製作 (2) 骨組み
- 第11回：お面の製作 (3) 張り子
- 第12回：お面の製作 (4) 着色

第13回：光の造形（1）アイデア
第14回：光の造形（2）製作
第15回：光の造形（3）発表・鑑賞
定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

学習内容の様子や気づきをワークシートに記入し、学びの過程を評価する（20%）。完成作品・鑑賞ワークシートを評価する（30%）。幼児造形についてのレポートを評価する（50%）。

教科書

表現の指導 造形（熊本高工編、同文書院）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102102						
講義名	図画工作IV CD						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	後期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	月曜日						
代表時限	1 時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・2年						
必須/選択	選択必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>川島 史也</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	川島 史也	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	川島 史也	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1)様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

夏季休業中に近隣の美術館において美術鑑賞をすることで、美術や表現に触れる経験をする。日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

とくに立体造形表現についての基礎を学び、作品へ発展させ、幼児への指導方法を学ぶ。

授業計画

- 第1回：共同製作 (1) テーマとアイデア
- 第2回：共同製作 (2) 素材研究・製作
- 第3回：共同製作 (3) 仕上げ・鑑賞
- 第4回：ダンボールによる製作 (1) 製作方法、アイデア
- 第5回：ダンボールによる製作 (2) 組み立て
- 第6回：粘土造形の基本
- 第7回：粘土造形「抽象形態」
- 第8回：自然素材による製作 (木片)
- 第9回：お面の製作 (1) アイディア
- 第10回：お面の製作 (2) 骨組み
- 第11回：お面の製作 (3) 張り子
- 第12回：お面の製作 (4) 着色

第13回：光の造形（1）アイデア
第14回：光の造形（2）製作
第15回：光の造形（3）発表・鑑賞
定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

学習内容の様子や気づきをワークシートに記入し、学びの過程を評価する（20%）。完成作品・鑑賞ワークシートを評価する（30%）。幼児造形についてのレポートを評価する（50%）。

教科書

表現の指導 造形（熊本高工編、同文書院）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102103							
講義名	図画工作IV EF							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	月曜日							
代表時限	4時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教科に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・2年							
必須/選択	選択必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>川島 史也</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	川島 史也	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	川島 史也	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

授業の到達目標及びテーマ

- 1) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
- 本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

準備学習

夏季休業中に近隣の美術館において美術鑑賞をすることで、美術や表現に触れる経験をする。日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

とくに立体造形表現についての基礎を学び、作品へ発展させ、幼児への指導方法を学ぶ。

授業計画

- 第1回：共同製作 (1) テーマとアイディア
- 第2回：共同製作 (2) 素材研究・製作
- 第3回：共同製作 (3) 仕上げ・鑑賞
- 第4回：ダンボールによる製作 (1) 製作方法、アイディア
- 第5回：ダンボールによる製作 (2) 組み立て
- 第6回：粘土造形の基本
- 第7回：粘土造形「抽象形態」
- 第8回：自然素材による製作 (木片)
- 第9回：お面の製作 (1) アイディア
- 第10回：お面の製作 (2) 骨組み
- 第11回：お面の製作 (3) 張り子
- 第12回：お面の製作 (4) 着色

第13回：光の造形（1）アイデア
第14回：光の造形（2）製作
第15回：光の造形（3）発表・鑑賞
定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

学習内容の様子や気づきをワークシートに記入し、学びの過程を評価する（20%）。完成作品・鑑賞ワークシートを評価する（30%）。幼児造形についてのレポートを評価する（50%）。

教科書

表現の指導 造形（熊本高工編、同文書院）

参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
授業中に適宜資料を配布する。

講義コード	515102201	
講義名	乳児保育I AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	野中 悦子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な理論、知識、技術の基本について、具体的事例を通して理解することを目指す。特に3歳未満児の発達の特徴をふまえたコミュニケーションの方法と個別的援助の具体的方法を学ぶ。

学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③を重視する。

準備学習

実習及び日常での交流観察を通して、乳児の行動特徴への関心を高める。さらに育児用品の観察等により、それぞれの機能とその意味をさぐる。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

視覚教材等を活用しながら、発達の特徴を理解するとともに、乳児の個別性の理解をも深める。また乳児の発達に即した作品の観賞や、嚥下や咀嚼の実習により、体感を通しての理解を深める。さらに具体的事例を通して、実践の場での課題を明らかにしていく。

{授業計画}

第1回：乳児保育の意義

第2回：乳児の発達と保育 (0歳児前半)

第3回：乳児の発達と保育 (0歳児後半)

第4回：乳児の発達と保育 (1歳児前半)

第5回：乳児の発達と保育 (1歳児後半)

第6回：乳児の発達と保育 (2歳児)

第7回：乳児の行動と保育 (愛着と信頼~アタッチメントの成り立ち)

第8回：乳児の行動と保育 (愛着と信頼~自己肯定感を育む)

第9回：乳児の生活と保育 (栄養の特徴)

第10回：乳児の生活と保育 (人工栄養と離乳食)

第11回：乳児の生活と保育（遊びの特徴）
第12回：乳児の生活と保育（玩具の選び方）
第13回：乳児の生活と保育（生活リズム）
第14回：乳児の生活と保育（睡眠環境、衣類）
第15回：乳児の生活と保育（排泄、清潔）
期末試験

授業では、講義と視聴覚教材の併用で理解を深める。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や、小レポート及び期末レポートにより総合的に評価する。

教科書

乳児保育第10版（南山堂）石原栄子他 2009

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	515102202						
講義名	乳児保育I CD						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科(短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数							
時間	30.00						
代表曜日	水曜日						
代表時限	2時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・2年						
必須/選択	選択						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>野中 悦子</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	野中 悦子	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	野中 悦子	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な理論、知識、技術の基本について、具体的事例を通して理解することを目指す。特に3歳未満児の発達の特徴をふまえたコミュニケーションの方法と個別的援助の具体的方法を学ぶ。

学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③を重視する。

準備学習

実習及び日常での交流観察を通して、乳児の行動特徴への関心を高める。さらに育児用品の観察等により、それぞれの機能とその意味をさぐる。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習(予習)やテキストの下読みして授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

視覚教材等を活用しながら、発達の特徴を理解するとともに、乳児の個別性の理解をも深める。また乳児の発達に即した作品の観賞や、嚥下や咀嚼の実習により、体感を通しての理解を深める。さらに具体的事例を通して、実践の場での課題を明らかにしていく。

{授業計画}

- 第1回：乳児保育の意義
- 第2回：乳児の発達と保育(0歳児前半)
- 第3回：乳児の発達と保育(0歳児後半)
- 第4回：乳児の発達と保育(1歳児前半)
- 第5回：乳児の発達と保育(1歳児後半)
- 第6回：乳児の発達と保育(2歳児)
- 第7回：乳児の行動と保育(愛着と信頼~アタッチメントの成り立ち)
- 第8回：乳児の行動と保育(愛着と信頼~自己肯定感を育む)
- 第9回：乳児の生活と保育(栄養の特徴)
- 第10回：乳児の生活と保育(人工栄養と離乳食)

第11回：乳児の生活と保育（遊びの特徴）
第12回：乳児の生活と保育（玩具の選び方）
第13回：乳児の生活と保育（生活リズム）
第14回：乳児の生活と保育（睡眠環境、衣類）
第15回：乳児の生活と保育（排泄、清潔）
期末試験

授業では、講義と視聴覚教材の併用で理解を深める。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や、小レポート及び期末レポートにより総合的に評価する。

教科書

乳児保育第10版（南山堂）石原栄子他 2009

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	515102203	
講義名	乳児保育I EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	野中 悦子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な理論、知識、技術の基本について、具体的事例を通して理解することを目指す。特に3歳未満児の発達の特徴をふまえたコミュニケーションの方法と個別的援助の具体的方法を学ぶ。

学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③を重視する。

準備学習

実習及び日常での交流観察を通して、乳児の行動特徴への関心を高める。さらに育児用品の観察等により、それぞれの機能とその意味をさぐる。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

視覚教材等を活用しながら、発達の特徴を理解するとともに、乳児の個別性の理解をも深める。また乳児の発達に即した作品の観賞や、嚥下や咀嚼の実習により、体感を通しての理解を深める。さらに具体的事例を通して、実践の場での課題を明らかにしていく。

{授業計画}

第1回：乳児保育の意義

第2回：乳児の発達と保育 (0歳児前半)

第3回：乳児の発達と保育 (0歳児後半)

第4回：乳児の発達と保育 (1歳児前半)

第5回：乳児の発達と保育 (1歳児後半)

第6回：乳児の発達と保育 (2歳児)

第7回：乳児の行動と保育 (愛着と信頼～アタッチメントの成り立ち)

第8回：乳児の行動と保育 (愛着と信頼～自己肯定感を育む)

第9回：乳児の生活と保育 (栄養の特徴)

第10回：乳児の生活と保育 (人工栄養と離乳食)

第11回：乳児の生活と保育（遊びの特徴）
第12回：乳児の生活と保育（玩具の選び方）
第13回：乳児の生活と保育（生活リズム）
第14回：乳児の生活と保育（睡眠環境、衣類）
第15回：乳児の生活と保育（排泄、清潔）
期末試験

授業では、講義と視聴覚教材の併用で理解を深める。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や、小レポート及び期末レポートにより総合的に評価する。

教科書

乳児保育第10版（南山堂）石原栄子他 2009

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	515102301	
講義名	乳児保育Ⅱ AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

具体的事例を通して、保育所や乳児院等で乳児保育を担当する保育士として必要な理論、知識、技術の基本について学ぶ。乳児の発育、発達を支える家族、地域について関心を広げ、子育て支援のあり方について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深める事。また、授業で配布するプリント等を熟読して、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

乳児保育の社会的役割について、文献・体験活動・課題研究を通して考察を深め、子育て支援を実践できる能力を身につける。

第1回：乳児をとりまく環境①—家庭環境

第2回：乳児をとりまく環境②—社会環境

第3回：乳児をとりまく環境③—育児不安

第4回：乳児保育の制度と現状①—乳児院

第5回：乳児保育の制度と現状②—認可保育所

第6回：乳児保育の制度と現状③—家庭的保育など

第7回：保育所の保育内容

第8回：保育所の保育の計画

第9回：家庭、地域、他機関との連携

第10回：乳児院の保育の計画

第11回：保育形態と環境構成

第12回：地域の子育て支援

第13回：課題研究

第14回：課題研究発表・討議

第15回：まとめ—授業の到達目標の確認と授業評価

期末試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題・発表等60%、レポート30%とする。

教科書

『ヴィジブルな保育記録のススメ』小泉裕子・佐藤康富（すずき出版 2017）

参考書

『乳児保育の基本』汐見稔幸ほか（フレーベル館 2007）

『基本保育シリーズ 乳児保育』児童育成協会（中央法規 2015）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

火・水・木曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515102302	
講義名	乳児保育Ⅱ CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

具体的事例を通して、保育所や乳児院等で乳児保育を担当する保育士として必要な理論、知識、技術の基本について学ぶ。乳児の発育、発達を支える家族、地域について関心を広げ、子育て支援のあり方について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。
毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深める事。また、授業で配布するプリント等を熟読して、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

乳児保育の社会的役割について、文献・体験活動・課題研究を通して考察を深め、子育て支援を実践できる能力を身につける。

- 第1回：乳児をとりまく環境①—家庭環境
- 第2回：乳児をとりまく環境②—社会環境
- 第3回：乳児をとりまく環境③—育児不安
- 第4回：乳児保育の制度と現状①—乳児院
- 第5回：乳児保育の制度と現状②—認可保育所
- 第6回：乳児保育の制度と現状③—家庭的保育など
- 第7回：保育所の保育内容
- 第8回：保育所の保育の計画
- 第9回：家庭、地域、他機関との連携
- 第10回：乳児院の保育の計画
- 第11回：保育形態と環境構成
- 第12回：地域の子育て支援
- 第13回：課題研究
- 第14回：課題研究発表・討議
- 第15回：まとめ—授業の到達目標の確認と授業評価

期末試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題・発表等60%、レポート30%とする。

教科書

『ヴィジブルな保育記録のススメ』小泉裕子・佐藤康富（すずき出版 2017）

参考書

『乳児保育の基本』汐見稔幸ほか（フレーベル館 2007）

『基本保育シリーズ 乳児保育』児童育成協会（中央法規 2015）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

火・水・木曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515102303	
講義名	乳児保育II EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

具体的事例を通して、保育所や乳児院等で乳児保育を担当する保育士として必要な理論、知識、技術の基本について学ぶ。乳児の発育、発達を支える家族、地域について関心を広げ、子育て支援のあり方について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深める事。また、授業で配布するプリント等を熟読して、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

乳児保育の社会的役割について、文献・体験活動・課題研究を通して考察を深め、子育て支援を実践できる能力を身につける。

- 第1回：乳児をとりまく環境①—家庭環境
- 第2回：乳児をとりまく環境②—社会環境
- 第3回：乳児をとりまく環境③—育児不安
- 第4回：乳児保育の制度と現状①—乳児院
- 第5回：乳児保育の制度と現状②—認可保育所
- 第6回：乳児保育の制度と現状③—家庭的保育など
- 第7回：保育所の保育内容
- 第8回：保育所の保育の計画
- 第9回：家庭、地域、他機関との連携
- 第10回：乳児院の保育の計画
- 第11回：保育形態と環境構成
- 第12回：地域の子育て支援
- 第13回：課題研究
- 第14回：課題研究発表・討議
- 第15回：まとめ—授業の到達目標の確認と授業評価

期末試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題・発表等60%、期末試験30%とする。

教科書

『ヴィジブルな保育記録のススメ』小泉裕子・佐藤康富（すずき出版 2017）

参考書

『乳児保育の基本』汐見稔幸ほか（フレーベル館 2007）

『基本保育シリーズ 乳児保育』児童育成協会（中央法規 2015）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

火・水・木曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515102601	
講義名	保育実習I（施設）	
（副題）		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	90.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

「保育実習III」の対象となる施設の種別、目的、機能を学ぶ。その上で、施設の日常と保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解し、本実習に備えることを目標とする。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

本実習に臨む前提として、保育実習指導をはじめとする保育士科目や演習の内容を十分に理解しておく必要がある。

授業の概要及び授業計画

保育所を除く児童福祉施設または障害者施設等における実習であり、主に利用者と生活を共にしながら、生活支援・学習支援・余暇支援・仕事（作業）支援・療育などに参加し、施設保育士の職務や専門性を学習する。またその際には個別面談支援やグループ活動支援など、様々な社会福祉援助技術を用いて実習が行われる。また施設は利用者の生活の場であるため、生活を乱さない配慮が必要であると同時に、高い倫理性が求められる。また自身で考え行動できる主体性が不可欠である。

施設見学（5月）

実習先の調査（実習先として指定された施設についての調査）

事前実習指導（実習日誌への記入）

実習先による事前オリエンテーションと実習計画の策定

本実習（8月または9月、日程は実習先により異なるが実質11日間（90時間以上の実習に参加する）

実習反省・事後指導

レポート提出

授業計画表

特記事項等

29年度「保育実習I（施設）」関連の授業外指導

5月25日（木）施設実習調書記入

5月27日（土）施設見学

6月23日（金）施設実習説明会

10月6日（金）施設実習レポート提出締め切り

10月24日（火）施設実習日誌提出締め切り

成績評価法

- ①実習施設による評価（総合評価・5段階及びコメント）70%
- ②実習への取組み状況及び実習日誌（10%）
- ③実習後レポート（20%）

以上により総合的に評価する

教科書

なし

参考書

『教育・保育・施設実習テキスト』（第3版）二階堂邦子編著 建帛社

学生へのメッセージ

保育所や幼稚園、こども園と違い、実習先には成人の利用者の方々も多くいらっしゃる場合があります。慣れない環境での実習に戸惑いや緊張は当然あるでしょうが、実習前には皆さんが不安・不明に感じる点についてどのようなことにも一緒に考えていきます。研究室に相談に来てください。事前の説明会と見学会には必ず出席・参加をするようにお願いします。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 213研究室（久野研究室）

平日は授業時間以外は研究室にすることが多いので気軽に訪問してください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515102701
講義名	保育実習 ^I （保育所）
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	90.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育士資格を取得しようとする学生の必修科目である。

この実習は、11日間の実習を通して観察、参加（部分）実習を体験することで保育士の役割について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知能と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

事前に説明会等により実習の意義、心構えと心得を十分に理解し、保育士としての目標や自覚を持ち、真剣な態度で臨む姿勢を身につける。

授業の概要及び授業計画

保育所において乳幼児の生活や遊びに参加してその発達的特質を学び、個人差や場面に応じた具
 対的な働きかけの方法を体得する。また、保育所の一日の生活の流れ、人的・物的環境、保
 育士
 の職務内容、チームワーク、勤務体制、家庭や地域社会との連携などについて体験を通し理
 解を
 深める。事後は実習で学んだことや反省点をもとに自ら進んで知識の習得に励む努力をす
 る。

授業計画表

成績評価法

事前の準備状況、実習巡回時の情報、実習施設での評価および実習日誌等により総合的に判断する。

参考書

保育所保育指針
 0、1歳児クラス運営のすべて

フレーベル館
 フレーベル館

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階226（設楽）出講日は月・火・水・金,
209（宍戸）出講日は月・火・水・木

実習中，保育実習担当教員は大学に常駐しているので，電話あるいはメールで連絡を取ってください。

電話番号

028-670-3686（設楽）

028-670-3669（宍戸）

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515102801
講義名	保育実習II
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	90.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育実習I(保育所)での学びを生かし、保育士としての専門性を高めることをめざす。また多様な保育ニーズ（低年齢児保育、障害児保育、延長保育、一時保育、学童保育など）に対応する保育士の職務内容について体験を通して学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

保育実習Iの反省から、自己の目標を明確に持ち、実習保育所でのオリエンテーションを踏まえ、必要な準備をする。

授業の概要及び授業計画

7月末から8月上旬、各自が希望した保育所において11日間（88時間）実習する。

保育所の役割や機能の具体的理解

デイリープログラムの理解と、生活の流れに応じた実践

保育士の指導のもとに乳幼児の保育を担当

個人差についての理解とそれに応じた指導

職員間のチームワークと職務分担の理解

保護者とのコミュニケーションや連携の方法

多様な保育サービスの体験と必要性の理解

子育て支援の実際と地域社会との連携

乳幼児の実態に即した週案、日案の作成と保育実践・評価

授業計画表

成績評価法

実習保育所での評価および実習日誌により総合的に評価する。

参考書

実習保育学(日本小児医事出版社)帆足英一 2006

シリーズ子どもと保育0～5歳児(かもがわ出版)秋葉英則 2008

研究室（訪問先等）

長澤： 研究室（出講日は水・木・金）
設楽：226研究室（出講日は月・火・水・金）
藤村：223研究室（出講日は月・火・水・木）
穴戸：209研究室（出講日は火・水・木・金）
直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

shitara@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 2

fujimura@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 3

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515102901	
講義名	保育実習Ⅲ	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	90.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育士資格を取得しようとする者が選択で行う施設実習科目である。養護施設やケアの技術と知識を深めることを目的とする。加えて福祉施設の社会的なはたらきを総合的に理解することを目指す。したがって本実習に臨む際には、実践的な実習目標および計画を設定し、実行・評価（振り返り）することが求められる。到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、これらの全てを重視して実習に取り組む。

準備学習

本実習に臨む前提として、保育実習指導をはじめとする保育士科目や演習の内容を十分に理解しておく必要がある。

授業の概要及び授業計画

保育実習Ⅰ（施設）のように実習施設が限定されていないため、社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設等から、実習生自ら実習先と実習期間を選定することができる。また実習先は保育実習Ⅰ（施設）で指定される施設を含む。

実習時期は受入施設との調整がつけば、授業のある期間を除きいつでも可能である（8月上旬もしくは9月上旬に実施する学生が多い）。実習期間は保育実習Ⅰと同様に実質11日間である。

実習先の選定および実習受け入れ依頼（実習開始³ヶ月前を目途に決定）と実習先の調査（実習先として指定された施設についての学習）

実習目標の設定および実習日誌記入

事前オリエンテーションの参加と実習計画の策定

本実習（日程は実習先により異なるが実質11日間（90時間以上の実習に参加する）

実習反省・事後指導

レポート提出

実習反省・事後指導

授業計画表

特記事項等

29年度「保育実習Ⅰ（施設）」関連の授業外指導

5月25日（木）施設実習調書記入

5月27日（土）施設見学

6月23日（金）施設実習説明会

10月6日（金）施設実習レポート提出締め切り

10月24日（火）施設実習日誌提出締め切り

成績評価法

- ①実習施設による評価（総合評価・5段階及びコメント）70%
- ②実習への取組み状況及び実習日誌（10%）
- ③実習後レポート（20%）

以上により総合的に評価する

教科書

なし

参考書

『教育・保育・施設実習テキスト』（第2版）二階堂邦子編著 建帛社

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103301
講義名	社会的養護 AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会的養護の意義や理念・概念、社会的養護の制度や実際などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ社会的養護の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・社会的養護の理念と定義
 - 第2回 社会的養護の歴史
 - 第3回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第4回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第5回 社会的養護の制度・法体系
 - 第6回 社会的養護の仕組みと実施体系
 - 第7回 家庭養護と施設養護
 - 第8回 社会的養護の専門職
 - 第9回 施設養護の基本原理と実際
 - 第10回 施設養護とソーシャルワーク
 - 第11回 施設等の運営管理
 - 第12回 専門職の倫理の確立
 - 第13回 被措置児童等の虐待防止
 - 第14回 社会的養護と地域福祉
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習も行う。

授業計画表
成績評価法
授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。
準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。
教科書
相澤譲治・他『子どもと社会的養護の基本』学文社、2017年
参考書
橋本好市・他『演習・保育と社会的養護内容』みらい、2015年
学生へのメッセージ
家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階230研究室
オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。
授業用E-mail
tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103302
講義名	社会的養護 CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会的養護の意義や理念・概念、社会的養護の制度や実際などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ社会的養護の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・社会的養護の理念と定義
 - 第2回 社会的養護の歴史
 - 第3回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第4回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第5回 社会的養護の制度・法体系
 - 第6回 社会的養護の仕組みと実施体系
 - 第7回 家庭養護と施設養護
 - 第8回 社会的養護の専門職
 - 第9回 施設養護の基本原則と実際
 - 第10回 施設養護とソーシャルワーク
 - 第11回 施設等の運営管理
 - 第12回 専門職の倫理の確立
 - 第13回 被措置児童等の虐待防止
 - 第14回 社会的養護と地域福祉
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習も行う。

授業計画表
成績評価法
授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。
準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。
教科書
相澤譲治・他『子どもと社会的養護の基本』学文社、2017年
参考書
橋本好市・他『演習・保育と社会的養護内容』みらい、2015年
学生へのメッセージ
家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階230研究室
オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。
授業用E-mail
tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103303	
講義名	社会的養護 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

社会的養護の意義や理念・概念、社会的養護の制度や実際などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ社会的養護の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・社会的養護の理念と定義
 - 第2回 社会的養護の歴史
 - 第3回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第4回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第5回 社会的養護の制度・法体系
 - 第6回 社会的養護の仕組みと実施体系
 - 第7回 家庭養護と施設養護
 - 第8回 社会的養護の専門職
 - 第9回 施設養護の基本原則と実際
 - 第10回 施設養護とソーシャルワーク
 - 第11回 施設等の運営管理
 - 第12回 専門職の倫理の確立
 - 第13回 被措置児童等の虐待防止
 - 第14回 社会的養護と地域福祉
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習も行う。

授業計画表
成績評価法
授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。
準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。
教科書
相澤譲治・他『子どもと社会的養護の基本』学文社、2017年
参考書
橋本好市・他『演習・保育と社会的養護内容』みらい、2015年
学生へのメッセージ
家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階230研究室
オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。
授業用E-mail
tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103401	
講義名	子どもの食と栄養 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	入内澤 雅代	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、食育の基本とその内容及び食育のための環境を、地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

実習授業では、学んだ知識をもとに実践力を身につける。授業後にはレポートを提出する。

準備学習

子どもが健康に成長するためには日々の食生活が大切であるので、日頃から子どもをとりまく食環境や食に関する情報（ニュース、新聞など）に関心を持って授業に望んで欲しい。

事前にテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

随時、授業内容に関する小テストを実施する。

授業の概要及び授業計画

心身の発育・発達に重要な小児期の食を子どもの成長段階を追いながら学び、講義・演習・実習を通して保育者として適切な支援ができる能力を身につける。

第1回：子どもの健康と食生活の意義

第2回：栄養に関する基本的知識（1）（炭水化物・たんぱく質・脂質）

第3回：栄養に関する基本的知識（2）（ミネラル・ビタミン・消化と吸収）

第4回：栄養に関する基礎的知識（食事摂取基準など）

第5回子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義と食生活）

第6回：子どもの発育・発達と食生活（幼児期の心身の発達と食生活）

第7回：子どもの発育・発達と食生活（学童期の心身の発達と食生活）

第8回：食育の基本と内容

第9回：家庭や児童福祉施設における食事と栄養

第10回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養

第11回：小児食作りの基礎（献立・調理の基礎）

第12回：調乳・離乳食（実習）
第13回：幼児食（1～2歳児）
第14回：幼児食（3～5歳児）
第15回：学童食（実習）

期末試験

授業計画表

成績評価法

筆記試験・演習・実習レポート・小テスト・授業への取り組み状況を総合的に評価、100点満点とし60点以上を合格とする。

成績評価の割合は準備学習（予習・復習）10% 授業中の課題等20% 期末試験70%とする。

教科書

「最新子どもの食と栄養」 飯塚美和子他 著（学建書院）を使用する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 非常勤講師室（前期 月曜日 後期 月・金曜日）

講義コード	515103402
講義名	子どもの食と栄養 CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	入内澤 雅代	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、食育の基本とその内容及び食育のための環境を、地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

実習授業では、学んだ知識をもとに実践力を身につける。授業後にはレポートを提出する。

準備学習

子どもが健康に成長するためには日々の食生活が大切であるので、日頃から子どもをとりまく食環境や食に関する情報（ニュース、新聞など）に関心を持って授業に望んで欲しい。

事前にテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

随時、授業内容に関する小テストを実施する。

授業の概要及び授業計画

心身の発育・発達に重要な小児期の食を子どもの成長段階を追いながら学び、講義・演習・実習を通して保育者として適切な支援ができる能力を身につける。

第1回：子どもの健康と食生活の意義

第2回：栄養に関する基本的知識 (1) (炭水化物・たんぱく質・脂質)

第3回：栄養に関する基本的知識 (2) (ミネラル・ビタミン・消化と吸収)

第4回：栄養に関する基礎的知識 (食事摂取基準など)

第5回子どもの発育・発達と食生活 (乳児期の授乳・離乳の意義と食生活)

第6回：子どもの発育・発達と食生活 (幼児期の心身の発達と食生活)

第7回：子どもの発育・発達と食生活 (学童期の心身の発達と食生活)

第8回：食育の基本と内容

第9回：家庭や児童福祉施設における食事と栄養

第10回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養

第11回：小児食作りの基礎 (献立・調理の基礎)

第12回：調乳・離乳食（実習）
第13回：幼児食（1～2歳児）
第14回：幼児食（3～5歳児）
第15回：学童食（実習）

期末試験

授業計画表

成績評価法

筆記試験・演習・実習レポート・小テスト・授業への取り組み状況を総合的に評価、100点満点とし60点以上を合格とする。

成績評価の割合は準備学習（予習・復習）10% 授業中の課題等20% 期末試験70%とする。

教科書

「最新子どもの食と栄養」 飯塚美和子他 著（学建書院）を使用する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 非常勤講師室（前期 月曜日 後期 月・金曜日）

講義コード	515103403
講義名	子どもの食と栄養 EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	入内澤 雅代	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、食育の基本とその内容及び食育のための環境を、地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

実習授業では、学んだ知識をもとに実践力を身につける。授業後にはレポートを提出する。

準備学習

子どもが健康に成長するためには日々の食生活が大切であるので、日頃から子どもをとりまく食環境や食に関する情報（ニュース、新聞など）に関心を持って授業に望んで欲しい。

事前にテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

随時、授業内容に関する小テストを実施する。

授業の概要及び授業計画

心身の発育・発達に重要な小児期の食を子どもの成長段階を追いながら学び、講義・演習・実習を通して保育者として適切な支援ができる能力を身につける。

第1回：子どもの健康と食生活の意義

第2回：栄養に関する基本的知識（1）（炭水化物・たんぱく質・脂質）

第3回：栄養に関する基本的知識（2）（ミネラル・ビタミン・消化と吸収）

第4回：栄養に関する基礎的知識（食事摂取基準など）

第5回子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義と食生活）

第6回：子どもの発育・発達と食生活（幼児期の心身の発達と食生活）

第7回：子どもの発育・発達と食生活（学童期の心身の発達と食生活）

第8回：食育の基本と内容

第9回：家庭や児童福祉施設における食事と栄養

第10回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養

第11回：小児食作りの基礎（献立・調理の基礎）

第12回：調乳・離乳食（実習）
第13回：幼児食（1～2歳児）
第14回：幼児食（3～5歳児）
第15回：学童食（実習）

期末試験

授業計画表

成績評価法

筆記試験・演習・実習レポート・小テスト・授業への取り組み状況を総合的に評価、100点満点とし60点以上を合格とする。

成績評価の割合は準備学習（予習・復習）10% 授業中の課題等20% 期末試験70%とする。

教科書

「最新子どもの食と栄養」 飯塚美和子他 著（学建書院）を使用する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 非常勤講師室（前期 月曜日 後期 月・金曜日）

講義コード	515103501	
講義名	子どもの保健 ¹	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	通年	
講義区分		
基準単位数	4	
時間	0.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	寺本 チエ	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保育活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保険について理解する。
- 3.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 4.子どもの精神保健とその課題等について理解する。
- 5.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 6.施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

準備学習

日常生活の中で子どもに興味を持ち、よく観察し、また様々な子どもに関する情報を収集する。
 毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

教科書にそって小児の正常な発育、発達、栄養、保健について小児科医の経験を交え、新しい資料を加えて講義を進めていく。

〔授業計画〕

第1回：生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的

第2回：健康の概念と健康指標

第3回：まとめと演習

第4回：地域における保健活動と児童虐待防止

第5回：まとめと演習

第6回：生物としてのヒトの成り立ち

第7回：身体発育と保健

第8回：まとめと演習

第9回：生理機能の発達と保健

第10回：まとめと演習

第11回：運動機能の発達と保健

第12回：まとめと演習

第13回：精神機能の発達と保健

第14回：まとめと演習

第15回：子どもの健康状態の把握と主な疾患の特徴

第16回：まとめと演習

- 第17回：子どもの疾病の予防と適切な対応
- 第18回：まとめと演習
- 第19回：子どもの生活環境と精神保健
- 第20回：まとめと演習
- 第21回：子どもの心の健康とその課題
- 第22回：まとめと演習
- 第23回：保育環境整備と保健
- 第24回：まとめと演習
- 第25回：保育現場における衛生管理
- 第26回：保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
- 第27回：職員間の連携と組織的取組
- 第28回：母子保健対策と保育
- 第29回：家庭・専門機関・地域との連携
- 第30回：まとめと演習

授業計画表

成績評価法

小テスト、レポート内容、講義の受講態度、などを総合して評価する。

教科書

「わかりやすい小児保健」 西村 昴三（編著） 同文書院 2200円

参考書

講義内容に応じて適時提示

学生へのメッセージ

保育者になるにあたっての最低限の小児の発育、発達、疾患への対応、健康とは何かを学んでほしい。

講義コード	515103601
講義名	子どもの保健II AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	糸井 優子	指定なし
指定なし	上田 美和	指定なし
指定なし	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児の成長と発達をふまえて、保育者として求められている乳幼児の健康の保持・増進方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

乳幼児の健康を保持・増進するための方法として、感染予防と事故防止、そしてアクシデントや病気に対処するための技能を身につける。

※授業は、糸井・上田の2名がオムニバスで行う。

評価については、15回の授業の前半と後半で試験を行うほか、各授業の担当者から課題等の提出を求めて行う。

(レポート70%・提出課題20%・授業中に行う作業課題等10%)

準備学習

- ・子どもや保育者に関するトピックに関心を持ち、積極的に情報収集をすること。
- ・「子どもの保健」をはじめ、既習の知識をフル活用できるようにしておくこと。
- ・実習場面を想起できるように実習日誌等を整理しておくこと。
- ・自分の母子健康手帳を見つめ、自分の成長過程を振り返ってみよう。そして 母子健康手帳の内容やその意味を考えておくこと。
- ・毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス
保育における保育計画と保健活動（糸井）
- 第2回 子どもの保健にかかる個別対応と子ども集団全体の保健と安全・衛生（糸井）
- 第3回 子供の健康増進と保育の環境（糸井）
- 第4回 子供の生活習慣と心身の健康（糸井）
- 第5回 子供の発達援助と保健活動（糸井）
- 第6回 体調不良や障害が発生した場合の対応（糸井）
- 第7回 感染症の予防と対策（糸井）
- 第8回 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（上田）
- 第9回 乳児への適切な対応（上田）
- 第10回 障害をもつ子どもへの適切な対応（上田）
- 第11回 事故防止および救急蘇生法の習得（上田）
- 第12回 保育における看護と救急処置（上田）
- 第13回 災害への備えと危機管理（糸井）
- 第14回 子どもの養育環境と心の健康問題（上田）
- 第15回 心とからだの健康づくりと地域保健活動（上田）

授業計画表

成績評価法

レポート70%・提出課題20%・授業中に行う作業課題等10%

教科書

『子どもの保健II』松田博雄 金森三枝 編 中央法規

学生へのメッセージ

社会の動向とともに、子どもを取り巻く環境は良くも悪くも変化してきている。そこで健康や病気、事故の対応のみならず、予防の視点をもって、子どもたちの豊かな感性と健やかな成長と発達に責任をもってかかわれるようになってほしい。そして子どもの笑顔を引き出すことができるように共に学びましょう。

研究室（訪問先等）

028-667-7111（代）（非常勤講師控え室を呼び出してください）

講義コード	515103602
講義名	子どもの保健II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	糸井 優子	指定なし
指定なし	上田 美和	指定なし
指定なし	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児の成長と発達をふまえて、保育者として求められている乳幼児の健康の保持・増進方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

乳幼児の健康を保持・増進するための方法として、感染予防と事故防止、そしてアクシデントや病気に対処するための技能を身につける。

※授業は、糸井・上田の2名がオムニバスで行う。

評価については、15回の授業の前半と後半で試験を行うほか、各授業の担当者から課題等の提出を求めて行う。

(レポート70%・提出課題20%・授業中に行う作業課題等10%)

準備学習

- ・子どもや保育者に関するトピックに関心を持ち、積極的に情報収集をすること。
- ・「子どもの保健I」をはじめ、既習の知識をフル活用できるようにしておくこと。
- ・実習場面を想起できるように実習日誌等を整理しておくこと。
- ・自分の母子健康手帳を見つめ、自分の成長過程を振り返ってみよう。そして 母子健康手帳の内容やその意味を考えておくこと。
- ・毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス
保育における保育計画と保健活動（糸井）
- 第2回 子どもの保健にかかる個別対応と子ども集団全体の保健と安全・衛生（糸井）
- 第3回 子供の健康増進と保育の環境（糸井）
- 第4回 子供の生活習慣と心身の健康（糸井）
- 第5回 子供の発達援助と保健活動（糸井）
- 第6回 体調不良や障害が発生した場合の対応（糸井）
- 第7回 感染症の予防と対策（糸井）
- 第8回 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（上田）
- 第9回 乳児への適切な対応（上田）
- 第10回 障害をもつ子どもへの適切な対応（上田）
- 第11回 事故防止および救急蘇生法の習得（上田）
- 第12回 保育における看護と救急処置（上田）
- 第13回 災害への備えと危機管理（糸井）
- 第14回 子どもの養育環境と心の健康問題（上田）
- 第15回 心とからだの健康づくりと地域保健活動（上田）

授業計画表

成績評価法

レポート70%・提出課題20%・授業中に行う作業課題等10%

教科書

『子どもの保健II』松田博雄 金森三枝 編 中央法規

学生へのメッセージ

社会の動向とともに、子どもを取り巻く環境は良くも悪くも変化してきている。そこで健康や病気、事故の対応のみならず、予防の視点をもって、子どもたちの豊かな感性と健やかな成長と発達に責任をもってかかわれるようになってほしい。そして子どもの笑顔を引き出すことができるように共に学びましょう。

研究室（訪問先等）

028-667-7111（代）（非常勤講師控え室を呼び出してください）

講義コード	515103603
講義名	子どもの保健II EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	糸井 優子	指定なし
指定なし	上田 美和	指定なし
指定なし	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児の成長と発達をふまえて、保育者として求められている乳幼児の健康の保持・増進方法について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。

乳幼児の健康を保持・増進するための方法として、感染予防と事故防止、そしてアクシデントや病気に対処するための技能を身につける。

※授業は、糸井・上田の2名がオムニバスで行う。

評価については、15回の授業の前半と後半で試験を行うほか、各授業の担当者から課題等の提出を求めて行う。

(レポート70%・提出課題20%・授業中に行う作業課題等10%)

準備学習

- ・子どもや保育者に関するトピックに関心を持ち、積極的に情報収集をすること。
- ・「子どもの保健I」をはじめ、既習の知識をフル活用できるようにしておくこと。
- ・実習場面を想起できるように実習日誌等を整理しておくこと。
- ・自分の母子健康手帳を見つめ、自分の成長過程を振り返ってみよう。そして 母子健康手帳の内容やその意味を考えておくこと。
- ・毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス
保育における保育計画と保健活動（糸井）
- 第2回 子どもの保健にかかる個別対応と子ども集団全体の保健と安全・衛生（糸井）
- 第3回 子供の健康増進と保育の環境（糸井）
- 第4回 子供の生活習慣と心身の健康（糸井）
- 第5回 子供の発達援助と保健活動（糸井）
- 第6回 体調不良や障害が発生した場合の対応（糸井）
- 第7回 感染症の予防と対策（糸井）
- 第8回 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（上田）
- 第9回 乳児への適切な対応（上田）
- 第10回 障害をもつ子どもへの適切な対応（上田）
- 第11回 事故防止および救急蘇生法の習得（上田）
- 第12回 保育における看護と救急処置（上田）
- 第13回 災害への備えと危機管理（糸井）
- 第14回 子どもの養育環境と心の健康問題（上田）
- 第15回 心とからだの健康づくりと地域保健活動（上田）

授業計画表

成績評価法

レポート70%・提出課題20%・授業中に行う作業課題等10%

教科書

『子どもの保健II』松田博雄 金森三枝 編 中央法規

学生へのメッセージ

社会の動向とともに、子どもを取り巻く環境は良くも悪くも変化してきている。そこで健康や病気、事故の対応のみならず、予防の視点をもって、子どもたちの豊かな感性と健やかな成長と発達に責任をもってかかわれるようになってほしい。そして子どもの笑顔を引き出すことができるように共に学びましょう。

研究室（訪問先等）

028-667-7111（代）（非常勤講師控え室を呼び出してください）

講義コード	515103701	
講義名	相談援助 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

相談援助の意義やソーシャルワークの知識・技術・方法、ソーシャルワークの具体的展開などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

ソーシャルワークの展開過程と活用する技術・方法（ソーシャルワーク）を学び、保育・幼児教育の実務で実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：保育・幼児教育とソーシャルワーク
- 第2回 ソーシャルワークとは何か（教科書第1章）
- 第3回 ソーシャルワークの萌芽（教科書第2章）
- 第4回 ソーシャルワークの目的と価値（教科書第3章）
- 第5回 ソーシャルワークの倫理（教科書第4章）
- 第6回 ソーシャルワークの基本原則（教科書第5章）
- 第7回 保育者とソーシャルワーカーに共通する社会的使命（教科書第6章）
- 第8回 ソーシャルワークの対象と構成要素（教科書第7章）
- 第9回 ソーシャルワークの展開過程（教科書第8章）
- 第10回 ソーシャルワークの基本技法（教科書第9章）
- 第11回 ソーシャルワークの考え方（教科書第10章）
- 第12回 ソーシャルワークの新たな展開 [1]（教科書第11章）
- 第13回 ソーシャルワークの新たな展開 [2]（教科書第12章）
- 第14回 ソーシャルワークの新たな展開 [3]（教科書第13章）
- 第15回 授業の振り返りとまとめ（保育者による相談援助とソーシャルワーク）

期末試験

授業は、講義ならびに個人演習・グループ演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『ソーシャルワークへの招待 ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房、2017年

参考書

日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』晃洋書房、2014年

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援（子育て・親育ちの支援）も重要です。

本授業をとおして、ソーシャルワークが子育て・親育ちの支援に役立つことを学んでください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103702	
講義名	相談援助 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

相談援助の意義やソーシャルワークの知識・技術・方法、ソーシャルワークの具体的展開などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

ソーシャルワークの展開過程と活用する技術・方法（ソーシャルワーク）を学び、保育・幼児教育の実務で実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：保育・幼児教育とソーシャルワーク
- 第2回 ソーシャルワークとは何か（教科書第1章）
- 第3回 ソーシャルワークの萌芽（教科書第2章）
- 第4回 ソーシャルワークの目的と価値（教科書第3章）
- 第5回 ソーシャルワークの倫理（教科書第4章）
- 第6回 ソーシャルワークの基本原則（教科書第5章）
- 第7回 保育者とソーシャルワーカーに共通する社会的使命（教科書第6章）
- 第8回 ソーシャルワークの対象と構成要素（教科書第7章）
- 第9回 ソーシャルワークの展開過程（教科書第8章）
- 第10回 ソーシャルワークの基本技法（教科書第9章）
- 第11回 ソーシャルワークの考え方（教科書第10章）
- 第12回 ソーシャルワークの新たな展開 [1]（教科書第11章）
- 第13回 ソーシャルワークの新たな展開 [2]（教科書第12章）
- 第14回 ソーシャルワークの新たな展開 [3]（教科書第13章）
- 第15回 授業の振り返りとまとめ（保育者による相談援助とソーシャルワーク）

期末試験

授業は、講義ならびに個人演習・グループ演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『ソーシャルワークへの招待 ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房、2017年

参考書

日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』晃洋書房、2014年

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援（子育て・親育ちの支援）も重要です。

本授業をとおして、ソーシャルワークが子育て・親育ちの支援に役立つことを学んでください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103703
講義名	相談援助 EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

相談援助の意義やソーシャルワークの知識・技術・方法、ソーシャルワークの具体的展開などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

ソーシャルワークの展開過程と活用する技術・方法（ソーシャルワーク）を学び、保育・幼児教育の実務で実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：保育・幼児教育とソーシャルワーク
- 第2回 ソーシャルワークとは何か（教科書第1章）
- 第3回 ソーシャルワークの萌芽（教科書第2章）
- 第4回 ソーシャルワークの目的と価値（教科書第3章）
- 第5回 ソーシャルワークの倫理（教科書第4章）
- 第6回 ソーシャルワークの基本原則（教科書第5章）
- 第7回 保育者とソーシャルワーカーに共通する社会的使命（教科書第6章）
- 第8回 ソーシャルワークの対象と構成要素（教科書第7章）
- 第9回 ソーシャルワークの展開過程（教科書第8章）
- 第10回 ソーシャルワークの基本技法（教科書第9章）
- 第11回 ソーシャルワークの考え方（教科書第10章）
- 第12回 ソーシャルワークの新たな展開 [1]（教科書第11章）
- 第13回 ソーシャルワークの新たな展開 [2]（教科書第12章）
- 第14回 ソーシャルワークの新たな展開 [3]（教科書第13章）
- 第15回 授業の振り返りとまとめ（保育者による相談援助とソーシャルワーク）

期末試験

授業は、講義ならびに個人演習・グループ演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『ソーシャルワークへの招待 ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房、2017年

参考書

日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』晃洋書房、2014年

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援（子育て・親育ちの支援）も重要です。

本授業をとおして、ソーシャルワークが子育て・親育ちの支援に役立つことを学んでください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103801	
講義名	保育相談支援 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育相談支援の基礎知識や基本的技術・方法について学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、②知識・技能ならびに③実践力と実務能力を重視する。

様々な保育相談支援の事例検討をとおして展開過程と活用する技術・方法を学び、保育・幼児教育の実務で実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：保育と保護者への支援
- 第2回 保育の専門性と保育相談支援
- 第3回 保育相談支援における保育者の倫理と展開過程
- 第4回 子どもの最善の利益と保育相談支援
- 第5回 保護者との信頼関係の構築
- 第6回 保護者の養育力の向上
- 第7回 地域資源の活用と関係機関との連携・協力
- 第8回 保育相談支援の計画・記録・評価
- 第9回 保育所の特性を生かした保護者への支援
- 第10回 特別な支援を必要とする保護者への支援
- 第11回 問題・課題のある保護者への支援
- 第12回 保育所における保育相談支援
- 第13回 児童養護施設と母子生活支援施設における保育相談支援
- 第14回 児童発達支援センター（障がい児施設）における保育相談支援
- 第15回 授業の振り返りとまとめ（保育相談支援の知識・技術の整理と理解）

期末試験

授業は、主に前半で講義を行い、後半で演習（ディスカッションなど）を行う。

授業計画表
成績評価法 授業で課題に取り組む姿勢（50%）、期末試験の成績（50%）によって評価する。 準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。
教科書 小原敏郎・他『演習・保育と保護者への支援』みらい、2016年
参考書 日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』晃洋書房、2014年
学生へのメッセージ 保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを身につけてください。
研究室（訪問先等） 坪井：中央研究棟2階230号室 オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。
授業用E-mail tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103802	
講義名	保育相談支援 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育相談支援の基礎知識や基本的技術・方法について学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、②知識・技能ならびに③実践力と実務能力を重視する。

様々な保育相談支援の事例検討をとおして展開過程と活用する技術・方法を学び、保育・幼児教育の実務で実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：保育と保護者への支援
- 第2回 保育の専門性と保育相談支援
- 第3回 保育相談支援における保育者の倫理と展開過程
- 第4回 子どもの最善の利益と保育相談支援
- 第5回 保護者との信頼関係の構築
- 第6回 保護者の養育力の向上
- 第7回 地域資源の活用と関係機関との連携・協力
- 第8回 保育相談支援の計画・記録・評価
- 第9回 保育所の特性を生かした保護者への支援
- 第10回 特別な支援を必要とする保護者への支援
- 第11回 問題・課題のある保護者への支援
- 第12回 保育所における保育相談支援
- 第13回 児童養護施設と母子生活支援施設における保育相談支援
- 第14回 児童発達支援センター（障がい児施設）における保育相談支援
- 第15回 授業の振り返りとまとめ（保育相談支援の知識・技術の整理と理解）

期末試験

授業は、主に前半で講義を行い、後半で演習（ディスカッションなど）を行う。

授業計画表
成績評価法 授業で課題に取り組む姿勢（50%）、期末試験の成績（50%）によって評価する。 準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。
教科書 小原敏郎・他『演習・保育と保護者への支援』みらい、2016年
参考書 日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』晃洋書房、2014年
学生へのメッセージ 保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを身につけてください。
研究室（訪問先等） 坪井：中央研究棟2階230号室 オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。
授業用E-mail tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103803	
講義名	保育相談支援 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育相談支援の基礎知識や基本的技術・方法について学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。とりわけ、②知識・技能ならびに③実践力と実務能力を重視する。

様々な保育相談支援の事例検討をとおして展開過程と活用する技術・方法を学び、保育・幼児教育の実務で実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：保育と保護者への支援
- 第2回 保育の専門性と保育相談支援
- 第3回 保育相談支援における保育者の倫理と展開過程
- 第4回 子どもの最善の利益と保育相談支援
- 第5回 保護者との信頼関係の構築
- 第6回 保護者の養育力の向上
- 第7回 地域資源の活用と関係機関との連携・協力
- 第8回 保育相談支援の計画・記録・評価
- 第9回 保育所の特性を生かした保護者への支援
- 第10回 特別な支援を必要とする保護者への支援
- 第11回 問題・課題のある保護者への支援
- 第12回 保育所における保育相談支援
- 第13回 児童養護施設と母子生活支援施設における保育相談支援
- 第14回 児童発達支援センター（障がい児施設）における保育相談支援
- 第15回 授業の振り返りとまとめ（保育相談支援の知識・技術の整理と理解）

期末試験

授業は、主に前半で講義を行い、後半で演習（ディスカッションなど）を行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢（50%）、期末試験の成績（50%）によって評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

小原敏郎・他『演習・保育と保護者への支援』みらい、2016年

参考書

日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』晃洋書房、2014年

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを身につけてください。

研究室（訪問先等）

坪井：中央研究棟2階230号室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103901	
講義名	児童家庭福祉 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

児童家庭福祉の意義や児童の人権、児童家庭福祉の制度や実施体系などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ児童家庭福祉の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・人口減少時代と子ども家庭福祉
 - 第2回 子ども家庭福祉とは
 - 第3回 子ども家庭福祉のあゆみ
 - 第4回 子どもの貧困への対応
 - 第5回 子どもと家庭への支援活動指針—児童の権利に関する条約
 - 第6回 子どもと家庭を支援する法の理念
 - 第7回 子どもと家庭を支援する施設・機関の理念
 - 第8回 子どもと家庭を支援する社会的養護の理念
 - 第9回 子どもと家庭を支援する専門職
 - 第10回 子どもと家庭を支援するためのソーシャルワーク
 - 第11回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉①—子どもへの虐待と非行
 - 第12回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉②—障がいのある子ども
 - 第13回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉③—ひとり親家庭
 - 第14回 子育て支援の実際 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習およびボランティア体験を踏まえた演習も行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『シリーズ・社会福祉の視座3 子ども家庭福祉への招待』ミネルヴァ書房、2018年

参考書

相澤譲治・他『保育実践と児童家庭福祉論』勁草書房、2017年

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子育て・親育ちを支援する児童家庭福祉の仕組み（政策や法律など）や取り組み（実践）と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と児童家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230号室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103902
講義名	児童家庭福祉 CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

児童家庭福祉の意義や児童の人権、児童家庭福祉の制度や実施体系などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ児童家庭福祉の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・人口減少時代と子ども家庭福祉
 - 第2回 子ども家庭福祉とは
 - 第3回 子ども家庭福祉のあゆみ
 - 第4回 子どもの貧困への対応
 - 第5回 子どもと家庭への支援活動指針—児童の権利に関する条約
 - 第6回 子どもと家庭を支援する法の理念
 - 第7回 子どもと家庭を支援する施設・機関の理念
 - 第8回 子どもと家庭を支援する社会的養護の理念
 - 第9回 子どもと家庭を支援する専門職
 - 第10回 子どもと家庭を支援するためのソーシャルワーク
 - 第11回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉①—子どもへの虐待と非行
 - 第12回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉②—障がいのある子ども
 - 第13回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉③—ひとり親家庭
 - 第14回 子育て支援の実際 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習およびボランティア体験を踏まえた演習も行う。

授業計画表
成績評価法
授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。
準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。
教科書
北川清一・他『シリーズ・社会福祉の視座3 子ども家庭福祉への招待』ミネルヴァ書房、2018年
参考書
相澤譲治・他『保育実践と児童家庭福祉論』勁草書房、2017年
学生へのメッセージ
保育・幼児教育の仕事は、子育て・親育ちを支援する児童家庭福祉の仕組み（政策や法律など）や取り組み（実践）と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と児童家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階230号室
オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。
授業用E-mail
tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515103903	
講義名	児童家庭福祉 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

児童家庭福祉の意義や児童の人権、児童家庭福祉の制度や実施体系などについて学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。とりわけ、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ児童家庭福祉の知識を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス・人口減少時代と子ども家庭福祉
 - 第2回 子ども家庭福祉とは
 - 第3回 子ども家庭福祉のあゆみ
 - 第4回 子どもの貧困への対応
 - 第5回 子どもと家庭への支援活動指針—児童の権利に関する条約
 - 第6回 子どもと家庭を支援する法の理念
 - 第7回 子どもと家庭を支援する施設・機関の理念
 - 第8回 子どもと家庭を支援する社会的養護の理念
 - 第9回 子どもと家庭を支援する専門職
 - 第10回 子どもと家庭を支援するためのソーシャルワーク
 - 第11回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉①—子どもへの虐待と非行
 - 第12回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉②—障がいのある子ども
 - 第13回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉③—ひとり親家庭
 - 第14回 子育て支援の実際 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ
- 期末試験

授業は、主に講義を行い、授業内レポートなどの課題学習およびボランティア体験を踏まえた演習も行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

北川清一・他『シリーズ・社会福祉の視座3 子ども家庭福祉への招待』ミネルヴァ書房、2018年

参考書

相澤譲治・他『保育実践と児童家庭福祉論』勁草書房、2017年

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子育て・親育ちを支援する児童家庭福祉の仕組み（政策や法律など）や取り組み（実践）と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と児童家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230号室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104001	
講義名	家庭支援論 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

家庭の意義・機能について理解し、保育が担う役割について考察を行う。保育は、家族・家庭の子育てを支援する存在である。具体的な支援内容は、各家庭の特徴や、家庭を取り巻く社会的状況によって変化する。そこで、現代家庭の諸相と家庭を取り巻く社会的状況についてまず学び、続いて家族理解と支援活動の実際、多様なニーズに対応する関係諸機関との連携について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業中の演習予定にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 家庭支援とは何か
- 第2回 家庭と社会的状況の変化
- 第3回 家庭の意義と機能
- 第4回 家族の諸相—親になるプロセス① 母親になる
- 第5回 家族の諸相—親になるプロセス② 母親になる (つづき)
- 第6回 家族の諸相—親になるプロセス② 父親になる
- 第7回 男女共同参画社会とワークライフバランス① 基礎知識
- 第8回 男女共同参画社会とワークライフバランス② 討論
- 第9回 家庭支援の方法と過程① (支援の基礎知識と考え方)
- 第10回 家庭支援の方法と過程② (事例検討)
- 第11回 特別なニーズを持つ家庭への支援① (障害を持つ子どもと家族)
- 第12回 特別なニーズを持つ家庭への支援② (ひとり親家族とステップファミリー)
- 第13回 特別なニーズを持つ家庭への支援③ (要保護児童がいる家庭)
- 第14回 保護者と保育者の関係づくり
- 第15回 家庭支援の展開と関係機関との連携

期末試験

家庭と家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。

テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。

授業計画表

成績評価法

期末レポート60%、授業への取り組み姿勢・課題の提出40%で総合的に評価する。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

真橋美智子ほか（2008年）『家族の発達支援と家庭教育』（大学図書出版）

橋本真紀・山懸文治編（2011年）『よくわかる 家庭支援論』（ミネルヴァ書房）

柏木恵子（2007年）『よくわかる家族心理学』（ミネルヴァ書房）

柏木恵子（2003年）『家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点』（東京大学出版界）

佐々木正美（2012年）『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』（小学館）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階226研究室

月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104002	
講義名	家庭支援論 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

家庭の意義・機能について理解し、保育が担う役割について考察を行う。保育は、家族・家庭の子育てを支援する存在である。具体的な支援内容は、各家庭の特徴や、家庭を取り巻く社会的状況によって変化する。そこで、現代家庭の諸相と家庭を取り巻く社会的状況についてまず学び、続いて家族理解と支援活動の実際、多様なニーズに対応する関係諸機関との連携について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業中の演習予定にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 家庭支援とは何か
- 第2回 家庭と社会的状況の変化
- 第3回 家庭の意義と機能
- 第4回 家族の諸相—親になるプロセス① 母親になる
- 第5回 家族の諸相—親になるプロセス② 母親になる (つづき)
- 第6回 家族の諸相—親になるプロセス② 父親になる
- 第7回 男女共同参画社会とワークライフバランス① 基礎知識
- 第8回 男女共同参画社会とワークライフバランス② 討論
- 第9回 家庭支援の方法と過程① (支援の基礎知識と考え方)
- 第10回 家庭支援の方法と過程② (事例検討)
- 第11回 特別なニーズを持つ家庭への支援① (障害を持つ子どもと家族)
- 第12回 特別なニーズを持つ家庭への支援② (ひとり親家族とステップファミリー)
- 第13回 特別なニーズを持つ家庭への支援③ (要保護児童がいる家庭)
- 第14回 保護者と保育者の関係づくり
- 第15回 家庭支援の展開と関係機関との連携

期末試験

家庭と家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。

テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。

授業計画表

成績評価法

期末レポート60%、授業への取り組み姿勢・課題の提出40%で総合的に評価する。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

真橋美智子ほか（2008年）『家族の発達支援と家庭教育』（大学図書出版）

橋本真紀・山懸文治編（2011年）『よくわかる 家庭支援論』（ミネルヴァ書房）

柏木恵子（2007年）『よくわかる家族心理学』（ミネルヴァ書房）

柏木恵子（2003年）『家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点』（東京大学出版界）

佐々木正美（2012年）『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』（小学館）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階226研究室

月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104003	
講義名	家庭支援論 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

家庭の意義・機能について理解し、保育が担う役割について考察を行う。保育は、家族・家庭の子育てを支援する存在である。具体的な支援内容は、各家庭の特徴や、家庭を取り巻く社会的状況によって変化する。そこで、現代家庭の諸相と家庭を取り巻く社会的状況についてまず学び、続いて家族理解と支援活動の実際、多様なニーズに対応する関係諸機関との連携について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業中の演習予定にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 家庭支援とは何か
- 第2回 家庭と社会的状況の変化
- 第3回 家庭の意義と機能
- 第4回 家族の諸相—親になるプロセス① 母親になる
- 第5回 家族の諸相—親になるプロセス② 母親になる (つづき)
- 第6回 家族の諸相—親になるプロセス② 父親になる
- 第7回 男女共同参画社会とワークライフバランス① 基礎知識
- 第8回 男女共同参画社会とワークライフバランス② 討論
- 第9回 家庭支援の方法と過程① (支援の基礎知識と考え方)
- 第10回 家庭支援の方法と過程② (事例検討)
- 第11回 特別なニーズを持つ家庭への支援① (障害を持つ子どもと家族)
- 第12回 特別なニーズを持つ家庭への支援② (ひとり親家族とステップファミリー)
- 第13回 特別なニーズを持つ家庭への支援③ (要保護児童がいる家庭)
- 第14回 保護者と保育者の関係づくり
- 第15回 家庭支援の展開と関係機関との連携

期末試験

家庭と家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。

テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。

授業計画表

成績評価法

期末レポート60%、授業への取り組み姿勢・課題の提出40%で総合的に評価する。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

真橋美智子ほか（2008年）『家族の発達支援と家庭教育』（大学図書出版）
橋本真紀・山懸文治編（2011年）『よくわかる 家庭支援論』（ミネルヴァ書房）
柏木恵子（2007年）『よくわかる家族心理学』（ミネルヴァ書房）
柏木恵子（2003年）『家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点』（東京大学出版界）
佐々木正美（2012年）『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』（小学館）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階226研究室

月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104101
講義名	保育実習指導I (保育所) AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所の目的、機能を理解し、そこで生活する乳幼児の日常と保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストを下読みして授業に臨む事。

また、ボランティア活動等に積極的に参加し、乳幼児に関する実践的理解を深め、授業に臨む事。

毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

自己の課題を明確化し、将来の保育士としての自覚を高め、実習を円滑にすすめていくための知識・技術を身につける。

- 第1回：保育実習の意義と目的
- 第2回：保育実習の内容と方法
- 第3回：保育所の生活プログラム
- 第4回：保育士の職務内容と役割
- 第5回：実習に際しての留意事項と心構え
- 第6回：教材研究（遊具、玩具の理解と応用）
- 第7回：教材研究（絵本の活用）
- 第8回：教材研究（手作りおもちゃの製作）
- 第9回：指導計画の作成（乳児）
- 第10回：指導計画の作成（幼児）
- 第11回：保育における表現技術
- 第12回：実習における観察及び記録の要点

第13回：実習記録の書き方、生かし方
第14回：保育実習の反省と評価
第15回：自己の課題の明確化（自主研究発表会）
期末試験

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、課題・発表等60%、期末試験20%とする。

教科書

『子どもの育ちを捉えるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（北大路書房 2018）

参考書

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美（萌文書林 2016）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 209研究室

火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

029-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104102
講義名	保育実習指導I (保育所) CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所の目的、機能を理解し、そこで生活する乳幼児の日常と保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストを下読みして授業に臨む事。

また、ボランティア活動等に積極的に参加し、乳幼児に関する実践的理解を深め、授業に臨む事。

毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

自己の課題を明確化し、将来の保育士としての自覚を高め、実習を円滑にすすめていくための知識・技術を身につける。

- 第1回：保育実習の意義と目的
- 第2回：保育実習の内容と方法
- 第3回：保育所の生活プログラム
- 第4回：保育士の職務内容と役割
- 第5回：実習に際しての留意事項と心構え
- 第6回：教材研究（遊具、玩具の理解と応用）
- 第7回：教材研究（絵本の活用）
- 第8回：教材研究（手作りおもちゃの製作）
- 第9回：指導計画の作成（乳児）
- 第10回：指導計画の作成（幼児）
- 第11回：保育における表現技術
- 第12回：実習における観察及び記録の要点

第13回：実習記録の書き方、生かし方
第14回：保育実習の反省と評価
第15回：自己の課題の明確化（自主研究発表会）
期末試験

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、課題・発表等60%、レポート20%とする。

教科書

『子どもの育ちを捉えるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（北大路書房 2018）

参考書

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美（萌文書林 2016）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 209研究室

火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

029-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104103
講義名	保育実習指導I (保育所) EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所の目的、機能を理解し、そこで生活する乳幼児の日常と保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストを下読みして授業に臨む事。

また、ボランティア活動等に積極的に参加し、乳幼児に関する実践的理解を深め、授業に臨む事。

毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

自己の課題を明確化し、将来の保育士としての自覚を高め、実習を円滑にすすめていくための知識・技術を身につける。

- 第1回：保育実習の意義と目的
- 第2回：保育実習の内容と方法
- 第3回：保育所の生活プログラム
- 第4回：保育士の職務内容と役割
- 第5回：実習に際しての留意事項と心構え
- 第6回：教材研究（遊具、玩具の理解と応用）
- 第7回：教材研究（絵本の活用）
- 第8回：教材研究（手作りおもちゃの製作）
- 第9回：指導計画の作成（乳児）
- 第10回：指導計画の作成（幼児）
- 第11回：保育における表現技術
- 第12回：実習における観察及び記録の要点

第13回：実習記録の書き方、生かし方
第14回：保育実習の反省と評価
第15回：自己の課題の明確化（自主研究発表会）
期末試験

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、課題・発表等60%、期末試験20%とする。

教科書

『子どもの育ちを捉えるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（北大路書房 2018）

参考書

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美（萌文書林 2016）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 209研究室

火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

029-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104201	
講義名	保育実習指導I (施設) AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

施設実習の対象となる施設の種別及び目的・機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。2年次に行う施設実習先を選択する際に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり把握し、復習に役立てること。また、授業の予習として教科書の下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。

第1回. ガイダンス (今後の予定/なぜ施設実習を行うのか)

第2回. 施設の法的根拠と概要(1)情緒障害児短期治療施設

第3回. 施設の法的根拠と概要(2)情緒障害児短期治療施設の実際

第4回. 施設の法的根拠と概要(3)児童自立支援施設, 母子生活支援施設, 児相一時保護施設の概要と実際

第5回. 施設の法的根拠と概要(4)児童自立支援施設

第6回. 施設の法的根拠と概要(5)乳児院・児童厚生施設の概要

第7回. 施設の法的根拠と概要(6)母子生活支援施設の実際

第8回. 施設の法的根拠と概要(7)乳児院の実際

第9回. 先輩方のレポートから、実習中の事例について検討

第10回. 障害児者施設の概要及び関連法規

第11回. 児童養護施設の概要

第12回. 児童養護施設の実際

第13回. 実習の目標設定

第14回. 実習希望調査

第15回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて

期末試験

授業計画表

成績評価法

期末試験の成績 (80%) , 授業での課題等 (20%) によって評価する。

教科書

『教育・保育・施設実習テキスト』 (第3版) 二階堂邦子編著 建帛社

参考書

プリント資料を配布する。

研究室 (訪問先等)

中央研究棟 2階 213研究室

平日は授業時間を除き研究室にいますので気軽に訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104202	
講義名	保育実習指導I (施設) CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

施設実習の対象となる施設の種別及び目的・機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。2年次に行く施設実習先を選択する際に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり把握し、復習に役立てること。また、授業の予習として教科書の下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。

第1回. ガイダンス (今後の予定/なぜ施設実習を行うのか)

第2回. 施設の法的根拠と概要(1)情緒障害児短期治療施設

第3回. 施設の法的根拠と概要(2)情緒障害児短期治療施設の実際

第4回. 施設の法的根拠と概要(3)児童自立支援施設, 母子生活支援施設, 児相一時保護施設の概要と実際

第5回. 施設の法的根拠と概要(4)児童自立支援施設

第6回. 施設の法的根拠と概要(5)乳児院・児童厚生施設の概要

第7回. 施設の法的根拠と概要(6)母子生活支援施設の実際

第8回. 施設の法的根拠と概要(7)乳児院の実際

第9回. 先輩方のレポートから、実習中の事例について検討

第10回. 障害児者施設の概要及び関連法規

第11回. 児童養護施設の概要

第12回. 児童養護施設の実際

第13回. 実習の目標設定

第14回. 実習希望調査

第15回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて

期末試験

授業計画表

成績評価法

期末試験の成績 (80%) , 授業での課題等 (20%) によって評価する。

教科書

『教育・保育・施設実習テキスト』 (第3版) 二階堂邦子編著 建帛社

参考書

プリント資料を配布する。

研究室 (訪問先等)

中央研究棟 2階 213研究室

平日は授業時間を除き研究室にいますので気軽に訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104203	
講義名	保育実習指導I (施設) EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

施設実習の対象となる施設の種別及び目的・機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。2年次に行く施設実習先を選択する際に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり把握し、復習に役立てること。また、授業の予習として教科書の下読みをして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。

第1回. ガイダンス (今後の予定/なぜ施設実習を行うのか)

第2回. 施設の法的根拠と概要(1)情緒障害児短期治療施設

第3回. 施設の法的根拠と概要(2)情緒障害児短期治療施設の実際

第4回. 施設の法的根拠と概要(3)児童自立支援施設, 母子生活支援施設, 児相一時保護施設の概要と実際

第5回. 施設の法的根拠と概要(4)児童自立支援施設

第6回. 施設の法的根拠と概要(5)乳児院・児童厚生施設の概要

第7回. 施設の法的根拠と概要(6)母子生活支援施設の実際

第8回. 施設の法的根拠と概要(7)乳児院の実際

第9回. 先輩方のレポートから、実習中の事例について検討

第10回. 障害児者施設の概要及び関連法規

第11回. 児童養護施設の概要

第12回. 児童養護施設の実際

第13回. 実習の目標設定

第14回. 実習希望調査

第15回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて

期末試験

授業計画表

成績評価法

期末試験の成績 (80%) , 授業での課題等 (20%) によって評価する。

教科書

『教育・保育・施設実習テキスト』（第3版）二階堂邦子編著 建帛社

参考書

プリント資料を配布する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日は授業時間を除き研究室にいますので気軽に訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104301						
講義名	障害児保育I AB						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	木曜日						
代表時限	2時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・2年						
必須/選択	選択						
担当教員							
	<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>小栗 貴弘</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>	職種	氏名	所属	指定なし	小栗 貴弘	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	小栗 貴弘	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出たらは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

発表担当班の人は、教科書の内容をレジュメにまとめるだけでなく、関連する文献を読み、より詳細な内容を発表してください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方・班決め・担当決め)
- 第2回 障がいの概念と障がい児保育の歴史の変遷
- 第3回 障がい児保育の基本
- 第4回 肢体不自由児と視覚・聴覚障がい児の理解と支援
- 第5回 知的障がい児の理解と支援
- 第6回 発達障がい児 (ADHD, LD, ASD) の理解と支援
- 第7回 保育課程に基づく個別指導計画の作成と記録および評価
- 第8回 個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士のかかわりと育ち合い
- 第9回 職員間の協働
- 第10回 保護者や家族に対する理解と支援
- 第11回 地域の専門機関等との連携および個別の支援計画の作成
- 第12回 小学校等との連携
- 第13回 保険・医療における現状と課題

第14回 福祉・教育における現状と課題

第15回 支援の場の広がりつつながり

期末試験

本授業では、「理解し・要約し・発表する」ことを通して、障がい児への支援を主体的に考えてもらいます。

したがって、単に講義を聞いていけばよいのではなく、自ら積極的に学び、参加する姿勢が求められます。

基本的な各回の流れとしては、「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や発表、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 発表 15%
- ③ 復習テスト 15%
- ④ 期末テスト 40%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

井村圭壯・今井慶宗(編) 「障がい児保育の基本と課題」 学文社

参考書

適宜紹介します。

学生へのメッセージ

「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で、洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど、保育の現場で出会う「困った子」は、もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。

そんな子への支援を、みんなで考えましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104302	
講義名	障害児保育I CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出るからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

発表担当班の人は、教科書の内容をレジュメにまとめるだけでなく、関連する文献を読み、より詳細な内容を発表してください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め）
- 第2回 障がいの概念と障がい児保育の歴史の変遷
- 第3回 障がい児保育の基本
- 第4回 肢体不自由児と視覚・聴覚障がい児の理解と支援
- 第5回 知的障がい児の理解と支援
- 第6回 発達障がい児（ADHD, LD, ASD）の理解と支援
- 第7回 保育課程に基づく個別指導計画の作成と記録および評価
- 第8回 個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士のかかわりと育ち合い
- 第9回 職員間の協働
- 第10回 保護者や家族に対する理解と支援
- 第11回 地域の専門機関等との連携および個別の支援計画の作成
- 第12回 小学校等との連携
- 第13回 保険・医療における現状と課題

第14回 福祉・教育における現状と課題

第15回 支援の場の広がりをつながり

期末試験

本授業では、「理解し・要約し・発表する」ことを通して、障がい児への支援を主体的に考えてもらいます。

したがって、単に講義を聞いていけばよいのではなく、自ら積極的に学び、参加する姿勢が求められます。

基本的な各回の流れとしては、「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や発表、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 発表 15%
- ③ 復習テスト 15%
- ④ 期末テスト 40%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

井村圭壯・今井慶宗(編) 「障がい児保育の基本と課題」 学文社

参考書

適宜紹介します。

学生へのメッセージ

「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で、洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど、保育の現場で出会う「困った子」は、もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。

そんな子への支援を、みんなで考えましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代表)

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104303							
講義名	障害児保育Ⅰ E F							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	水曜日							
代表時限	2 時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教科に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>小栗 貴弘</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	小栗 貴弘	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	小栗 貴弘	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにもなつて、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出るからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

発表担当班の人は、教科書の内容をレジュメにまとめるだけでなく、関連する文献を読み、より詳細な内容を発表してください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め）
- 第2回 障がいの概念と障がい児保育の歴史の変遷
- 第3回 障がい児保育の基本
- 第4回 肢体不自由児と視覚・聴覚障がい児の理解と支援
- 第5回 知的障がい児の理解と支援
- 第6回 発達障がい児（ADHD, LD, ASD）の理解と支援
- 第7回 保育課程に基づく個別指導計画の作成と記録および評価
- 第8回 個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士のかかわりと育ち合い
- 第9回 職員間の協働
- 第10回 保護者や家族に対する理解と支援
- 第11回 地域の専門機関等との連携および個別の支援計画の作成
- 第12回 小学校等との連携
- 第13回 保険・医療における現状と課題

第14回 福祉・教育における現状と課題

第15回 支援の場の広がりつつながり

期末試験

本授業では、「理解し・要約し・発表する」ことを通して、障がい児への支援を主体的に考えてもらいます。

したがって、単に講義を聞いていけばよいのではなく、自ら積極的に学び、参加する姿勢が求められます。

基本的な各回の流れとしては、「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や発表、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 発表 15%
- ③ 復習テスト 15%
- ④ 期末テスト 40%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

井村圭壯・今井慶宗(編) 「障がい児保育の基本と課題」 学文社

参考書

適宜紹介します。

学生へのメッセージ

「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で、洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど、保育の現場で出会う「困った子」は、もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。

そんな子への支援を、みんなで考えましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104401							
講義名	障害児保育II AB							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	金曜日							
代表時限	2時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教科に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>小栗 貴弘</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	小栗 貴弘	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	小栗 貴弘	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出てからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では「障害児保育」で身につけた基本的な知識をもとに、事例検討を繰り返し、「自分自身で障害児への保育計画を立てられるようになる」ことを目標とします。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方・班決め)
- 第2回 発達検査① (WISC-IV: 言語理解)
- 第3回 発達検査② (WISC-IV: 知覚推理)
- 第4回 発達検査③ (WISC-IV: ワーキングメモリー)
- 第5回 発達検査④ (WISC-IV: 処理速度)
- 第6回 発達検査⑤ (田中ビネー知能検査)
- 第7回 中間テスト (論述)
- 第8回 ADHDおよび自閉症スペクトラム障害の疑似体験を通じた理解
- 第9回 LDの疑似体験を通じた理解
- 第10回 発達支援の技法① (感覚統合訓練, 応用行動分析など)
- 第11回 発達支援の技法② (SST, TEACCHプログラムなど)
- 第12回 個別の保育計画作成のポイント
- 第13回 個別の保育計画 作成① (計画立案)
- 第14回 個別の保育計画 作成② (小道具作成と発表準備)

第15回 個別の保育計画 発表
期末試験

授業計画の序盤では、発達検査を用いたワークを行いません。また、中盤では発達障害の疑似体験ワークを行いません。これらのワークを通して、保育の現場で出会う「困ったちゃん」たちが、どのようなところに「困り感」を抱えてつまづいているのか、より深い理解へとつなげます。

子どもたちがどのようなところで困っているのか理解できると、どうしてあげたらよいか少し見えてきますので、授業計画の終盤では「支援案を自分たちで考え出す」作業をしてもらいます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末レポートの成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 中間テスト 30%
- ③ 期末レポート 40%

教科書

井村圭壯・今井慶宗(編) 「障がい児保育の基本と課題」 学文社

参考書

適宜紹介します。

学生へのメッセージ

「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で、洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど、保育の現場で出会う「困った子」は、もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。

そんな子への支援を、みんなで考えましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104402	
講義名	障害児保育II CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出てからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では「障害児保育」で身につけた基本的な知識をもとに、事例検討を繰り返し、「自分自身で障害児への保育計画を立てられるようになる」ことを目標とします。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方・班決め)
- 第2回 発達検査① (WISC-IV: 言語理解)
- 第3回 発達検査② (WISC-IV: 知覚推理)
- 第4回 発達検査③ (WISC-IV: ワーキングメモリー)
- 第5回 発達検査④ (WISC-IV: 処理速度)
- 第6回 発達検査⑤ (田中ビネー知能検査)
- 第7回 中間テスト (論述)
- 第8回 ADHDおよび自閉症スペクトラム障害の疑似体験を通じた理解
- 第9回 LDの疑似体験を通じた理解
- 第10回 発達支援の技法① (感覚統合訓練, 応用行動分析など)
- 第11回 発達支援の技法② (SST, TEACCHプログラムなど)
- 第12回 個別の保育計画作成のポイント
- 第13回 個別の保育計画 作成① (計画立案)
- 第14回 個別の保育計画 作成② (小道具作成と発表準備)

第15回 個別の保育計画 発表
期末試験

授業計画の序盤では、発達検査を用いたワークを行いません。また、中盤では発達障害の疑似体験ワークを行いません。これらのワークを通して、保育の現場で出会う「困ったちゃん」たちが、どのようなところに「困り感」を抱えてつまづいているのか、より深い理解へとつなげます。

子どもたちがどのようなところで困っているのか理解できると、どうしてあげたらよいか少し見えてきますので、授業計画の終盤では「支援案を自分たちで考え出す」作業をしてもらいます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末レポートの成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 中間テスト 30%
- ③ 期末レポート 40%

教科書

井村圭壯・今井慶宗(編) 「障がい児保育の基本と課題」 学文社

参考書

適宜紹介します。

学生へのメッセージ

「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で、洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど、保育の現場で出会う「困った子」は、もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。

そんな子への支援を、みんなで考えましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104403							
講義名	障害児保育Ⅱ E F							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	金曜日							
代表時限	4 時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教科に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>小栗 貴弘</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	小栗 貴弘	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	小栗 貴弘	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

2007年に特別支援教育が始まり、教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって、幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。

保育の現場に出てからは、みなさんが自分自身で、障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって、本授業では「障害児保育」で身につけた基本的な知識をもとに、事例検討を繰り返し、「自分自身で障害児への保育計画を立てられるようになる」ことを目標とします。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方・班決め)
- 第2回 発達検査① (WISC-IV: 言語理解)
- 第3回 発達検査② (WISC-IV: 知覚推理)
- 第4回 発達検査③ (WISC-IV: ワーキングメモリー)
- 第5回 発達検査④ (WISC-IV: 処理速度)
- 第6回 発達検査⑤ (田中ビネー知能検査)
- 第7回 中間テスト (論述)
- 第8回 ADHDおよび自閉症スペクトラム障害の疑似体験を通じた理解
- 第9回 LDの疑似体験を通じた理解
- 第10回 発達支援の技法① (感覚統合訓練, 応用行動分析など)
- 第11回 発達支援の技法② (SST, TEACCHプログラムなど)
- 第12回 個別の保育計画作成のポイント
- 第13回 個別の保育計画 作成① (計画立案)
- 第14回 個別の保育計画 作成② (小道具作成と発表準備)

第15回 個別の保育計画 発表
期末試験

授業計画の序盤では、発達検査を用いたワークを行いません。また、中盤では発達障害の疑似体験ワークを行いません。これらのワークを通して、保育の現場で出会う「困ったちゃん」たちが、どのようなところに「困り感」を抱えてつまづいているのか、より深い理解へとつなげます。

子どもたちがどのようなところで困っているのか理解できると、どうしてあげたらよいか少し見えてきますので、授業計画の終盤では「支援案を自分たちで考え出す」作業をしてもらいます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末レポートの成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 中間テスト 30%
- ③ 期末レポート 40%

教科書

井村圭壯・今井慶宗(編) 「障がい児保育の基本と課題」 学文社

参考書

適宜紹介します。

学生へのメッセージ

「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で、洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど、保育の現場で出会う「困った子」は、もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。

そんな子への支援を、みんなで考えましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104501						
講義名	社会的養護内容 AB						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	火曜日						
代表時限	2時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教科に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・2年						
必須/選択	選択						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>坪井 真</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	坪井 真	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	坪井 真	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

本授業は、関連科目の『社会的養護』で学んだ知識を生かしながら、社会的養護の実際について学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②知識・技能ならびに③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ社会的養護の実践的な知識・技術・方法を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：社会的養護の実践と保育者
 - 第2回 社会的養護と「子どもの最善の利益」
 - 第3回 社会的養護と「子どもの権利」
 - 第4回 施設養護のプロセス
 - 第5回 事例検討 (1) 施設への入所前後の支援
 - 第6回 事例検討 (2) 個別支援計画の作成① (知的障がいのある人)
 - 第7回 事例検討 (3) 個別支援計画の作成② (乳児院で生活する子ども)
 - 第8回 事例検討 (4) 日常生活支援① (障がい児入所施設)
 - 第9回 事例検討 (5) 日常生活支援② (児童自立支援施設)
 - 第10回 事例検討 (6) 治療的支援 (情緒障がい児短期治療施設)
 - 第11回 事例検討 (7) 施設養護の自立支援
 - 第12回 事例検討 (8) ソーシャルワーク① (乳児院)
 - 第13回 事例検討 (9) ソーシャルワーク② (母子生活支援施設)
 - 第14回 「子どもの最善の利益」と保育者の役割 (演習)
 - 第15回 授業の振り返りとまとめ (社会的養護における実践の整理と理解)
- 期末試験

授業は、前半に講義を行い、後半に演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

橋本好市・他『演習・保育と社会的養護内容』みらい、2015年

参考書

相澤譲治・他『子どもと社会的養護の基本』学文社、2017年

学生へのメッセージ

家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

橋本好市・他『演習・保育と社会的養護内容』みらい、2015年

参考書

相澤譲治・他『子どもと社会的養護の基本』学文社、2017年

学生へのメッセージ

家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104503	
講義名	社会的養護内容 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	坪井 真	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業は、関連科目の『社会的養護』で学んだ知識を生かしながら、社会的養護の実際について学ぶ。

到達目標については、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②知識・技能ならびに③実践力と実務能力を重視する。

本授業で学んだ社会的養護の実践的な知識・技術・方法を生かしながら、保育・幼児教育の実務において実践できる能力を身につける。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨むこと。

また、予習・復習シートを活用し、本科目の事前学習・事後学習に取り組むこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 ガイダンス：社会的養護の実践と保育者
- 第2回 社会的養護と「子どもの最善の利益」
- 第3回 社会的養護と「子どもの権利」
- 第4回 施設養護のプロセス
- 第5回 事例検討 (1) 施設への入所前後の支援
- 第6回 事例検討 (2) 個別支援計画の作成① (知的障がいのある人)
- 第7回 事例検討 (3) 個別支援計画の作成② (乳児院で生活する子ども)
- 第8回 事例検討 (4) 日常生活支援① (障がい児入所施設)
- 第9回 事例検討 (5) 日常生活支援② (児童自立支援施設)
- 第10回 事例検討 (6) 治療的支援 (情緒障がい児短期治療施設)
- 第11回 事例検討 (7) 施設養護の自立支援
- 第12回 事例検討 (8) ソーシャルワーク① (乳児院)
- 第13回 事例検討 (9) ソーシャルワーク② (母子生活支援施設)
- 第14回 「子どもの最善の利益」と保育者の役割 (演習)
- 第15回 授業の振り返りとまとめ (社会的養護における実践の整理と理解)

期末試験

授業は、前半に講義を行い、後半に演習を行う。

授業計画表

成績評価法

授業で課題に取り組む姿勢と学習成果（50%）、期末試験の成績（50%）によって、総合的に評価する。

準備学習の学習成果も課題への取り組みとして成績評価に含まれる。

教科書

橋本好市・他『演習・保育と社会的養護内容』みらい、2015年

参考書

相澤譲治・他『子どもと社会的養護の基本』学文社、2017年

学生へのメッセージ

家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階230研究室

オフィスアワーは月曜日の昼休みです。直接、研究室を訪ねてください。

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104601	
講義名	地域福祉活動実践I	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	通年	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

地域での福祉活動を通して幼児教育や福祉の現場がもつニーズや課題を実践的に学ぶことを目標とする。活動を通し自発性・公益性・先駆性・コミュニケーション能力を身につけ、保育士資格や幼稚園教諭免許状を取得するために必要な実習に対し積極的に取り組むための基盤をつくる。到達目標については、学習成果における④人間性と協働性が該当し、これを重視する。

準備学習

本学での講義やサークル活動、新聞、ニュースなどを通して得た広範囲の地域活動情報から、その意義や自身の関心について整理してみる。

授業の概要及び授業計画

地域福祉に関連する活動への参画やボランティア活動の実績を単位として認定する。

〔授業計画〕

1 事前指導 — 情報提供、コーディネーション、指導（随時）

短大ボランティアセンターから情報提供を受けた地域福祉活動（ボランティアを含む）の中から自主的にテーマを選択（または受託）する過程と、選択後に短大ボランティアセンター等から行われる活動の意義・内容についての指導をもって事前指導とする。個人として得た依頼や情報から活動を行おうとする場合にも、短大ボランティアセンターもしくは当科目担当者に事前報告の上で指導を受けるものとする。

サークルとして参加する活動については、主催者との打合せやサークル内での諸準備および顧問教員の承認と、短大事務局への活動届出をもって事前指導に相当するものとする。

2 活動実践

地域福祉活動の実践（運営や参加）

3 報告書の提出

指定の書式により報告書を作成し、当科目担当者に提出する。複数人数や団体に活動を行った場合でも各個人がそれぞれに報告書を作成することとする。なお、活動内容により別途の報告を指示することがある。

授業計画表

特記事項等

報告書の用紙は中央研究棟2階213研究室（久野）にて配布している。活動後できるだけ早く記入し都度提出すること。

成績評価法

報告書をもとに、事前の計画に対する活動の達成度等から実活動時間を認定し、42時間以上（宿泊をとまなう場合は6日以上）の地域福祉活動の実践をもって単位を認定する。複数の活動時間を合算することができる。

教科書

なし

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104702	
講義名	地域福祉活動実践II	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	通年	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

地域での福祉活動を通して幼児教育や福祉の現場がもつニーズや課題を実践的に学ぶことを目標とする。活動を通し自発性・公益性・先駆性・コミュニケーション能力を身につけ、保育士資格や幼稚園教諭免許状を活かした社会貢献をするための基盤をつくる。

到達目標については、学習成果における④人間性と協働性を重視する。

準備学習

本学での講義やサークル活動、新聞、ニュースなどを通して得た広範囲の地域活動情報から、その意義や自身の関心について整理してみる。

授業の概要及び授業計画

地域福祉に関連する活動への参画やボランティア活動の実績を単位として認定する。

1 事前指導 — 情報提供、コーディネーション、指導 (随時)

短大ボランティアセンターから情報提供を受けた地域福祉活動 (ボランティアを含む) の中から自主的にテーマを選択 (または受託) する過程と、選択後に短大ボランティアセンター等から行われる活動の意義・内容についての指導をもって事前指導とする。個人として得た依頼や情報から活動を行おうとする場合にも、短大ボランティアセンターもしくは当科目担当者に事前報告の上で指導を受けるものとする。

サークルとして参加する活動については、主催者との打合せやサークル内での諸準備および顧問教員の承認と、短大事務局への活動届出をもって事前指導に相当するものとする。

2 活動実践

地域福祉活動の実践 (運営や参加)

3 報告書の提出

指定の書式により報告書を作成し、当科目担当教員に提出する。複数人数や団体の活動を行った場合でも各個人がそれぞれに報告書を作成することとする。なお、活動内容により別途の報告を指示することがある。

授業計画表

成績評価法

報告書をもとに、事前の計画に対する活動の達成度等から実活動時間を認定し、42時間以上（宿泊をともなう場合は6日以上）の地域福祉活動の実践をもって単位を認定する。複数の活動時間を合算することができる。

参考書

『幸せを届けるボランティア、不幸を招くボランティア』 田中 優 河出書房新社 ￥1,260

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104801
講義名	保育実習指導II AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	藤村 透子	指定なし
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	吉澤 麻衣	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所における実習の意義と目的を理解し、保育についての学びを深める。これまでに学んだ教科内容や実習経験などの関連性を踏まえ、保育の実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

保育実習I (保育所) での体験的学びを振り返り、各自の実習課題を明確にしておく。毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子ども理解を前提とし、さまざまな保育の実践力を身につけることを目指す。また子どもの状態に応じた適切なかわり保育の表現技術を生かした保育実践力を育成していく。さらに保育の具体的な計画の立案と実践、子どもの観察と記録、改善についても学んでいく。その中から、保育士の専門性と職業倫理について考えを深めていく。

〔授業計画〕

第1回：乳児保育～心身の健康の基礎を培い、幼児期へのつながりのある保育～

第2回：子どもの運動遊びについて① (走る、投げる、泳ぐなど)

第3回：「音のスケッチ」～音の地図を作ろう～

第4回：保育の記録 (実習調書、実習日誌、実習目標)

第5回：幼児保育～自主、自立及び協調性を養い、就学につながる発達の連続性を踏まえた保育～

第6回：子どもの運動遊びについて② (マット、跳び箱、鉄棒など)

第7回：子どもの音楽遊び

第8回：保育所の保育の計画及び実習指導案作成について

第9回：実習説明会 (実習保育所に関する事前指導と準備学習)

第10回：子ども最善の利益を考慮した保育

- 第11回：子どもの発達課題・発達段階の理解
- 第12回：保育活動への導入と絵本・紙芝居
- 第13回：保育所実習に向けて
- 第14回：子どもの保育と保護者支援および地域社会の保育環境
- 第15回：自己の課題の明確化

授業計画表

成績評価法

授業内小レポート及び期末レポートにより総合的に評価する。

参考書

保護者支援（風鳴社）永野典詞 2014
遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）幼少年教育研究所 2009

研究室（訪問先等）

長澤：227研究室（出講日は水・木・金）
設楽：226研究室（出講日は月・火・水・金）
藤村：223研究室（出講日は月・火・水・木）
穴戸：209研究室（出講日は火・水・木・金）

直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

shitara@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 2

fujimura@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 3

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104802
講義名	保育実習指導II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	藤村 透子	指定なし
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	吉澤 麻衣	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所における実習の意義と目的を理解し、保育についての学びを深める。これまでに学んだ教科内容や実習経験などの関連性を踏まえ、保育の実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

保育実習I (保育所) での体験的学びを振り返り、各自の実習課題を明確にしておく。毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子ども理解を前提とし、さまざまな保育の実践力を身につけることを目指す。また子どもの状態に応じた適切なかわりかわりと保育の表現技術を生かした保育実践力を育成していく。さらに保育の具体的な計画の立案と実践、子どもの観察と記録、改善についても学んでいく。その中から、保育士の専門性と職業倫理について考えを深めていく。

〔授業計画〕

第1回：乳児保育～心身の健康の基礎を培い、幼児期へのつながりのある保育～

第2回：子どもの運動遊びについて① (走る、投げる、泳ぐなど)

第3回：「音のスケッチ」～音の地図を作ろう～

第4回：保育の記録 (実習調書、実習日誌、実習目標)

第5回：幼児保育～自主、自立及び協調性を養い、就学につながる発達の連続性を踏まえた保育～

第6回：子どもの運動遊びについて② (マット、跳び箱、鉄棒など)

第7回：子どもの音楽遊び

第8回：保育所の保育の計画及び実習指導案作成について

第9回：実習説明会 (実習保育所に関する事前指導と準備学習)

第10回：子ども最善の利益を考慮した保育

- 第11回：子どもの発達課題・発達段階の理解
- 第12回：保育活動への導入と絵本・紙芝居
- 第13回：保育所実習に向けて
- 第14回：子どもの保育と保護者支援および地域社会の保育環境
- 第15回：自己の課題の明確化

授業計画表

成績評価法

授業内小レポート及び期末レポートにより総合的に評価する。

参考書

保護者支援（風鳴社）永野典詞 2014
遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）幼少年教育研究所 2009

研究室（訪問先等）

長澤：227研究室（出講日は水・木・金）
設楽：226研究室（出講日は月・火・水・金）
藤村：223研究室（出講日は月・火・水・木）
穴戸：209研究室（出講日は火・水・木・金）

直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

shitara@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 2

fujimura@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 3

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104803
講義名	保育実習指導II EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし
指定なし	藤村 透子	指定なし
指定なし	穴戸 良子	指定なし
指定なし	吉澤 麻衣	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育所における実習の意義と目的を理解し、保育についての学びを深める。これまでに学んだ教科内容や実習経験などの関連性を踏まえ、保育の実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

保育実習I (保育所) での体験的学びを振り返り、各自の実習課題を明確にしておく。毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

子ども理解を前提とし、さまざまな保育の実践力を身につけることを目指す。また子どもの状態に応じた適切なかわりかわりと保育の表現技術を生かした保育実践力を育成していく。さらに保育の具体的な計画の立案と実践、子どもの観察と記録、改善についても学んでいく。その中から、保育士の専門性と職業倫理について考えを深めていく。

〔授業計画〕

第1回：乳児保育～心身の健康の基礎を培い、幼児期へのつながりのある保育～

第2回：子どもの運動遊びについて① (走る、投げる、泳ぐなど)

第3回：「音のスケッチ」～音の地図を作ろう～

第4回：保育の記録 (実習調書、実習日誌、実習目標)

第5回：幼児保育～自主、自立及び協調性を養い、就学につながる発達の連続性を踏まえた保育～

第6回：子どもの運動遊びについて② (マット、跳び箱、鉄棒など)

第7回：子どもの音楽遊び

第8回：保育所の保育の計画及び実習指導案作成について

第9回：実習説明会 (実習保育所に関する事前指導と準備学習)

第10回：子ども最善の利益を考慮した保育

- 第11回：子どもの発達課題・発達段階の理解
- 第12回：保育活動への導入と絵本・紙芝居
- 第13回：保育所実習に向けて
- 第14回：子どもの保育と保護者支援および地域社会の保育環境
- 第15回：自己の課題の明確化

授業計画表

成績評価法

授業内小レポート及び期末レポートにより総合的に評価する。

参考書

保護者支援（風鳴社）永野典詞 2014
遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）幼少年教育研究所 2009

研究室（訪問先等）

長澤：227研究室（出講日は水・木・金）
設楽：226研究室（出講日は月・火・水・金）
藤村：223研究室（出講日は月・火・水・木）
穴戸：209研究室（出講日は火・水・木・金）

直接研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 1

shitara@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 2

fujimura@sakushin-u.ac.jp

参考E-mail 3

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515104901	
講義名	保育実習指導Ⅲ	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	久野 高志	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

「保育実習Ⅲ」の対象となる施設の種別及び目的・機能をについて学び、施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解する。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

実習の目的・要点を理解した上で、保育実習実施基準に規定されている「保育実習Ⅲ」の実習対象施設について、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について確認する。本学では「保育実習Ⅲ」での実習施設は自分で選択することができるので、実習施設の選定－依頼－決定まで過程を指導する。また、日誌の記録方法を確認するなど、実習にあたって必要な準備をすすめていく。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。

第1回：「保育実習Ⅲ」の目的と意義

第2回：実習対象施設の範囲を知る (1) (保育実習実施基準による施設種別の確認)

第3回：実習対象施設の範囲を知る (2) (保育実習実施基準による施設種別の確認)

第4回：実習施設の選択 (1) (施設種別を絞る)

第5回：実習施設の選択 (2) (実習希望施設の所在等についての概要調査)

第6回：実習依頼の心得 (依頼内容の確認とマナー)

第7回：実習先の確定 (報告と届け出について)

第8回：事前オリエンテーションでの確認事項

第9回：事例研究 (1) (前年度レポートから実習の実際を学ぶ)

第10回：事例研究 (2) (前年度レポートから実習で起こった実例を学ぶ)

第11回：事前学習報告・意見交換 (1) (実習先ごとに報告)

第12回：事前学習報告・意見交換 (2) (実習先ごとに報告)

第13回：実習に向けて（動機の明確化、実習目標をたてる）

第14回：実習に向けて（FAQ：実習現場での対応）

第15回：施設実習のスケジュールと評価表について

定期試験：期末レポートを定期試験にかえる

授業では講義による解説をもとに、自身で県内の実習対象施設を検索し実習先候補を絞っていく。

授業計画表

成績評価法

期末試験の成績（80%）、授業での課題等（20%）によって評価する。

教科書

『教育・保育・施設実習テキスト』（第3版）二階堂邦子編著 建帛社

参考書

プリント資料を配布する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 213研究室

平日は授業時間以外研究室に在室していることが多いので、気軽に訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515105001
講義名	基礎教養I AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	久野 高志	指定なし
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標としている。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採る。

Aパートの「文章作法」では、実習における実務に必要な文章力の基盤の獲得をめざす。

Bパートの「ディスカッション」では、アクティブラーニングの基礎となる基礎的なディスカッション能力の獲得をめざす。

Cパートの「図書館活用法」では、レポート作成など、短大の学びを支える図書館活用能力の獲得をめざす。

達成目標については、学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。特に②知識・技能を重視する。

準備学習

準備学習については、毎回の授業で担当教員が課題プリント等を配布・通知する。指示に沿った形で予習を行うこと。

復習については、毎回授業の最後に教員が復習課題を通知する。指示に沿った形で復習を行うこと。

授業の概要及び授業計画

Aパート

- 1 「1文1義」のわかりやすい文章
- 2 作短生としての考え方を文章に落とし込む
- 3 感想の書き方（「ふり返り」と「課題の発見」）
- 4 相手にやる気が伝わる文章の書き方
- 5 公文書における敬語の正しい使い方

Bパート

- 1 なぜ「話し合う」ことが大切なのか
- 2 短大生活で努力すべきことは何か
- 3 子どもと関わる責任について考える
- 4 保育者の仕事について考える
- 5 ボランティア活動について考える

Cパート「図書館活用法」

- 1 大学図書館での学習方法（館内施設の利用法）
- 2 図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法
- 3 図書館司書の仕事
- 4 公共図書館における障害者サービス
- 5 期末レポートに役立つ図書館の活用法

授業計画表

成績評価法

授業での提出物・期末試験の成績等を総合的に評価する。
準備学習（予習・復習）の取組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験（各パートの最終課題を含む）70%

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布する。

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。
短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212）

電話番号

西田研究室の扉に、連絡先電話番号・メールアドレスを掲出しています。

講義コード	515105002
講義名	基礎教養I CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	久野 高志	指定なし
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標としている。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採る。

Aパートの「文章作法」では、実習における実務に必要な文章力の基盤の獲得をめざす。

Bパートの「ディスカッション」では、アクティブラーニングの基礎となる基礎的なディスカッション能力の獲得をめざす。

Cパートの「図書館活用法」では、レポート作成など、短大の学びを支える図書館活用能力の獲得をめざす。

達成目標については、学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。特に②知識・技能を重視する。

準備学習

準備学習については、毎回の授業で担当教員が課題プリント等を配布・通知する。指示に沿った形で予習を行うこと。

復習については、毎回授業の最後に教員が復習課題を通知する。指示に沿った形で復習を行うこと。

授業の概要及び授業計画

Aパート

- 1 「1文1義」のわかりやすい文章
- 2 作短生としての考え方を文章に落とし込む
- 3 感想の書き方（「ふり返り」と「課題の発見」）
- 4 相手にやる気が伝わる文章の書き方
- 5 公文書における敬語の正しい使い方

Bパート

- 1 なぜ「話し合う」ことが大切なのか
- 2 短大生活で努力すべきことは何か
- 3 子どもと関わる責任について考える
- 4 保育者の仕事について考える
- 5 ボランティア活動について考える

Cパート「図書館活用法」

- 1 大学図書館での学習方法（館内施設の利用法）
- 2 図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法
- 3 図書館司書の仕事
- 4 公共図書館における障害者サービス
- 5 期末レポートに役立つ図書館の活用法

授業計画表

成績評価法

授業での提出物・期末試験の成績等を総合的に評価する。
準備学習（予習・復習）の取組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験（各パートの最終課題を含む）70%

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布する。

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。
短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212）

電話番号

西田研究室の扉に、連絡先電話番号・メールアドレスを掲出しています。

講義コード	515105003
講義名	基礎教養I EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	教養科目
科目分野名	B群
対象学部・年次	短期大学部・1年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	久野 高志	指定なし
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標としている。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採る。

Aパートの「文章作法」では、実習における実務に必要な文章力の基盤の獲得をめざす。

Bパートの「ディスカッション」では、アクティブラーニングの基礎となる基礎的なディスカッション能力の獲得をめざす。

Cパートの「図書館活用法」では、レポート作成など、短大の学びを支える図書館活用能力の獲得をめざす。

達成目標については、学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。特に②知識・技能を重視する。

準備学習

準備学習については、毎回の授業で担当教員が課題プリント等を配布・通知する。指示に沿った形で予習を行うこと。

復習については、毎回授業の最後に教員が復習課題を通知する。指示に沿った形で復習を行うこと。

授業の概要及び授業計画

Aパート

- 1 「1文1義」のわかりやすい文章
- 2 作短生としての考え方を文章に落としこむ
- 3 感想の書き方（「ふり返り」と「課題の発見」）
- 4 相手にやる気が伝わる文章の書き方
- 5 公文書における敬語の正しい使い方

Bパート

- 1 なぜ「話し合う」ことが大切なのか
- 2 短大生活で努力すべきことは何か
- 3 子どもと関わる責任について考える
- 4 保育者の仕事について考える
- 5 ボランティア活動について考える

Cパート「図書館活用法」

- 1 大学図書館での学習方法（館内施設の利用法）
- 2 図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法
- 3 図書館司書の仕事
- 4 公共図書館における障害者サービス
- 5 期末レポートに役立つ図書館の活用法

授業計画表

成績評価法

授業での提出物・期末試験の成績等を総合的に評価する。
準備学習（予習・復習）の取組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験（各パートの最終課題を含む）70%

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布する。

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。
短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212）

電話番号

西田研究室の扉に、連絡先電話番号・メールアドレスを掲出しています。

講義コード	515105101
講義名	基礎教養II AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	
科目分野名	
対象学部・年次	
必須/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	久野 高志	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した1年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標としている。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採る。

Aパートの「文章作法」では、就職試験の小論文対策を中心に、論理的な文章を書く能力の獲得をめざす。

Bパートの「ディスカッション」では、保育者の観点から考え、ディスカッションができる能力の獲得をめざす。

Cパートの「図書館活用法」では、保育者養成校での学習や実習に役立つ図書館活用能力の向上及び獲得をめざす。

到達目標については、学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協働性 が該当する。特に②知識・技能を重視する。

準備学習

準備学習については、毎回の授業で担当教員が課題プリント等を配布・通知する。指示に沿った形で予習を行うこと。

復習については、毎回授業の最後に教員が復習課題を通知する。指示に沿った形で復習を行うこと。

授業の概要及び授業計画

Aパート「文章作法」

- 1 小論文は「4つの引き出し」で書く
- 2 小論文「理想の保育士について」の書き方
- 3 小論文「少子化時代の保育について」の書き方
- 4 小論文「私が尊敬する人物」の書き方
- 5 採用試験「小論文」の傾向と対策

Bパート「ディスカッション」

- 1 現代の子どもを取り巻く環境について考える
- 2 現代の親子関係・家族関係について考える
- 3 男女協働参画社会について考える
- 4 子供の食育について考える
- 5 保育者をめざす自分の生き方について考える

Cパート「図書館活用法」

- 1 貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史
- 2 著作権についての基礎知識
- 3 図書館所蔵の児童文学作品を知ろう
- 4 「日本の昔ばなし」と「世界のおとぎばなし」
- 5 子供に読み聞かせしたい絵本をみつけよう

授業計画表

成績評価法

授業での課題や提出物・期末試験の成績等を総合的に評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験（各パートの最終課題を含む）70%

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。

学生へのメッセージ

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならぬものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。

1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりとつけて2年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずですよ。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212研究室）

電話番号

連絡先電話番号・メールアドレスは、西田研究室のドアに掲出してあります。

講義コード	515105102
講義名	基礎教養II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	
科目分野名	
対象学部・年次	
必須/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	久野 高志	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した1年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標としている。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採る。

Aパートの「文章作法」では、就職試験の小論文対策を中心に、論理的な文章を書く能力の獲得をめざす。

Bパートの「ディスカッション」では、保育者の観点から考え、ディスカッションができる能力の獲得をめざす。

Cパートの「図書館活用法」では、保育者養成校での学習や実習に役立つ図書館活用能力の向上及び獲得をめざす。

到達目標については、学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協働性 が該当する。特に②知識・技能を重視する。

準備学習

準備学習については、毎回の授業で担当教員が課題プリント等を配布・通知する。指示に沿った形で予習を行うこと。

復習については、毎回授業の最後に教員が復習課題を通知する。指示に沿った形で復習を行うこと。

授業の概要及び授業計画

Aパート「文章作法」

- 1 小論文は「4つの引き出し」で書く
- 2 小論文「理想の保育士について」の書き方
- 3 小論文「少子化時代の保育について」の書き方
- 4 小論文「私が尊敬する人物」の書き方
- 5 採用試験「小論文」の傾向と対策

Bパート「ディスカッション」

- 1 現代の子どもを取り巻く環境について考える
- 2 現代の親子関係・家族関係について考える
- 3 男女協働参画社会について考える
- 4 子供の食育について考える
- 5 保育者をめざす自分の生き方について考える

Cパート「図書館活用法」

- 1 貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史
- 2 著作権についての基礎知識
- 3 図書館所蔵の児童文学作品を知ろう
- 4 「日本の昔ばなし」と「世界のおとぎばなし」
- 5 子供に読み聞かせしたい絵本をみつけよう

授業計画表

成績評価法

授業での課題や提出物・期末試験の成績等を総合的に評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験（各パートの最終課題を含む）70%

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。

学生へのメッセージ

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならぬものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。

1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりとつけて2年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずです。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212研究室）

電話番号

連絡先電話番号・メールアドレスは、西田研究室のドアに掲出してあります。

講義コード	515105103
講義名	基礎教養II EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	
科目分野名	
対象学部・年次	
必須/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	久野 高志	指定なし
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した1年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標としている。

授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の3つのパートから成り、3名の教員によるオムニバス形式を採る。

Aパートの「文章作法」では、就職試験の小論文対策を中心に、論理的な文章を書く能力の獲得をめざす。

Bパートの「ディスカッション」では、保育者の観点から考え、ディスカッションができる能力の獲得をめざす。

Cパートの「図書館活用法」では、保育者養成校での学習や実習に役立つ図書館活用能力の向上及び獲得をめざす。

到達目標については、学習成果における ①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協働性 が該当する。特に②知識・技能を重視する。

準備学習

準備学習については、毎回の授業で担当教員が課題プリント等を配布・通知する。指示に沿った形で予習を行うこと。

復習については、毎回授業の最後に教員が復習課題を通知する。指示に沿った形で復習を行うこと。

授業の概要及び授業計画

Aパート「文章作法」

- 1 小論文は「4つの引き出し」で書く
- 2 小論文「理想の保育士について」の書き方
- 3 小論文「少子化時代の保育について」の書き方
- 4 小論文「私が尊敬する人物」の書き方
- 5 採用試験「小論文」の傾向と対策

Bパート「ディスカッション」

- 1 現代の子どもを取り巻く環境について考える
- 2 現代の親子関係・家族関係について考える
- 3 男女協働参画社会について考える
- 4 子供の食育について考える
- 5 保育者をめざす自分の生き方について考える

Cパート「図書館活用法」

- 1 貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史
- 2 著作権についての基礎知識
- 3 図書館所蔵の児童文学作品を知ろう
- 4 「日本の昔ばなし」と「世界のおとぎばなし」
- 5 子供に読み聞かせしたい絵本をみつけよう

授業計画表

成績評価法

授業での課題や提出物・期末試験の成績等を総合的に評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験（各パートの最終課題を含む）70%

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。

学生へのメッセージ

学生へのメッセージ

この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならぬものです。

15回の授業の中で、3名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。

1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりとつけて2年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずです。がんばりましょう。

研究室（訪問先等）

西田研究室（2212研究室）

電話番号

連絡先電話番号・メールアドレスは、西田研究室のドアに掲出してあります。

講義コード	515105201						
講義名	キャリアデザイン						
(副題)	H31年度削除						
開講責任部署	幼児教育科(短大)						
講義開講時期	通年						
講義区分							
基準単位数	1						
時間	30.00						
代表曜日	火曜日						
代表時限	5時限						
科目分類名	教養科目						
科目分野名	B群						
対象学部・年次	短期大学部・2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>指定なし</td><td>青木 章彦</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	青木 章彦	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	青木 章彦	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

この授業では、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度の育成を図る。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①、③、④を重視する。

準備学習

毎回、資料を学内サーバーにアップロードするので、事前に下読みしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：オリエンテーション 社会人基礎力について
- 第2回：自分を知る 自己PRと志望動機のフレームワーク
- 第3回：相手を知る 保育者の専門性について
- 第4回：就職にあたって必要なことをまとめる
- 第5回：就職説明会のまとめ
- 第6回：保育のプロフェッショナルになるには
- 第7回：保育現場でのキャリア形成について
- 第8回：保育現場でのコミュニケーションについて
- 第9回：グループワーク コミュニケーションスキルを磨く
- 第10回：ロールプレイ 園長先生と保育者に分かれて
- 第11回：講話(幼稚園園長)
- 第12回：講話を受けてのグループワーク 保育現場で求められる保育者とは
- 第13回：講話(保育園園長)
- 第14回：講話を受けてのグループワーク 長く保育者として勤めるには
- 第15回：まとめ 保育者としてのキャリア形成を改めて考える

毎回、プリントを配布する。また、詳しい資料は学内サーバーにアップロードするので、熟読してほしい。

授業計画表

成績評価法

レポート(80%)、授業中の演習課題(20%)により評価する。また、2/3以上出席しないと評価の

対象としない。

教科書

なし

但し、詳しい資料を学内サーバーにアップロードする。

参考書

『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ¥540

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室 火・水・木・金が出講日です。
直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111(代)

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	515105301	
講義名	キャリアデザイン	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	通年	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B群	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

この授業では、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度の育成を図る。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①、③、④を重視する。

準備学習

毎回、資料を学内サーバーにアップロードするので、事前に下読みしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：オリエンテーション 社会人基礎力について
- 第2回：自分を知る 自己PRと志望動機のフレームワーク
- 第3回：相手を知る 保育者の専門性について
- 第4回：就職にあたって必要なことをまとめる
- 第5回：就職説明会のまとめ
- 第6回：保育のプロフェッショナルになるには
- 第7回：保育現場でのキャリア形成について
- 第8回：保育現場でのコミュニケーションについて
- 第9回：グループワーク コミュニケーションスキルを磨く
- 第10回：ロールプレイ 園長先生と保育者に分かれて
- 第11回：講話 (幼稚園園長)
- 第12回：講話を受けてのグループワーク 保育現場で求められる保育者とは
- 第13回：講話 (保育園園長)
- 第14回：講話を受けてのグループワーク 長く保育者として勤めるには
- 第15回：まとめ 保育者としてのキャリア形成を改めて考える

毎回、プリントを配布する。また、詳しい資料は学内サーバーにアップロードするので、熟読してほしい。

授業計画表

成績評価法

レポート(80%)、授業中の演習課題(20%)により評価する。また、2/3以上出席しないと評価の

対象としない。

教科書

なし

但し、詳しい資料を学内サーバーにアップロードする。

参考書

『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ¥540

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室 火・水・木・金が出講日です。
直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111(代)

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519100101	
講義名	教育原理 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、子どもの教育に責任を持たなければならない専門職に必要とされる、教育学の基本的な理論について学ぶ。幼児期の教育が、長い人間の一生における出発点に位置づくものであることを考えるとき、教育の専門職は、広く「人間の成長」という観点から幼児期の教育が持つ意味を考察できるようになる必要がある。そこで、本授業では、幼児期の教育を大切な論点としつつも、その点にのみ視線を向けるのではなく、広く「人間の教育とは何か」という関心に基づいて議論を進めることを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

幼児期の教育のみにとどまらず、広く「人間の成長」に関心を持って、日頃から様々な経験をする事。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、先に記した通り、教育学の基本的な理論を学ぶ。具体的には、教育に関わる基本的な概念や思想、学校制度や幼児教育制度の特質、教師という職業の特質、教育課程の構造と教育方法の特質、社会教育と生涯学習の関係、家庭教育の特質等である。これらの様々な論点を、「幼児期の教育」という論点と関連させて考察を深める。

第1回：オリエンテーション—教育原理を学ぶとは

第2回：教育とは何か

第3回：教育目的とは何か (1) : その一般的特徴

第4回：教育目的とは何か (2) : 法令に見る教育目的

第5回：学校教育とは何か (1) : 学校教育制度の特質

第6回：学校教育とは何か (2) : 日本の「近代化」と学校教育制度の変遷

第7回：学校教育とは何か (3) : 幼稚園・保育所の設立から幼保二元体制の確立まで

第8回：「子ども」とは何か

第9回：「大人」とは何か
第10回：「人間形成」／「学び」とは何か
第11回：教育課程の様々な「コア・カリキュラム」と系統的教授
第12回：教育制度の様々な単線型と複線型(諸外国制度比較)
第13回：様々な教育実践
第14回：生涯学習社会と教育
第15回：まとめ—現代の教育課題

定期試験

授業計画表

成績評価法

毎時間記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、中間レポート及び定期試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

成績評価の割合は、コメント・質問(30%)、中間レポート(30%)、定期試験(40%)とする。

※この科目は幼稚園教育実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものであるため、その点注意すること。

教科書

福元真由美『はじめての子ども教育原理』有斐閣、2017年。

参考書

(1) 田嶋一他『やさしい教育原理』(新版補訂版)、有斐閣、2011年。

(2) 広田照幸・塩崎美穂(編)『教育原理—保育実践への教育学的アプローチ』樹村房、2010年。

研究室(訪問先等)

中央研究棟2階 225研究室

火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111(代)

授業用E-mail

iatsuhiro@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519100102						
講義名	教育原理 CD						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	2						
時間	30.00						
代表曜日	木曜日						
代表時限	1 時限						
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教職に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	必修						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>伊藤 敦広</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	伊藤 敦広	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	伊藤 敦広	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、子どもの教育に責任を持たなければならない専門職に必要とされる、教育学の基本的な理論について学ぶ。幼児期の教育が、長い人間の一生における出発点に位置づくものであることを考えるとき、教育の専門職は、広く「人間の成長」という観点から幼児期の教育が持つ意味を考察できるようになる必要がある。そこで、本授業では、幼児期の教育を大切な論点としつつも、その点にのみ視線を向けるのではなく、広く「人間の教育とは何か」という関心に基づいて議論を進めることを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

幼児期の教育のみにとどまらず、広く「人間の成長」に関心を持って、日頃から様々な経験を行うこと。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習(予習)やテキストの下読みして授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、先に記した通り、教育学の基本的な理論を学ぶ。具体的には、教育に関わる基本的な概念や思想、学校制度や幼児教育制度の特質、教師という職業の特質、教育課程の構造と教育方法の特質、社会教育と生涯学習の関係、家庭教育の特質等である。これらの様々な論点を、「幼児期の教育」という論点と関連させて考察を深める。

第1回：オリエンテーション—教育原理を学ぶとは

第2回：教育とは何か

第3回：教育目的とは何か (1) : その一般的特徴

第4回：教育目的とは何か (2) : 法令に見る教育目的

第5回：学校教育とは何か (1) : 学校教育制度の特質

第6回：学校教育とは何か (2) : 日本の「近代化」と学校教育制度の変遷

第7回：学校教育とは何か (3) : 幼稚園・保育所の設立から幼保二元体制の確立まで

第8回：「子ども」とは何か

第9回：「大人」とは何か
第10回：「人間形成」／「学び」とは何か
第11回：教育課程の様々な「コア・カリキュラム」と系統的教授
第12回：教育制度の様々な単線型と複線型(諸外国制度比較)
第13回：様々な教育実践
第14回：生涯学習社会と教育
第15回：まとめ—現代の教育課題

定期試験

授業計画表

成績評価法

毎時間記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、中間レポート及び定期試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

成績評価の割合は、コメント・質問 (30%)、中間レポート(30%)、定期試験(40%)とする。

※この科目は幼稚園教育実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものであるため、その点注意すること。

教科書

福元真由美『はじめての子ども教育原理』有斐閣、2017年。

参考書

(1) 田嶋一他『やさしい教育原理』(新版補訂版)、有斐閣、2011年。

(2) 広田照幸・塩崎美穂(編)『教育原理—保育実践への教育学的アプローチ』樹村房、2010年。

研究室(訪問先等)

中央研究棟2階 225研究室

火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111(代)

授業用E-mail

iatsuhiko@sakushin-u.ac.jp

第9回：「大人」とは何か
第10回：「人間形成」／「学び」とは何か
第11回：教育課程の様々な「コア・カリキュラム」と系統的教授
第12回：教育制度の様々な単線型と複線型(諸外国制度比較)
第13回：様々な教育実践
第14回：生涯学習社会と教育
第15回：まとめ—現代の教育課題

定期試験

授業計画表

成績評価法

毎時間記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、中間レポート及び定期試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

成績評価の割合は、コメント・質問 (30%)、中間レポート(30%)、定期試験(40%)とする。

※この科目は幼稚園教育実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものであるため、その点注意すること。

教科書

福元真由美『はじめての子ども教育原理』有斐閣、2017年。

参考書

(1) 田嶋一他『やさしい教育原理』（新版補訂版）、有斐閣、2011年。

(2) 広田照幸・塩崎美穂（編）『教育原理—保育実践への教育学的アプローチ』樹村房、2010年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室

火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111(代)

授業用E-mail

iatsuhiro@sakushin-u.ac.jp

授業計画表
成績評価法
定期試験60%、課題20%、授業への取り組み姿勢20%の割合で総合的に評価する。
教科書
適宜資料を配布する。
参考書
外山紀子・外山美樹（2010）『やさしい発達と学習』（有斐閣） 伊藤健次編（2008）『保育に生かす教育心理学』（みらい） 鹿取廣人他編（2011年）『心理学 第4版』（東京大学出版会） 梅本堯夫他（2014）『心理学—心のはたらきを知る 第2版』（サイエンス社）
研究室（訪問先等）
月・火・水・木が出講日です。直接研究室（中央研究棟2階226研究室）を訪ねてください。
電話番号
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp

授業計画表
成績評価法
定期試験60%、課題20%、授業への取り組み姿勢20%の割合で総合的に評価する。
教科書
適宜資料を配布する。
参考書
外山紀子・外山美樹（2010）『やさしい発達と学習』（有斐閣） 伊藤健次編（2008）『保育に生かす教育心理学』（みらい） 鹿取廣人他編（2011年）『心理学 第4版』（東京大学出版会） 梅本堯夫他（2014）『心理学—心のはたらきを知る 第2版』（サイエンス社）
研究室（訪問先等）
月・火・水・木が出講日です。直接研究室（中央研究棟2階226研究室）を訪ねてください。
電話番号
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519100603
講義名	教育心理学 EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	必修

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	設楽 紗英子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

効果的な保育・教育の実践を支える心理学の知識を獲得することを目指す。保育者としての資質を高めるためには、課題解決の方法を裏付ける知識に精通しておくことが望ましい。子どもに対する適切な教育的対応について学び、自らの実践に役立たせる。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

テーマごとに予習課題を指示します。授業の進度にあわせて準備を進めてください。また、次の授業までに授業中に配布した資料を復習をしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 教育心理学とは
- 第2回 教育心理学と保育実践
- 第3回 成熟と学習、発達① 発達のイメージ
- 第4回 成熟と学習、発達② 発達の速度とルート
- 第5回 思考① 思考の基礎知識
- 第6回 思考② 子どもの思考の限界
- 第7回 記憶① 記憶の基礎知識
- 第8回 記憶② 子どもの記憶力
- 第9回 学習① 学習の基礎知識
- 第10回 学習② 学習理論の応用
- 第11回 動機づけ① 動機づけの基礎知識
- 第12回 動機づけ② 動機づけ理論の応用
- 第13回 集団① 集団の特徴とプロセス
- 第14回 集団② 親密さの形成要因
- 第15回 教育心理学のまとめ
- 期末試験

子どもの認知や思考、学習者の適性、効果的な学習のあり方、学習を促す上での支援について扱う。

授業計画表
成績評価法
定期試験60%、課題20%、授業への取り組み姿勢20%の割合で総合的に評価する。
教科書
適宜資料を配布する。
参考書
外山紀子・外山美樹（2010）『やさしい発達と学習』（有斐閣） 伊藤健次編（2008）『保育に生かす教育心理学』（みらい） 鹿取廣人他編（2011年）『心理学 第4版』（東京大学出版会） 梅本堯夫他（2014）『心理学—心のはたらきを知る 第2版』（サイエンス社）
研究室（訪問先等）
月・火・水・木が出講日です。直接研究室（中央研究棟2階226研究室）を訪ねてください。
電話番号
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519100801	
講義名	教育相談 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな教育上の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが、本授業では、教育相談を通して子どもの支援や保護者の支援を行なうための、知識と技能を身につけることを目標とします。

子どもへの支援では、支援案を考える際の基礎となる理論を学んだ上で、具体的なアプローチを体験的に学びます。保護者への支援では、基本的なカウンセリング技能を学んだ上で、どのように助言を行なったり、連携を取っていくことが効果的なのかについて学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
- 第2回 応用行動分析学の基礎
- 第3回 応用行動分析学の技法
- 第4回 応用行動分析学の応用
- 第5回 行動療法の基礎
- 第6回 行動療法の技法・応用
- 第7回 ソーシャル・スキル・トレーニング 概論
- 第8回 ソーシャル・スキル・トレーニング 指導案作成
- 第9回 ソーシャル・スキル・トレーニング リハーサルと指導案の修正
- 第10回 ソーシャル・スキル・トレーニング 発表
- 第11回 大人の心の問題（統合失調症・躁鬱など）
- 第12回 大人の心の問題（強迫性障害・摂食障害など）
- 第13回 子どもの心の問題（チック・排泄障害など）
- 第14回 子どもの心の問題（睡眠時異常行動障害・PTSDなど）

第15回 保護者との面接
期末試験

授業計画の前半では子どもの支援方法、後半では大人や子どもの心の問題について学習していきます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 小テスト 30%
- ③ 期末テスト 40%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

学生へのメッセージ

保護者が自分よりも年上である、ということは往々にしてあります。それでも、みなさんは保護者の相談に応じなければなりません。

そんなときに大きな武器となるのが、専門職としての「アセスメントスキル」や「支援スキル」です。

本授業では、それらの知識やスキルを身に付けて、保護者からの教育相談に適切に応じることで、目の前の「その子」を支援することを目指します。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519100802							
講義名	教育相談 CD							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	30.00							
代表曜日	金曜日							
代表時限	2 時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教職に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>小栗 貴弘</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	小栗 貴弘	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	小栗 貴弘	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな教育上の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが、本授業では、教育相談を通して子どもの支援や保護者の支援を行なうための、知識と技能を身につけることを目標とします。

子どもへの支援では、支援案を考える際の基礎となる理論を学んだ上で、具体的なアプローチを体験的に学びます。保護者への支援では、基本的なカウンセリング技能を学んだ上で、どのように助言を行なったり、連携を取っていくことが効果的なのかについて学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
- 第2回 応用行動分析学の基礎
- 第3回 応用行動分析学の技法
- 第4回 応用行動分析学の応用
- 第5回 行動療法の基礎
- 第6回 行動療法の技法・応用
- 第7回 ソーシャル・スキル・トレーニング 概論
- 第8回 ソーシャル・スキル・トレーニング 指導案作成
- 第9回 ソーシャル・スキル・トレーニング リハーサルと指導案の修正
- 第10回 ソーシャル・スキル・トレーニング 発表
- 第11回 大人の心の問題（統合失調症・躁鬱など）
- 第12回 大人の心の問題（強迫性障害・摂食障害など）
- 第13回 子どもの心の問題（チック・排泄障害など）
- 第14回 子どもの心の問題（睡眠時異常行動障害・PTSDなど）

第15回 保護者との面接
期末試験

授業計画の前半では子どもの支援方法、後半では大人や子どもの心の問題について学習していきます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 小テスト 30%
- ③ 期末テスト 40%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

学生へのメッセージ

保護者が自分よりも年上である、ということは往々にしてあります。それでも、みなさんは保護者の相談に応じなければなりません。

そんなときに大きな武器となるのが、専門職としての「アセスメントスキル」や「支援スキル」です。

本授業では、それらの知識やスキルを身に付けて、保護者からの教育相談に適切に応じることで、目の前の「その子」を支援することを目指します。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519100803	
講義名	教育相談 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	小栗 貴弘	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育現場では、さまざまな教育上の問題に出会います。すでに、実習を通して出会っている学生もいるかもしれませんが、本授業では、教育相談を通して子どもの支援や保護者の支援を行なうための、知識と技能を身につけることを目標とします。

子どもへの支援では、支援案を考える際の基礎となる理論を学んだ上で、具体的なアプローチを体験的に学びます。保護者への支援では、基本的なカウンセリング技能を学んだ上で、どのように助言を行ったり、連携を取っていくことが効果的なのかについて学びます。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に、②③を重視します。

準備学習

毎回、授業の前に授業計画に示した内容について、教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方)
- 第2回 応用行動分析学の基礎
- 第3回 応用行動分析学の技法
- 第4回 応用行動分析学の応用
- 第5回 行動療法の基礎
- 第6回 行動療法の技法・応用
- 第7回 ソーシャル・スキル・トレーニング 概論
- 第8回 ソーシャル・スキル・トレーニング 指導案作成
- 第9回 ソーシャル・スキル・トレーニング リハーサルと指導案の修正
- 第10回 ソーシャル・スキル・トレーニング 発表
- 第11回 大人の心の問題 (統合失調症・躁鬱など)
- 第12回 大人の心の問題 (強迫性障害・摂食障害など)
- 第13回 子どもの心の問題 (チック・排泄障害など)
- 第14回 子どもの心の問題 (睡眠時異常行動障害・PTSDなど)

第15回 保護者との面接
期末試験

授業計画の前半では子どもの支援方法、後半では大人や子どもの心の問題について学習していきます。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物、期末試験の成績等によって評価します。

- ① 平常点 30%
- ② 小テスト 30%
- ③ 期末テスト 40%

毎回、授業の始めに前回の内容に関する復習テストを行います。復習テストの結果も成績評価に含まれます。必ず、前回の内容を復習して授業に臨んでください。

教科書

教科書は使用しません。毎回、プリントを配布します。

参考書

下山晴彦編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

学生へのメッセージ

保護者が自分よりも年上である、ということは往々にしてあります。それでも、みなさんは保護者の相談に応じなければなりません。

そんなときに大きな武器となるのが、専門職としての「アセスメントスキル」や「支援スキル」です。

本授業では、それらの知識やスキルを身に付けて、保護者からの教育相談に適切に応じることで、目の前の「その子」を支援することを目指します。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 220研究室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代表）

授業用E-mail

oguri@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400101
講義名	環境 (指導法) AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領の一つである「環境」は、子どもたちの身近な環境（自然および社会）に関する力を養う領域である。

この授業では、身近な環境と環境を利用した遊びの実践を通して、領域「環境」の理解を深める。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。時に①、②、③を重視する。

準備学習

作短日記（ミニレポート）を毎回提出すること。
教科書を下読みしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス 大人の視点と子どもの視点 作短日記（ミニレポート）
 第2回：タンポポの草花遊び
 第3回：第1章 環境を通して行う教育とは 幼稚園教育要領の解説
 第4回：第2章 人間の生活と環境
 第5回：環境新聞（レポート課題）の解説
 第6回：第3章 子どもと園の環境 第4章 誕生から歩行まで
 第7回：子どもの発達 発達のビデオを視聴してレポートを書く
 第8回：第5章 歩行から3歳まで 第6章 3歳児期
 第9回：第7章 4歳児期
 第10回：第8章 5歳児期
 第11回：子どもの発達と環境のまとめ
 第12回：第9章 物を扱う 第10章 生物を知る
 第13回：第11章 大きな自然を感じる 第12章 文字と数
 第14回：自然と子ども 季節を感じる遊び
 第15回：遊びの素材を考える

定期試験：試験を実施する（筆記試験）。

5領域の一つである「環境」について、教科書に沿って学ぶ。また、身近な環境を知るために、ミニレポート「作短日記」を実践し、毎回数名ずつ発表する。毎回、プリントを配布して

授業を進める。

授業計画表

成績評価法

定期試験（45%）、レポート（45%）、授業中の演習課題（10%）により評価する。
また、2/3以上出席しないと評価の対象としない。
レポート：環境新聞 課題：作短日記、草花遊び

教科書

『子どもと環境』 中沢和子 萌文書林 ¥1,680
『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
原本』 チャイルド本社 ¥540

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ¥1,680
『ふるさとも感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ¥1,995

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400102							
講義名	環境（指導法） CD							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科（短大）							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	火曜日							
代表時限	2時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教職に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>青木 章彦</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	青木 章彦	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	青木 章彦	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領の一つである「環境」は、子どもたちの身近な環境（自然および社会）に関わる力を養う領域である。

この授業では、身近な環境と環境を利用した遊びの実践を通して、領域「環境」の理解を深める。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。時に①、②、③を重視する。

準備学習

作短日記（ミニレポート）を毎回提出すること。
教科書を下読みしておくこと。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：ガイダンス 大人の視点と子どもの視点 作短日記（ミニレポート）
- 第2回：タンポポの草花遊び
- 第3回：第1章 環境を通して行う教育とは 幼稚園教育要領の解説
- 第4回：第2章 人間の生活と環境
- 第5回：環境新聞（レポート課題）の解説
- 第6回：第3章 子どもと園の環境 第4章 誕生から歩行まで
- 第7回：子どもの発達 発達のビデオを視聴してレポートを書く
- 第8回：第5章 歩行から3歳まで 第6章 3歳児期
- 第9回：第7章 4歳児期
- 第10回：第8章 5歳児期
- 第11回：子どもの発達と環境のまとめ
- 第12回：第9章 物を扱う 第10章 生物を知る
- 第13回：第11章 大きな自然を感じる 第12章 文字と数
- 第14回：自然と子ども 季節を感じる遊び
- 第15回：遊びの素材を考える

定期試験：試験を実施する（筆記試験）。

5領域の一つである「環境」について、教科書に沿って学ぶ。また、身近な環境を知るために、ミニレポート「作短日記」を実践し、毎回数名ずつ発表する。毎回、プリントを配布して

授業を進める。

授業計画表

成績評価法

定期試験（45%）、レポート（45%）、授業中の演習課題（10%）により評価する。
また、2/3以上出席しないと評価の対象としない。
レポート：環境新聞 課題：作短日記、草花遊び

教科書

『子どもと環境』 中沢和子 萌文書林 ¥1,680
『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
原本』 チャイルド本社 ¥540

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ¥1,680
『ふるさとも感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ¥1,995

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400103	
講義名	環境（指導法） EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	青木 章彦	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領の一つである「環境」は、子どもたちの身近な環境（自然および社会）に関わる力を養う領域である。

この授業では、身近な環境と環境を利用した遊びの実践を通して、領域「環境」の理解を深める。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。時に①、②、③を重視する。

準備学習

作短日記（ミニレポート）を毎回提出すること。

教科書を下読みしておくこと。

授業の概要及び授業計画

第1回：ガイダンス 大人の視点と子どもの視点 作短日記（ミニレポート）

第2回：タンポポの草花遊び

第3回：第1章 環境を通して行う教育とは 幼稚園教育要領の解説

第4回：第2章 人間の生活と環境

第5回：環境新聞（レポート課題）の解説

第6回：第3章 子どもと園の環境 第4章 誕生から歩行まで

第7回：子どもの発達 発達のビデオを視聴してレポートを書く

第8回：第5章 歩行から3歳まで 第6章 3歳児期

第9回：第7章 4歳児期

第10回：第8章 5歳児期

第11回：子どもの発達と環境のまとめ

第12回：第9章 物を扱う 第10章 生物を知る

第13回：第11章 大きな自然を感じる 第12章 文字と数

第14回：自然と子ども 季節を感じる遊び

第15回：遊びの素材を考える

定期試験：試験を実施する（筆記試験）。

5領域の一つである「環境」について、教科書に沿って学ぶ。また、身近な環境を知るために、ミニレポート「作短日記」を実践し、毎回数名ずつ発表する。毎回、プリントを配布して

授業を進める。

授業計画表

成績評価法

定期試験（45%）、レポート（45%）、授業中の演習課題（10%）により評価する。
また、2/3以上出席しないと評価の対象としない。
レポート：環境新聞 課題：作短日記、草花遊び

教科書

『子どもと環境』 中沢和子 萌文書林 ¥1,680
『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
原本』 チャイルド本社 ¥540

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ¥1,680
『ふるさとも感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ¥1,995

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400301	
講義名	教育実習指導 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、幼稚園での教育実習の意義を踏まえて、その内容および方法について基本的な理解を得ることを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

日頃から幼稚園に関わる各種報道について関心を持って触れてほしい。また、教科書(小櫃智子編『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社、2013年)及び参考図書『幼稚園教育要領解説』を、授業時間以外にもしっかりと目を通してほしい。

必ず事前に準備学習(予習)やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。また、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

幼稚園実習の前に、幼稚園教育の意義、幼稚園の役割と機能、実習の目的、実習への心構え、指導計画の立案、実習日誌の記入の仕方等の、実習を行う上で求められる基本的な知識および技能を学ぶ。

- 第1回：イントロダクション——「シラバス」の確認
- 第2回：幼稚園教育実習Iへ向けて短大生活で心がけてほしいこと
- 第3回：幼稚園実習の意義——実習で学ぶべきことと経験すべきこと
- 第4回：幼稚園とはどのようなところか——幼稚園という教育制度を知る
- 第5回：幼稚園における保育の実際——園での生活の一日の流れ
- 第6回：作新短大の「幼稚園実習I」で学ぶこと——養成校独自のルールについて
- 第7回：幼稚園実習への心構え——社会人としての一步を踏み出すために
- 第8回：幼稚園実習日誌の書き方①——実習の目標を立てる
- 第9回：幼稚園実習日誌の書き方②——事前オリエンテーションで学ぶこと
- 第10回：幼稚園実習日誌の書き方③——保育の「観察記録」の取り方
- 第11回：幼稚園実習日誌の書き方④——保育の「反省・考察」の仕方
- 第12回：幼稚園実習日誌の書き方⑤——日誌のまとめと提出
- 第13回：保育の計画と立案——「指導案」作成への導入

第14回：実習前の諸注意
第15回：幼稚園教育実習Iへ向けてのまとめ
期末試験

授業計画表

成績評価法

随時記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、小レポート、定期試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

定期試験の結果の比重が極めて大きいので、十分な予習・復習を行うこと。

※この科目は幼稚園教育実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものであるため、その点注意すること。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10% 授業中の課題等20% 期末試験70%とする。

教科書

基本的には授業内で配布するプリントを用いる。ただし、次の文献を適宜利用するので必ず購入すること。

小櫃智子編『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社、2013年。

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017年

徳永満理編著『幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド』チャイルド本社、2015年

阿部恵・鈴木みゆき編『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに、2002年

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 228研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	519400302	
講義名	教育実習指導 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、幼稚園での教育実習の意義を踏まえて、その内容および方法について基本的な理解を得ることを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

日頃から幼稚園に関わる各種報道について関心を持って触れてほしい。また、教科書(小櫃智子編『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社、2013年)及び参考図書『幼稚園教育要領解説』を、授業時間以外にもしっかりと目を通してほしい。

必ず事前に準備学習(予習)やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。また、次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

幼稚園実習の前に、幼稚園教育の意義、幼稚園の役割と機能、実習の目的、実習への心構え、指導計画の立案、実習日誌の記入の仕方等の、実習を行う上で求められる基本的な知識および技能を学ぶ。

- 第1回：イントロダクション——「シラバス」の確認
- 第2回：幼稚園教育実習Iへ向けて短大生活で心がけてほしいこと
- 第3回：幼稚園実習の意義——実習で学ぶべきことと経験すべきこと
- 第4回：幼稚園とはどのようなところか——幼稚園という教育制度を知る
- 第5回：幼稚園における保育の実際——園での生活の一日の流れ
- 第6回：作新短大の「幼稚園実習I」で学ぶこと——養成校独自のルールについて
- 第7回：幼稚園実習への心構え——社会人としての一步を踏み出すために
- 第8回：幼稚園実習日誌の書き方①——実習の目標を立てる
- 第9回：幼稚園実習日誌の書き方②——事前オリエンテーションで学ぶこと
- 第10回：幼稚園実習日誌の書き方③——保育の「観察記録」の取り方
- 第11回：幼稚園実習日誌の書き方④——保育の「反省・考察」の仕方
- 第12回：幼稚園実習日誌の書き方⑤——日誌のまとめと提出
- 第13回：保育の計画と立案——「指導案」作成への導入

第14回：実習前の諸注意
第15回：幼稚園教育実習Iへ向けてのまとめ
期末試験

授業計画表

成績評価法

随時記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、小レポート、定期試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

定期試験の結果の比重が極めて大きいので、十分な予習・復習を行うこと。

※この科目は幼稚園教育実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものであるため、その点注意すること。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10% 授業中の課題等20% 期末試験70%とする。

教科書

基本的には授業内で配布するプリントを用いる。ただし、次の文献を適宜利用するので必ず購入すること。

徳永満理編著『幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド』チャイルド本社、2015年。

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017年

徳永満理編著『幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド』チャイルド本社、2015年

阿部恵・鈴木みゆき編『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに、2002年

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	519400303	
講義名	教育実習指導 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、幼稚園での教育実習の意義を踏まえて、その内容および方法について基本的な理解を得ることを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

日頃から幼稚園に関わる各種報道について関心を持って触れてほしい。また、教科書(小櫃智子編『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社、2013年)及び参考図書『幼稚園教育要領解説』を、授業時間以外にもしっかりと目を通してほしい。

必ず事前に準備学習(予習)やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。また、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

幼稚園実習の前に、幼稚園教育の意義、幼稚園の役割と機能、実習の目的、実習への心構え、指導計画の立案、実習日誌の記入の仕方等の、実習を行う上で求められる基本的な知識および技能を学ぶ。

- 第1回：イントロダクション——「シラバス」の確認
- 第2回：幼稚園教育実習Iへ向けて短大生活で心がけてほしいこと
- 第3回：幼稚園実習の意義——実習で学ぶべきことと経験すべきこと
- 第4回：幼稚園とはどのようなところか——幼稚園という教育制度を知る
- 第5回：幼稚園における保育の実際——園での生活の一日の流れ
- 第6回：作新短大の「幼稚園実習I」で学ぶこと——養成校独自のルールについて
- 第7回：幼稚園実習への心構え——社会人としての一步を踏み出すために
- 第8回：幼稚園実習日誌の書き方①——実習の目標を立てる
- 第9回：幼稚園実習日誌の書き方②——事前オリエンテーションで学ぶこと
- 第10回：幼稚園実習日誌の書き方③——保育の「観察記録」の取り方
- 第11回：幼稚園実習日誌の書き方④——保育の「反省・考察」の仕方
- 第12回：幼稚園実習日誌の書き方⑤——日誌のまとめと提出
- 第13回：保育の計画と立案——「指導案」作成への導入

第14回：実習前の諸注意
第15回：幼稚園教育実習Iへ向けてのまとめ
期末試験

授業計画表

成績評価法

随時記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、小レポート、定期試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

定期試験の結果の比重が極めて大きいので、十分な予習・復習を行うこと。

※この科目は幼稚園教育実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものであるため、その点注意すること。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10% 授業中の課題等20% 期末試験70%とする。

教科書

基本的には授業内で配布するプリントを用いる。ただし、次の文献を適宜利用するので必ず購入すること。

徳永満理編著『幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド』チャイルド本社、2015年。

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017年

徳永満理編著『幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド』チャイルド本社、2015年

阿部恵・鈴木みゆき編『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに、2002年

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 228研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	519400401							
講義名	教育方法論 AB							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科 (短大)							
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数								
時間	30.00							
代表曜日	水曜日							
代表時限	3時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教職に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>伊藤 敦広</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	伊藤 敦広	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	伊藤 敦広	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、幼児教育の方法原理を学ぶ。
以下の3つの点が到達目標である。

- (1) 幼児教育・保育の基礎的な原理を習得した上で、現代の理論的課題について考察できるようになること。
- (2) 上記の点を踏まえ、幼児教育・保育のあり方として適切な活動を構想できるようになること。
- (3) 自らが構想した幼児教育・保育の方法を、具体的に指導案の形としてまとめ上げることができるようになること。

学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

幼児教育の方法について、その原理にまで遡って思考する態度を求める。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーションー幼児教育・保育における「方法」とは何か

第2回：学校教育における様々な教育方法

第3回：幼児教育・保育における様々な教育方法

第4回：教育方法の歴史

第5回：発達段階を踏まえた教育 (1) —0歳児の発達

第6回：発達段階を踏まえた教育 (2) —1歳児の発達

第7回：発達段階を踏まえた教育 (3) —2歳児の発達

第8回：発達段階を踏まえた教育 (4) —3歳児の発達

第9回：発達段階を踏まえた教育 (5) —4歳児の発達

第10回：発達段階を踏まえた教育 (6) —5歳児の発達

第11回：発達段階を踏まえた幼児教育・保育の方法

第12回：指導案作成の基礎 (1) —目的と性質

第13回：指導案作成の基礎（2）—作成時の注意点
第14回：指導案作成の基礎（3）—実習を見据えた指導案作成
第15回：まとめ—教育方法を学んでいくために

定期試験

授業計画表

成績評価法

授業内の課題（小レポート・指導案等）(40%)と期末試験(60%)を総合して評価する。

教科書

西坂小百合（監）『0～6歳わかりやすい子どもの発達と保育のコツ』 ナツメ社、2016年。

参考書

授業内で適宜紹介する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室

火・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

iatsuhiro@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400402
講義名	教育方法論 CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、幼児教育の方法原理を学ぶ。
以下の3つの点が到達目標である。

- (1) 幼児教育・保育の基礎的な原理を習得した上で、現代の理論的課題について考察できるようになること。
- (2) 上記の点を踏まえ、幼児教育・保育のあり方として適切な活動を構想できるようになること。
- (3) 自らが構想した幼児教育・保育の方法を、具体的に指導案の形としてまとめ上げることができるようになること。

学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

幼児教育の方法について、その原理にまで遡って思考する態度を求める。

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

第1回：オリエンテーションー幼児教育・保育における「方法」とは何か

第2回：学校教育における様々な教育方法

第3回：幼児教育・保育における様々な教育方法

第4回：教育方法の歴史

第5回：発達段階を踏まえた教育 (1) —0歳児の発達

第6回：発達段階を踏まえた教育 (2) —1歳児の発達

第7回：発達段階を踏まえた教育 (3) —2歳児の発達

第8回：発達段階を踏まえた教育 (4) —3歳児の発達

第9回：発達段階を踏まえた教育 (5) —4歳児の発達

第10回：発達段階を踏まえた教育 (6) —5歳児の発達

第11回：発達段階を踏まえた幼児教育・保育の方法

第12回：指導案作成の基礎 (1) —目的と性質

第13回：指導案作成の基礎（2）—作成時の注意点
第14回：指導案作成の基礎（3）—実習を見据えた指導案作成
第15回：まとめ—教育方法を学んでいくために

定期試験

授業計画表

成績評価法

授業内の課題（小レポート・指導案等）(40%)と期末試験(60%)を総合して評価する。

教科書

西坂小百合（監）『0～6歳わかりやすい子どもの発達と保育のコツ』 ナツメ社、2016年。

参考書

授業内で適宜紹介する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室

火・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

iatsuhira@sakushin-u.ac.jp

第13回：指導案作成の基礎（2）—作成時の注意点
第14回：指導案作成の基礎（3）—実習を見据えた指導案作成
第15回：まとめ—教育方法を学んでいくために

定期試験

授業計画表

成績評価法

授業内の課題（小レポート・指導案等）(40%)と期末試験(60%)を総合して評価する。

教科書

西坂小百合（監）『0～6歳わかりやすい子どもの発達と保育のコツ』 ナツメ社、2016年。

参考書

授業内で適宜紹介する。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室

火・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

iatsuhiro@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400501	
講義名	健康（指導法） AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育における基本方針や具体的な目標を達成するために、子どもたちの発育や発達を理解し、それらの過程にあった指導ができる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨むこと。（予習課題）

グループ発表の担当者は、計画案、資料作成、発表練習をしておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子どもたちが健やかな生活を送り心身の健全な発達を実現することができるよう、子どもの健康づくりと指導のあり方や安全教育について学ぶ。

- 第1回：子どもの健康とは（p9-16）
- 第2回：現代の子どもの健康の諸問題（p17-24）
- 第3回：子どもの心身の発達（p25-32）
- 第4回：子どもの運動機能の発達（p33-40）
- 第5回：基本的生活習慣の自立（p41-48）
- 第6回：安全保育と健康（p49-56）
- 第7回：領域「健康」のねらいと内容-3歳未満-（p57-64）
- 第8回：領域「健康」のねらいと内容-3歳以上-（p65-72）
- 第9回：運動能力を高める遊び（p73-80）
- 第10回：基本的生活習慣の指導（p81-88）
- 第11回：食育活動による健康指導（p89-96）
- 第12回：子どもの病気とアレルギー対応（p97-104）
- 第13回：特別に支援の必要な子どもの健康指導（p105-112）
- 第14回：事故防止と安全管理の実践（p113-120）
- 第15回：領域「健康」の計画と評価（p121-128）

期末試験

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、グループ発表（模擬授業）40%、期末試験40%とする。

授業態度、欠席・遅刻・早退の回数、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

『コンパクト版 保育内容シリーズ① 健康』 谷田貝公昭（一藝社）

参考書

幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月 内閣府）

保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	519400502	
講義名	健康（指導法） CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育における基本方針や具体的な目標を達成するために、子どもたちの発育や発達を理解し、それらの過程にあった指導ができる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨むこと。（予習課題）

グループ発表の担当者は、計画案、資料作成、発表練習をしておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

子どもたちが健やかな生活を送り心身の健全な発達を実現することができるよう、子どもの健康づくりと指導のあり方や安全教育について学ぶ。

- 第1回：子どもの健康とは（p9-16）
- 第2回：現代の子どもの健康の諸問題（p17-24）
- 第3回：子どもの心身の発達（p25-32）
- 第4回：子どもの運動機能の発達（p33-40）
- 第5回：基本的生活習慣の自立（p41-48）
- 第6回：安全保育と健康（p49-56）
- 第7回：領域「健康」のねらいと内容-3歳未満-（p57-64）
- 第8回：領域「健康」のねらいと内容-3歳以上-（p65-72）
- 第9回：運動能力を高める遊び（p73-80）
- 第10回：基本的生活習慣の指導（p81-88）
- 第11回：食育活動による健康指導（p89-96）
- 第12回：子どもの病気とアレルギー対応（p97-104）
- 第13回：特別に支援の必要な子どもの健康指導（p105-112）
- 第14回：事故防止と安全管理の実践（p113-120）
- 第15回：領域「健康」の計画と評価（p121-128）

期末試験

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、グループ発表（模擬授業）40%、期末試験40%とする。

授業態度、欠席・遅刻・早退の回数、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

『コンパクト版 保育内容シリーズ① 健康』 谷田貝公昭（一藝社）

参考書

幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月 内閣府）

保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	519400503
講義名	健康（指導法） EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	藤村 透子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育における基本方針や具体的な目標を達成するために、子どもたちの発育や発達を理解し、それらの過程にあった指導ができる能力を身につける。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨むこと。（予習課題）

グループ発表の担当者は、計画案、資料作成、発表練習をしておくこと。（予習課題）

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

子どもたちが健やかな生活を送り心身の健全な発達を実現することができるよう、子どもの健康づくりと指導のあり方や安全教育について学ぶ。

- 第1回：子どもの健康とは（p9-16）
- 第2回：現代の子どもの健康の諸問題（p17-24）
- 第3回：子どもの心身の発達（p25-32）
- 第4回：子どもの運動機能の発達（p33-40）
- 第5回：基本的生活習慣の自立（p41-48）
- 第6回：安全保育と健康（p49-56）
- 第7回：領域「健康」のねらいと内容-3歳未満-（p57-64）
- 第8回：領域「健康」のねらいと内容-3歳以上-（p65-72）
- 第9回：運動能力を高める遊び（p73-80）
- 第10回：基本的生活習慣の指導（p81-88）
- 第11回：食育活動による健康指導（p89-96）
- 第12回：子どもの病気とアレルギー対応（p97-104）
- 第13回：特別に支援の必要な子どもの健康指導（p105-112）
- 第14回：事故防止と安全管理の実践（p113-120）
- 第15回：領域「健康」の計画と評価（p121-128）

期末試験

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、グループ発表（模擬授業）40%、期末試験40%とする。

授業態度、欠席・遅刻・早退の回数、提出物の遅れなども評価に反映する。

教科書

『コンパクト版 保育内容シリーズ① 健康』 谷田貝公昭（一藝社）

参考書

幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月 内閣府）

保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 223研究室

平成30年度前期は、火～金が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

講義コード	519400601
講義名	言葉（指導法） AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 い及
- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 びに全
- 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえて、幼児が経験し身に付けていく内容上の留意点を理解している。 と指導
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校のとのつながりを理解している。 教科等
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面定した保育を構想する方法を身に付ける。 を想
- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 てい
- 2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を理解し、保育構想に活用することができる。 用法を
- 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 る。
- 4) 模擬保育とそのふり返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 向上に

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当する。

特に①②③を重視する。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストを下読みして授業に臨む事。

毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。予習・復習の時間は、それぞれ毎回約2時間とする。

授業の概要及び授業計画

授業の概要

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を構想する力を身に付ける。

なお、授業前半部は講義を行い、後半部ではディスカッションを行う。

- 第1回 保育における「言葉」とは？
－幼稚園教育の基本領域「言葉」のねらい及び内容
- 第2回 子どもの言葉の発達過程（1）
－言葉を生む基盤と話言葉の発達の道筋
- 第3回 子どもの言葉の発達過程（2）
－書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉
- 第4回 言葉を育む環境構成と援助（1）
－話したい、聞きたい意欲を生む援助
- 第5回 言葉を育む環境構成と援助（2）
－生活に必要な言葉の習得を支える援助
- 第6回 言葉を育む環境構成と援助（3）
－言葉の擦れ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助
- 第7回 言葉を豊かにする環境構成と援助（1）
－言葉による伝え合いを育む援助
- 第8回 言葉を豊かにする環境構成と援助（2）
－文字などで伝える楽しさを生み出す援助
- 第9回 子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財
－絵本・物語・紙芝居などの実際と保育の中での生かし方
- 第10回 言葉に対する感覚を豊かにする実践：言葉あそび
－言葉あそび（しりとり・言葉あつめなど）の実際と保育の中での生かし方
- 第11回 子どもの言葉を育む保育の実際
－保育実践もしくは模擬保育に向けての保育観察と教材研究
- 第12回 子どもの言葉を育む保育の構想
－領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成
- 第13回 子どもの言葉を育む保育の実践
－保育実践もしくは模擬保育の実施
- 第14回 子どもの言葉を育む保育の評価と改善
－保育実践もしくは模擬保育の振り返り
- 第15回 まとめ：子どもの言葉を育み、豊にする保育実践
－「言葉」をめぐる現代的課題と特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた「言葉」に関する保育実践

期末試験（筆記試験を行う）

授業では前半部で講義を行い後半部ではディスカッションを行う。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物・期末試験の成績等によって評価する。準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業への参加度（課題等への取り組み）20%、期末試験の成績70%とする。

教科書

『保育内容 言葉』 小田 豊 芦田 宏 編著 北大路書房

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』 文部科学省 著 フレーベル館

参考書

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』 厚生労働省 著 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 フレーベル館

学生へのメッセージ

この授業で学ぶ「言葉」の知識は、9月の幼稚園実習や2月の保育所実習で、とても役立ちます。幼児とコミュニケーションをとるために大切な知識ですから、しっかりと学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室又は管理棟1階の企画広報室
月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400602	
講義名	言葉（指導法） CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼児の言葉の発達について学んだ上で、関連した言語文化や地域文化について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当する。

特に①②③を重視する。

準備学習

事前によこされたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストを下読みして授業に臨む事。

毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。予習・復習の時間は、それぞれ毎回約2時間とする。

授業の概要及び授業計画

授業前半部は講義を行い、後半部ではディスカッションを行う。

第1回 ガイダンス（国語と言葉を比べて考える）

第2回 子育てと言葉（1） 子どもの育ちと言葉

第3回 子育てと言葉（2） 言葉を育てるコミュニケーションと言葉

第4回 子育てと言葉（3） 言葉を育てるシステム

第5回 子どもの言葉について

第6回 言葉の獲得（1） 一語文以前

第7回 言葉の獲得（2） 話し言葉

第8回 言葉の獲得（3） 書き言葉

第9回 子どもたちのコミュニケーションについて

第10回 言葉を育てる環境（1） 乳児の言葉を育てる環境

第11回 言葉を育てる環境（2） 話し言葉を育てる環境

第12回 言葉を育てる環境（3） 書き言葉への興味や関心を育てる環境

第13回 言葉と文化（1） 絵本の世界

第14回 言葉と文化（2） わらべうた・童謡の世界

第15回 授業のまとめ（実習で試すべきことは何か）

期末試験

授業では前半部で講義を行い後半部ではディスカッションを行う。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物・期末試験の成績等によって評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%とする。

教科書

『保育内容 言葉』 小田 豊 芦田 宏 編著 北大路書房 1700円+税

学生へのメッセージ

この授業で学ぶ「言葉」の知識は、9月の幼稚園実習や2月のおいくしょ実習で、とても役立ちます。幼児とコミュニケーションをとるために大切な知識ですから、しっかりと学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室

月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400603
講義名	言葉（指導法） EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼児の言葉の発達について学んだ上で、関連した言語文化や地域文化について学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当する。

特に①②③を重視する。

準備学習

事前によこされたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習（予習）やテキストを下読みして授業に臨む事。

毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。予習・復習の時間は、それぞれ毎回約2時間とする。

授業の概要及び授業計画

授業前半部は講義を行い、後半部ではディスカッションを行う。

- 第1回 ガイダンス（国語と言葉を比べて考える）
- 第2回 子育てと言葉（1） 子どもの育ちと言葉
- 第3回 子育てと言葉（2） 言葉を育てるコミュニケーションと言葉
- 第4回 子育てと言葉（3） 言葉を育てるシステム
- 第5回 子どもの言葉について
- 第6回 言葉の獲得（1） 一語文以前
- 第7回 言葉の獲得（2） 話し言葉
- 第8回 言葉の獲得（3） 書き言葉
- 第9回 子どもたちのコミュニケーションについて
- 第10回 言葉を育てる環境（1） 乳児の言葉を育てる環境
- 第11回 言葉を育てる環境（2） 話し言葉を育てる環境
- 第12回 言葉を育てる環境（3） 書き言葉への興味や関心を育てる環境
- 第13回 言葉と文化（1） 絵本の世界
- 第14回 言葉と文化（2） わらべうた・童謡の世界
- 第15回 授業のまとめ（実習で試すべきことは何か）

期末試験

授業では前半部で講義を行い後半部ではディスカッションを行う。

授業計画表

成績評価法

授業での課題への取り組み姿勢や提出物・期末試験の成績等によって評価する。
準備学習（予習・復習）の取り組みも成績評価に含まれる。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%とする。

教科書

『保育内容 言葉』 小田 豊 芦田 宏 編著 北大路書房 1700円+税

学生へのメッセージ

この授業で学ぶ「言葉」の知識は、9月の幼稚園実習や2月のおいくしょ実習で、とても役立ちます。幼児とコミュニケーションをとるために大切な知識ですから、しっかりと学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室

月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519400901							
講義名	人間関係（指導法） AB							
(副題)								
開講責任部署	幼児教育科（短大）							
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日	水曜日							
代表時限	3時限							
科目分類名	専門科目							
科目分野名	教職に関する科目							
対象学部・年次	短期大学部・1～2年							
必須/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>小倉 庸寛</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	指定なし	小倉 庸寛	指定なし
職種	氏名	所属						
指定なし	小倉 庸寛	指定なし						

授業の到達目標及びテーマ

乳幼児期は子どもの人間形成の基礎を培う重要な時期であり、その多くは人とのかかわりのなかで学んでいく。これから育っていく乳幼児に必要な「生きる力」の基礎は子ども自身や周りの環境が大きく影響をすることを理解したい。子どもを取り巻く環境は様々な問題を抱えており、そのことが乳幼児の発達にどのように影響するのか、発達過程をとらえながら保育者の役割を学ぶ。

到達目標については、学習成果における ①保育者観②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

予習として、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説「領域 人間関係」に目を通しておくこと。

復習として、課題のプリントを配布するので必ず、次回の授業に提出すること。

授業の概要及び授業計画

保育の具体的な場面（現場）の映像や事例から学ぶ。
その都度、考えを記述し、グループで話し合いながら理解を深める。

- 第1回 領域「人間関係」の意義と目的
- 第2回 乳幼児の発達と領域「人間関係」0・1歳の子どもと保育者の関係より
- 第3回 乳幼児の発達と領域「人間関係」2歳(満3歳)の子どもと保育者の関係より
- 第4回 3歳児の発達と領域「人間関係」
- 第5回 4歳児の発達と領域「人間関係」
- 第6回 5歳児の発達と領域「人間関係」
- 第7回 遊びと領域「人間関係」
- 第8回 園生活と領域「人間関係」
- 第9回 気になる子ども（人とのかかわりが難しい子ども）
- 第10回 道徳性の芽生え
- 第11回 協同する経験
- 第12回 保育者と子どもと領域「人間関係」
- 第13回 地域とのかかわり（小学校との連携）
- 第14回 家庭・保護者とのかかわり

第15回 まとめ 領域「人間関係」を振り返る

期末試験

授業計画表

特記事項等

映像を見るため、前列から座る。

成績評価法

授業態度・平常点、定期試験により総合的に評価する。

教科書

保育内容「人間関係」 横山文樹・駒井美智子編 大学図書出版
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 フレーベル館

参考書

その都度紹介します。

学生へのメッセージ

実習や保育現場にて子どもにどのように声をかけたらよいか、どのような働きかけがよいかを考え、実践できる力を身につけよう。

電話番号

028-667-7111 (代)

第14回 家庭・保護者とのかかわり
第15回 まとめ 領域「人間関係」を振り返る
期末試験

授業計画表

特記事項等

映像を見るため、前列から座る。

成績評価法

授業態度・平常点、定期試験により総合的に評価する。

教科書

保育内容「人間関係」 横山文樹・駒井美智子編 大学図書出版
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 フレーベル館

参考書

その都度紹介します。

学生へのメッセージ

実習や保育現場にて子どもにどのように声をかけたらよいか、どのような働きかけがよいかを考え、実践できる力を身につけよう。

電話番号

028-667-7111 (代)

第15回 まとめ 領域「人間関係」を振り返る

期末試験

授業計画表

特記事項等

映像を見るため、前列から座る。

成績評価法

授業態度・平常点、定期試験により総合的に評価する。

教科書

保育内容「人間関係」 横山文樹・駒井美智子編 大学図書出版
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 フレーベル館

参考書

その都度紹介します。

学生へのメッセージ

実習や保育現場にて子どもにどのように声をかけたらよいか、どのような働きかけがよいかを考え、実践できる力を身につけよう。

電話番号

028-667-7111 (代)

講義コード	519401001	
講義名	表現（指導法） AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	石坂 小百合	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

- ・保育現場に出た時に必要な表現力と実践力を身につける。
- ・表現という授業に対しての理念を学ぶ。
- ・到達目標については学習成果における①保育者観②知識・技能③実践力と実務 能力④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

- ・実演（手遊び・エプロンシアター）を行うので、恥ずかしがらずに表現するための心構えをして授業に臨む事。（予習課題）
- ・名札作り・エプロンシアターの製作（各自好きなものを製作）では、手縫いをするので針と糸を用意し、使い方を確認しておくこと。（予習課題）
- ・名札を製作するので、作りたいものをイメージしておくこと。（予習課題）
- ・次の授業までに復習を済ませておくこと。

授業の概要及び授業計画

実習を含め実際に保育現場に出たときに必要な表現力を授業を通して具体的にイメージし、実演（エプロンシアター・絵本や紙芝居の読み聞かせ・バルーン）を中心に表現の大切さを理解し、身につける。

第1回：オリエンテーション（授業の流れ）

- ・表現について（5領域より）を知る
- ・手遊び（さあみんなで）
- ・バルーンショーの紹介
- ・名札の作り方の説明（作りたいものをイメージしてまとめる）

第2回：手遊び（大きくトン 小さくトン）

- ・絵本の紹介（乳児向け）
- ・名札作り（大きさを考慮して布を切る）
- ・バルーン製作（ハート）

第3回：手遊び（ゴリラのおんがくかい）

- ・絵本の紹介（幼児向け）

- ・名札作り（基本の縫い方を身に付ける）
- ・バルーン製作（簡単な剣）

第4回：手遊び（大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい）

- ・紙芝居の選び方と紹介・バルーン製作（だっこうさぎ）
- ・名札作り（実習を楽しみに製作する）

第5回：名札の提出

- ・手遊び発表の練習「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」（仲間同士の発表・気づき・提言）。
- ・エプロンシアター紹介
- ・バルーン製作（いぬ）

第6回：手遊び実技発表(前半) 「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」

- ・エプロンシアターの定義・技法・教育的意義について
- ・バルーン製作（きりん）

第7回：手遊び実技発表(後半) 「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」

- ・エプロンシアター紹介
- ・バルーン製作（お座りうさぎ）

第8回：手遊び（まきばのがっしょうだん）

- ・エプロンシアター製作(大きさを考慮して製作)
- ・大型絵本の紹介(歌に合わせて読み聞かせ)
- ・バルーン製作（ブレスレット）

第9回：手遊び（1丁目のドラねこ）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（スケジュールを立てて製作）
- ・バルーン製作（お面）

第10回：手遊び（たいやきたこやき）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（演じ方の注意点を学ぶ）
- ・バルーン製作（剣）

第11回：手遊び（いわしのひらき）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（台本を覚える）
- ・バルーン製作(プードル)

第12回：手遊び（ちいさなにわ）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（実践することをイメージして製作する）
- ・バルーン装飾(丸い風船の花)

第13回：手遊び（おふろやさんにいこう）

- ・エプロンシアター実技実践（グループ内での発表）子どもをイメージした言葉かけ・表情の気づき。
- ・バルーン装飾（動物の柱）

第14回：エプロンシアター実技発表（期末試験 前半）

教師からの提言。仲間からの気づき

第15回：エプロンシアター実技発表（期末試験 後半）

投票によるベストオブ エプロンシアター選出して発表

授業計画表

特記事項等

授業の中でエプロンシアターに使うエプロンを紹介し購入してもらおう。

成績評価法

実技発表。提出物。授業態度。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、実技発表・期末試験70%とする。

教科書

指定しない。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

学生へのメッセージ

私が作新短大在学中1番好きだった科目が「表現」でした。
皆さんが素敵な保育士になるれよう全力でサポートいたします！
一緒にがんばりましょう！！

講義コード	519401002	
講義名	表現（指導法） CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	石坂 小百合	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

- ・保育現場に出た時に必要な表現力と実践力を身につける。
- ・表現という授業に対しての理念を学ぶ。
- ・到達目標については学習成果における①保育者観②知識・技能③実践力と実務 能力④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

- ・実演（手遊び・エプロンシアター）を行うので、恥ずかしがらずに表現するための心構えをして授業に臨む事。（予習課題）
- ・名札作り・エプロンシアターの製作（各自好きなものを製作）では、手縫いをするので針と糸を用意し、使い方を確認しておくこと。（予習課題）
- ・名札を製作するので、作りたいものをイメージしておくこと。（予習課題）
- ・次の授業までに復習を済ませておくこと。

授業の概要及び授業計画

実習を含め実際に保育現場に出たときに必要な表現力を授業を通して具体的にイメージし、実演（エプロンシアター・絵本や紙芝居の読み聞かせ・バルーン）を中心に表現の大切さを理解し、身につける。

第1回：オリエンテーション（授業の流れ）

- ・表現について（5領域より）を知る
- ・手遊び（さあみんなで）
- ・バルーンショーの紹介
- ・名札の作り方の説明（作りたいものをイメージしてまとめる）

第2回：手遊び（大きくトン 小さくトン）

- ・絵本の紹介（乳児向け）
- ・名札作り（大きさを考慮して布を切る）
- ・バルーン製作（ハート）

第3回：手遊び（ゴリラのおんがくかい）

- ・絵本の紹介（幼児向け）
- ・名札作り（基本の縫い方を身に付ける）
- ・バルーン製作（簡単な剣）

第4回：手遊び（大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい）

- ・紙芝居の選び方と紹介・バルーン製作（だっこうさぎ）
- ・名札作り（実習を楽しみに製作する）

第5回：名札の提出

- ・手遊び発表の練習「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」（仲間同士の発表・気づき・提言）。
- ・エプロンシアター紹介
- ・バルーン製作（いぬ）

第6回：手遊び実技発表(前半) 「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」

- ・エプロンシアターの定義・技法・教育的意義について
- ・バルーン製作（きりん）

第7回：手遊び実技発表(後半) 「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」

- ・エプロンシアター紹介
- ・バルーン製作（お座りうさぎ）

第8回：手遊び（まきばのがっしょうだん）

- ・エプロンシアター製作(大きさを考慮して製作)
- ・大型絵本の紹介(歌に合わせて読み聞かせ)
- ・バルーン製作（プレスレット）

第9回：手遊び（1丁目のドラねこ）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（スケジュールを立てて製作）
- ・バルーン製作（お面）

第10回：手遊び（たいやきたこやき）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（演技方の注意点を学ぶ）
- ・バルーン製作（剣）

第11回：手遊び（いわしのひらき）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（台本を覚える）
- ・バルーン製作(プードル)

第12回：手遊び（ちいさなにわ）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（実践することをイメージして製作する）
- ・バルーン装飾(丸い風船の花)

第13回：手遊び（おふろやさんにいこう）

- ・エプロンシアター実技実践（グループ内での発表）子どもをイメージした言葉かけ・表情の気づき。
- ・バルーン装飾（動物の柱）

第14回：エプロンシアター実技発表（期末試験 前半）

教師からの提言。仲間からの気づき

第15回：エプロンシアター実技発表（期末試験 後半）

投票によるベストオブ エプロンシアター選出して発表

授業計画表

特記事項等

授業の中でエプロンシアターに使うエプロンを紹介し購入してもらおう。

成績評価法

実技発表。提出物。授業態度。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、実技発表・期末試験70%とする。

教科書

指定しない。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

学生へのメッセージ

私が作新短大在学中1番好きだった科目が「表現」でした。
皆さんが素敵な保育士になるれよう全力でサポートいたします！
一緒にがんばりましょう！！

- ・名札作り（基本の縫い方を身に付ける）
- ・バルーン製作（簡単な剣）

第4回：手遊び（大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい）

- ・紙芝居の選び方と紹介・バルーン製作（だっこうさぎ）
- ・名札作り（実習を楽しみに製作する）

第5回：名札の提出

- ・手遊び発表の練習「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」（仲間同士の発表・気づき・提言）。
- ・エプロンシアター紹介
- ・バルーン製作（いぬ）

第6回：手遊び実技発表(前半) 「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」

- ・エプロンシアターの定義・技法・教育的意義について
- ・バルーン製作（きりん）

第7回：手遊び実技発表(後半) 「大きくトン 小さくトン・ゴリラのおんがくかい」

- ・エプロンシアター紹介
- ・バルーン製作（お座りうさぎ）

第8回：手遊び（まきばのがっしょうだん）

- ・エプロンシアター製作(大きさを考慮して製作)
- ・大型絵本の紹介(歌に合わせて読み聞かせ)
- ・バルーン製作（ブレスレット）

第9回：手遊び（1丁目のドラねこ）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（スケジュールを立てて製作）
- ・バルーン製作（お面）

第10回：手遊び（たいやきたこやき）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（演じ方の注意点を学ぶ）
- ・バルーン製作（剣）

第11回：手遊び（いわしのひらき）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（台本を覚える）
- ・バルーン製作(プードル)

第12回：手遊び（ちいさなにわ）

- ・エプロンシアターの紹介と製作（実践することをイメージして製作する）
- ・バルーン装飾(丸い風船の花)

第13回：手遊び（おふろやさんにいこう）

- ・エプロンシアター実技実践（グループ内での発表）子どもをイメージした言葉がけ・表情の気づき。
- ・バルーン装飾（動物の柱）

第14回：エプロンシアター実技発表（期末試験 前半）

教師からの提言。仲間からの気づき

第15回：エプロンシアター実技発表（期末試験 後半）

投票によるベストオブ エプロンシアター選出して発表

授業計画表

特記事項等

授業の中でエプロンシアターに使うエプロンを紹介し購入してもらおう。

成績評価法

実技発表。提出物。授業態度。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、実技発表・期末試験70%とする。

教科書

指定しない。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

学生へのメッセージ

私が作新短大在学中1番好きだった科目が「表現」でした。
皆さんが素敵な保育士になるれよう全力でサポートいたします！
一緒にがんばりましょう！！

講義コード	519401101	
講義名	保育者論 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、保育者という専門職のあり方について理解を深め、保育者として子どもと関わることの意味について、多角的に考察することを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

授業内では各自研究した内容を発表してもらうことになるので、事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、保育者という専門職のあり方について理解を深めるために、保育者という専門職の特色を多角的に捉えていく。1年次での実習の振り返りや2年次の実習の準備も含めながら、「保育者になる」とはどういうことなのかを理論的に深めていくことを目指す。

第1回：オリエンテーション：「保育者論を学ぶとは？」

第2回：「保育者の専門性」の意味を考える

第3回：指導案の位置づけ

第4回：保育の一日の流れとは

第5回：責任実習指導案の作成法

第6回：保育における主活動の特性

第7回：研究発表：「「保育者になる」ということ」

第8回：研究発表：「具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざし」

第9回：保育に必要な臨機応変さについて

第10回：研究発表：「子どもの思いや育ちを理解する」

第11回：研究発表：「子どもと一緒に心と体を動かす」

第12回：研究発表：「豊かな文化や自然との出会いをつなぐ」

第13回：研究発表：「保護者や家庭と一緒に歩む」

第14回：研究発表：「学び合う保育者」

第15回：研究発表：「反省的实践家」

期末試験

授業計画表
成績評価法
授業内の課題（コメント・質問、小レポート）（40%）、研究発表（30%）および期末レポート（30%）の結果をあわせて総合的に評価する。
教科書
汐見 稔幸・大豆生田 啓友（編）『保育者論[第2版]（最新保育講座）』 ミネルヴァ書房、2010年。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階 225研究室 火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
iatsuhiko@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401102	
講義名	保育者論 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数		
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、保育者という専門職のあり方について理解を深め、保育者として子どもと関わることの意味について、多角的に考察することを目指す。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

授業内では各自研究した内容を発表してもらうことになるので、事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、保育者という専門職のあり方について理解を深めるために、保育者という専門職の特色を多角的に捉えていく。1年次での実習の振り返りや2年次の実習の準備も含めながら、「保育者になる」とはどういうことなのかを理論的に深めていくことを目指す。

第1回：オリエンテーション：「保育者論を学ぶとは？」

第2回：「保育者の専門性」の意味を考える

第3回：指導案の位置づけ

第4回：保育の一日の流れとは

第5回：責任実習指導案の作成法

第6回：保育における主活動の特性

第7回：研究発表：「「保育者になる」ということ」

第8回：研究発表：「具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざし」

第9回：保育に必要な臨機応変さについて

第10回：研究発表：「子どもの思いや育ちを理解する」

第11回：研究発表：「子どもと一緒に心と体を動かす」

第12回：研究発表：「豊かな文化や自然との出会いをつなぐ」

第13回：研究発表：「保護者や家庭と一緒に歩む」

第14回：研究発表：「学び合う保育者」

第15回：研究発表：「反省的実践家」

期末試験

授業計画表
成績評価法
授業内の課題（コメント・質問、小レポート）（40%）、研究発表（30%）および期末レポート（30%）の結果をあわせて総合的に評価する。
教科書
汐見 稔幸・大豆生田 啓友（編）『保育者論[第2版]（最新保育講座）』 ミネルヴァ書房、2010年。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階 225研究室 火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
iatsuhiko@sakushin-u.ac.jp

授業計画表
成績評価法
授業内の課題（コメント・質問、小レポート）（40%）、研究発表（30%）および期末レポート（30%）の結果をあわせて総合的に評価する。
教科書
汐見 稔幸・大豆生田 啓友（編）『保育者論[第2版]（最新保育講座）』 ミネルヴァ書房、2010年。
研究室（訪問先等）
中央研究棟2階 225研究室 火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねてください。
電話番号
028-667-7111（代）
授業用E-mail
iatsuhiko@sakushin-u.ac.jp

容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。

第1回：子ども理解と子どもの生活について

－視聴覚教材を通して園生活における具体的な子どもの姿を知り、保育者の役割について考える

第2回：乳幼児期の保育・教育における環境構成の意義について

－実際の保育室のようすから環境（物的、人的）の工夫や配慮について学ぶ

第3回：幼児期の保育・教育における教育課程及び全体的な計画と指導計画について

－乳幼児にとっての行事の意味を考える（第5回～第9回の授業の最初に、2グループずつ園行事をテーマにした模擬保育を実施する）

第4回：子どもの遊びについて

－視聴覚教材を活用しながら乳幼児の遊びの場面を観察し、多様な経験の意義を理解する

第5回：乳幼児期の保育・教育における遊びを通しての総合的な指導について

－乳幼児期の保育・教育の基本、乳幼児の発達の過程、保育者の役割、環境構成、小学校教育との違いについて理解する

第6回：乳幼児期の保育・教育における5領域のねらい及び内容のつながりについて

－具体的な事例をもとに、遊びを通して総合的に育つことを理解する

第7回：乳幼児期の保育・教育における長期指導計画・短期指導計画について

－具体的な乳幼児の姿を出発点とした指導計画の作成手順と配慮点、評価の考え方を理解する

第8回：指導計画と園生活の実際について

－さまざまな指導計画、保育記録、視聴覚教材を活用し、具体的な乳幼児の姿から多様な指導法及び乳幼児期の保育・教育に対する考え方を学ぶ

第9回：具体的な保育の場面における指導法について

－視聴覚教材を活用しながら、さまざまな子どもの姿に対する指導法について話し合い学びを深める

第10回：養護と教育が一体的に展開する保育について

－3歳未満の子どもの生活・遊びとのつながりを理解する

第11回：支援を要する子ども理解とクラス運営について

－支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する

第12回：具体的なテーマに関する模擬保育の準備（1）指導案の作成

第13回：具体的なテーマに関する模擬保育の準備（2）教材の製作

第14回：グループ内での模擬保育の実施

－ねらい及び内容に沿った指導技術、実践力を身に付ける

第15回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて

－模擬保育の振り返りや意見交換を通して、遊びを通した子どもの学びへの理解や評価の在り方を学ぶ

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、授業中の課題・発表等60%、レポート20%とする。

教科書

『保育の実践・原理・内容[第3版]写真でよみよく保育』無籐隆ほか（ミネルヴァ書房 2014）

参考書

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)』（フーベル館 2017）

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フーベル館 2014）

『保育内容総論』石川昭義・松川恵子ほか（中央法規 2015）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

月・水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

第1回：子ども理解と子どもの生活について

－視聴覚教材を通して園生活における具体的な子どもの姿を知り、保育者の役割について考える

第2回：乳幼児期の保育・教育における環境構成の意義について

－実際の保育室のようすから環境（物的、人的）の工夫や配慮について学ぶ

第3回：幼児期の保育・教育における教育課程及び全体的な計画と指導計画について

－乳幼児にとっての行事の意味を考える（第5回～第9回の授業の最初に、2グループずつ園行事をテーマにした模擬保育を実施する）

第4回：子どもの遊びについて

－視聴覚教材を活用しながら乳幼児の遊びの場面を観察し、多様な経験の意義を理解する

第5回：乳幼児期の保育・教育における遊びを通しての総合的な指導について

－乳幼児期の保育・教育の基本、乳幼児の発達の過程、保育者の役割、環境構成、小学校教育との違いについて理解する

第6回：乳幼児期の保育・教育における5領域のねらい及び内容のつながりについて

－具体的な事例をもとに、遊びを通して総合的に育つことを理解する

第7回：乳幼児期の保育・教育における長期指導計画・短期指導計画について

－具体的な乳幼児の姿を出発点とした指導計画の作成手順と配慮点、評価の考え方を理解する

第8回：指導計画と園生活の実際について

－さまざまな指導計画、保育記録、視聴覚教材を活用し、具体的な乳幼児の姿から多様な指導法及び乳幼児期の保育・教育に対する考え方を学ぶ

第9回：具体的な保育の場面における指導法について

－視聴覚教材を活用しながら、さまざまな子どもの姿に対する指導法について話し合い学びを深める

第10回：養護と教育が一体的に展開する保育について

－3歳未満の子ども生活・遊びとのつながりを理解する

第11回：支援を要する子ども理解とクラス運営について

－支援を要する子ども生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する

第12回：具体的なテーマに関する模擬保育の準備（1）指導案の作成

第13回：具体的なテーマに関する模擬保育の準備（2）教材の製作

第14回：グループ内での模擬保育の実施

－ねらい及び内容に沿った指導技術、実践力を身に付ける

第15回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて

－模擬保育の振り返りや意見交換を通して、遊びを通した子どもの学びへの理解や評価の在り方を学ぶ

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、授業中の課題・発表等60%、期末試験20%とする。

教科書

『保育の実践・原理・内容[第3版]写真でよみよく保育』無藤隆ほか（ミネルヴァ書房 2014）

参考書

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)』（フーベル館 2017）

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フーベル館 2014）

『保育内容総論』石川昭義・松川恵子ほか（中央法規 2015）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フーベル館 2014）

『保育内容総論』石川昭義・松川恵子ほか（中央法規 2015）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

月・水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401203	
講義名	保育内容総論 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

(1) 乳幼児期の保育・教育の基本を踏まえた幼稚園や保育所などにおける指導の考え方を理解している。

- ①乳幼児期の保育・教育における考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。
- ②遊びを通しての総合的な指導の意義と保育者の役割が説明できる。
- ③乳幼児期の保育・教育における子ども理解に基づく評価について説明できる。
- ④乳幼児期の保育・教育と小学校教育との円滑な接続についての説明ができる。

(2) 乳幼児期の保育・教育における指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。

- ①乳幼児期の保育・教育における指導計画の考え方について説明できる。
- ②長期の指導計画と短期の指導計画との関係について説明できる。
- ③具体的な乳幼児の姿から指導計画を作成する手順と配慮点について説明できる。
- ④指導計画の評価の考え方について説明できる。
- ⑤乳幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事の在り方を説明できる。

(3) 乳幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。

- ①乳幼児の実態に沿って、物や人との関わりを深める観点から教材を工夫する力を付ける。
- ②保育記録を書くことを通して、乳幼児を理解する力を付ける。
- ③模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

事前に予告されたテキストの該当箇所を読んでから授業に臨む事。

毎時間、予習課題のプリントを配布するので、必ず事前に準備学習(予習)やテキストの下読みして授業に臨む事。

授業で配布するプリント等を熟読して、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

乳幼児期の保育・教育は園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、保育に適する環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。特に、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているのかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。

第1回：子ども理解と子どもの生活について

－視聴覚教材を通して園生活における具体的な子どもの姿を知り、保育者の役割について考える

第2回：乳幼児期の保育・教育における環境構成の意義について

－実際の保育室のようすから環境（物的、人的）の工夫や配慮について学ぶ

第3回：幼児期の保育・教育における教育課程及び全体的な計画と指導計画について

－乳幼児にとっての行事の意味を考える（第5回～第9回の授業の最初に、2グループずつ園行事をテーマにした模擬保育を実施する）

第4回：子どもの遊びについて

－視聴覚教材を活用しながら乳幼児の遊びの場面を観察し、多様な経験の意義を理解する

第5回：乳幼児期の保育・教育における遊びを通しての総合的な指導について

－乳幼児期の保育・教育の基本、乳幼児の発達の過程、保育者の役割、環境構成、小学校教育との違いについて理解する

第6回：乳幼児期の保育・教育における5領域のねらい及び内容のつながりについて

－具体的な事例をもとに、遊びを通して総合的に育つことを理解する

第7回：乳幼児期の保育・教育における長期指導計画・短期指導計画について

－具体的な乳幼児の姿を出発点とした指導計画の作成手順と配慮点、評価の考え方を理解する

第8回：指導計画と園生活の実際について

－さまざまな指導計画、保育記録、視聴覚教材を活用し、具体的な乳幼児の姿から多様な指導法及び乳幼児期の保育・教育に対する考え方を学ぶ

第9回：具体的な保育の場面における指導法について

－視聴覚教材を活用しながら、さまざまな子どもの姿に対する指導法について話し合い学びを深める

第10回：養護と教育が一体的に展開する保育について

－3歳未満の子ども生活・遊びとのつながりを理解する

第11回：支援を要する子ども理解とクラス運営について

－支援を要する子ども生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する

第12回：具体的なテーマに関する模擬保育の準備（1）指導案の作成

第13回：具体的なテーマに関する模擬保育の準備（2）教材の製作

第14回：グループ内での模擬保育の実施

－ねらい及び内容に沿った指導技術、実践力を身に付ける

第15回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて

－模擬保育の振り返りや意見交換を通して、遊びを通した子どもの学びへの理解や評価の在り方を学ぶ

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）20%、授業中の課題・発表等60%、レポート20%とする。

教科書

『保育の実践・原理・内容[第3版]写真でよみよく保育』無籐隆ほか（ミネルヴァ書房 2014）

参考書

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)』（フーベル館 2017）

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フーベル館 2014）

『保育内容総論』石川昭義・松川恵子ほか（中央法規 2015）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フーベル館 2014）

『保育内容総論』石川昭義・松川恵子ほか（中央法規 2015）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館 2014）

『保育内容総論』石川昭義・松川恵子ほか（中央法規 2015）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

月・水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401301
講義名	幼児教育史 AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、幼児教育がどのような歴史的変遷を経て今に至るのかを学ぶ。これは、単に歴史的事項を暗記するために行うということではなく、歴史的な視座から現在の幼児教育のあり方を再考し、その意義と課題を明確化するために行うものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

授業時に必要に応じて参考図書を挙げるので、積極的に利用してほしい。

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、先に記した通り、幼児教育がどのような歴史的変遷を経て今に至るのかを学ぶ。

第1回：オリエンテーション:なぜ歴史を学ぶのか

第2回：「子ども観」と「教育観」の移り変わり

第3回：コメニウスの教育思想：『世界図絵』と『大教授学』

第4回：ロックの教育思想：「白紙説」とは何か

第5回：ルソーの教育思想（1）：ルソーとその時代

第6回：ルソーの教育思想（2）：『エミール』の世界

第7回：中間まとめ：ルソー以降の「子ども観」と「教育観」

第8回：ペスタロッチの教育思想：生涯と「方法」

第9回：オウエンの教育思想：児童労働問題と教育実践

第10回：フレーベルの教育思想（1）：フレーベルの時代と生涯

第11回：フレーベルの教育思想（2）：「恩物」と幼稚園の普及

第12回：明治日本における教育の展開：フレーベル・ペスタロッチ主義と戦前日本の教育

第13回：デューイの教育思想：経験主義と戦後日本への影響

第14回：モンテッソーリの教育思想：障害児教育から幼児教育の主流へ

第15回：まとめ：教育の歴史から教育の未来を考える

期末試験

授業計画表

成績評価法

中間レポート(30%)及び期末レポート(70%)の結果をあわせて総合的に評価する。

教科書

教科書は用いず、担当者が毎回プリントを配る。

参考書

- (1) 眞壁宏幹（編）『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年。
- (2) 乙訓稔『西洋近代幼児教育思想史—コメニウスからフレーベル』（第二版）、東信堂、2010年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室
火・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

iatsuhiko@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401302	
講義名	幼児教育史 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、幼児教育がどのような歴史的変遷を経て今に至るのかを学ぶ。これは、単に歴史的事項を暗記するために行うということではなく、歴史的な視座から現在の幼児教育のあり方を再考し、その意義と課題を明確化するために行うものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

授業時に必要に応じて参考図書を挙げるので、積極的に利用してほしい。

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、先に記した通り、幼児教育がどのような歴史的変遷を経て今に至るのかを学ぶ。

第1回：オリエンテーション:なぜ歴史を学ぶのか

第2回：「子ども観」と「教育観」の移り変わり

第3回：コメニウスの教育思想：『世界図絵』と『大教授学』

第4回：ロックの教育思想：「白紙説」とは何か

第5回：ルソーの教育思想（1）：ルソーとその時代

第6回：ルソーの教育思想（2）：『エミール』の世界

第7回：中間まとめ：ルソー以降の「子ども観」と「教育観」

第8回：ペスタロッチの教育思想：生涯と「方法」

第9回：オウエンの教育思想：児童労働問題と教育実践

第10回：フレーベルの教育思想（1）：フレーベルの時代と生涯

第11回：フレーベルの教育思想（2）：「恩物」と幼稚園の普及

第12回：明治日本における教育の展開：フレーベル・ペスタロッチ主義と戦前日本の教育

第13回：デューイの教育思想：経験主義と戦後日本への影響

第14回：モンテッソーリの教育思想：障害児教育から幼児教育の主流へ

第15回：まとめ：教育の歴史から教育の未来を考える

期末試験

授業計画表

成績評価法

中間レポート(30%)及び期末レポート(70%)の結果をあわせて総合的に評価する。

教科書

教科書は用いず、担当者が毎回プリントを配る。

参考書

- (1) 眞壁宏幹（編）『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年。
- (2) 乙訓稔『西洋近代幼児教育思想史—コメニウスからフレーベル』（第二版）、東信堂、2010年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室
火・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

iatsuhiro@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401303
講義名	幼児教育史 EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、幼児教育がどのような歴史的変遷を経て今に至るのかを学ぶ。これは、単に歴史的事項を暗記するために行うということではなく、歴史的な視座から現在の幼児教育のあり方を再考し、その意義と課題を明確化するために行うものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

授業時に必要に応じて参考図書を挙げるので、積極的に利用してほしい。

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨むこと。

授業の概要及び授業計画

本授業では、先に記した通り、幼児教育がどのような歴史的変遷を経て今に至るのかを学ぶ。

第1回：オリエンテーション:なぜ歴史を学ぶのか

第2回：「子ども観」と「教育観」の移り変わり

第3回：コメニウスの教育思想：『世界図絵』と『大教授学』

第4回：ロックの教育思想：「白紙説」とは何か

第5回：ルソーの教育思想（1）：ルソーとその時代

第6回：ルソーの教育思想（2）：『エミール』の世界

第7回：中間まとめ：ルソー以降の「子ども観」と「教育観」

第8回：ペスタロッチの教育思想：生涯と「方法」

第9回：オウエンの教育思想：児童労働問題と教育実践

第10回：フレーベルの教育思想（1）：フレーベルの時代と生涯

第11回：フレーベルの教育思想（2）：「恩物」と幼稚園の普及

第12回：明治日本における教育の展開：フレーベル・ペスタロッチ主義と戦前日本の教育

第13回：デューイの教育思想：経験主義と戦後日本への影響

第14回：モンテッソーリの教育思想：障害児教育から幼児教育の主流へ

第15回：まとめ：教育の歴史から教育の未来を考える

期末試験

授業計画表

成績評価法

中間レポート(30%)及び期末レポート(70%)の結果をあわせて総合的に評価する。

教科書

教科書は用いず、担当者が毎回プリントを配る。

参考書

- (1) 眞壁宏幹（編）『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年。
- (2) 乙訓稔『西洋近代幼児教育思想史—コメニウスからフレーベル』（第二版）、東信堂、2010年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室
火・水が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

iatsuhiko@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401401						
講義名	幼稚園実習 ^I						
(副題)							
開講責任部署	幼児教育科 (短大)						
講義開講時期	前期						
講義区分							
基準単位数	2						
時間	90.00						
代表曜日							
代表時限							
科目分類名	専門科目						
科目分野名	教職に関する科目						
対象学部・年次	短期大学部・1～2年						
必須/選択	選択						
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定なし</td> <td>伊藤 敦広</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	指定なし	伊藤 敦広	指定なし
職種	氏名	所属					
指定なし	伊藤 敦広	指定なし					

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園実習の意義は、幼稚園の教育・施設設備の特質やあり方、さらに保育内容について深く研究し、把握することにある。

また、幼児教育に関する理論・知識・技能を実践にうつす機会であり、子どもと生活を共にすることによって、子どもへの愛情、教育的熱意、教育の喜び、難しさなどを体得する重要な経験となるものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

準備学習

次の3点を求める。

- (1) 実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておくこと。
- (2) 実習で求められる教材研究を日々行い、実習に対する心構えを養っておくこと。
- (3) 日頃から幼児教育に関するニュース等に関心を寄せておくこと。

授業の概要及び授業計画

この実習では、見学実習・観察実習・参加実習を中心に行う。

(見学実習)

幼稚園について、どのようなところで、どのように子どもたちが生活しているかを概観する。

(観察実習)

年少・年中・年長組の子どもたちの生活はどのようになっているか、また、発達の違いについて気づく。一つのクラスに配属されることによって、一日の生活の流れや、個々の子どもの様子や、保育者の子どものかかわりについて客観的に観察する。

(参加実習)

見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていき段階。担当の保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や、保育者の役割について体験を通して学ぶ。

以上3点の実習を総合的に行い、実践力の涵養を図る。

授業計画表

成績評価法

実習園の評価や事後レポート等から総合的に評価する。

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。

内閣府・厚労省・文科省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年。

研究室（訪問先等）

青木：224研究室（出講日は火水木金）

村松：222研究室（出講日は前期 火水金、後期 月火水）

山本：228研究室（出講日は前期 月火、後期 月水金）

井上：229研究室（出講日は火水金）

伊藤：225研究室（出講日は前期 火水木、後期 火水）

直接研究室を訪ねてください

講義コード	519401501	
講義名	幼稚園実習II	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	90.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	伊藤 敦広	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園実習の意義は、幼稚園の教育・施設設備の特質やあり方、さらに保育内容について深く研究し、把握することにある。

また、幼児教育に関する理論・知識・技能を実践にうつす機会であり、子どもと生活を共にすることによって、子どもへの愛情、教育的熱意、教育の喜び、難しさなどを体得する重要な経験となるものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

※ 特に、幼稚園実習IIは幼児教育に関する学びの集大成としての意味があるため、幼児教育の現場においてしっかりと実践性を発揮することが求められるので、その覚悟を持って履修すること。

準備学習

以下の4点を求める。

- (1) 実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておくこと。
- (2) 実習で求められる保育教材の研究を日々行い、実習に対する心構えを養っておくこと。
- (3) 責任実習に備えて、指導案(日案・細案)の書き方およびそれに伴う教材研究の方法を復習しておくこと。
- (4) 日頃から幼児教育に関するニュース等に関心を寄せておくこと。

授業の概要及び授業計画

この実習では、参加実習・部分実習・責任実習を中心に行う。

(参加実習)

見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていき段階。担当の保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や、保育者の役割について体験を通して学ぶ。

(部分実習)

保育の一部分を実習生が担当する。最初は「紙芝居」や「呼名」など点的な保育から始まり、

徐々に長くなる。事前に保育の指導案を作成してから実行に移す必要がある。「計画」→「実践」→「反省」→「担当保育者による講評」→「再考察」→「次の保育へ」という流れで行う。

(責任実習)

保育を丸一日実習生が担当する。保育の指導案は登園から降園までを通した「日案」と、その日の主活動の案である「細案」を作成する。

原則として、部分実習・責任実習を実施しない者は単位を認めないので注意すること。

授業計画表

成績評価法

実習園の評価や指導案の内容、事後レポート等から総合的に評価する。

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。

内閣府・厚労省・文科省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年。

研究室（訪問先等）

青木：224研究室（出講日は火水木金）

花田：231研究室（出講日は前期 火水金、後期 月火水）

岸本：222研究室（出講日は前期 月火、後期 月水金）

井上：229研究室（出講日は火水金）

伊藤：225研究室（出講日は前期 火水木、後期 火水）

直接研究室を訪ねてください

づく模擬保育実施のために必要な教材等の準備を行う。

第6回：記録の意義と活用について

－子どもの学びの過程を捉える保育記録の書き方について学ぶ。

第7回：模擬保育の実施

－保育のPDCAサイクル、評価の方法、記録の意義について、実践を通して学ぶ。（第7回～第12回の授業の最初に、担当グループの指導計画に基づく模擬保育を行う。）

第8回：子どもの発達理解②0・1・2歳児の発達の特徴、生活、学びについて

－実際の0・1・2歳児の指導計画及び視聴覚教材を活用し、さまざまな保育の指導計画のデザインと実践を知るとともに、子どもの発達過程への理解を深める。

第9回：0・1・2歳児の個別指導計画の作成について

－子どもの実態に即した個別指導計画の作成の実際について学ぶ。

第10回：さまざまな保育の指導計画のデザインと実践①

－長時間・延長保育、保幼小の連携、食育の在り方などを実際の保育実践から学ぶ。

第11回：さまざまな保育の指導計画のデザインと実践②

－諸外国の就学前教育の多様な保育実践から学ぶ。

第12回：幼児教育を行う施設として共有すべき事項について

－子どもの育ちを支える保育の計画と「育みたい資質、能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性について学ぶ。

第13回：カリキュラム・マネジメントの意義について

－カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。

第14回：幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の改訂（改定）内容と社会的背景について

－改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解する。

第15回：保育の基本とこれからの展望

－子どもの主体性を尊重した保育について構想する。

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、レポート試験（20%）、授業中の課題・レポート・模擬保育（80%）とする。

教科書

『子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（すずき出版 2018）

参考書

『保育課程・教育課程総論』 柴崎正行・戸田雅美ほか（ミネルヴァ書房 2012）

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)』（フーベル館 2017）

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

児童育成協会『教育課程・保育課程論』（中央法規出版 2016）

『指導と評価に生かす記録』 文部科学省（チャイルド本社 2013）

『新版 遊びの指導 乳・幼児編』 幼少年教育研究所（同文書院 2011）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

月・水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401602	
講義名	教育・保育課程論 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	4 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき編成される教育課程や全体的な計画について、その意義や編成の方法を理解するとともに、子どもの実態に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。授業で配布するプリント等を熟読して、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

教育課程や全体的な計画の基本的な概念や意義、幼稚園や保育所及び認定こども園における教育課程や全体的な計画と指導計画の実際を知り、子どもの育ちを支える保育の計画の重要性について学ぶ。また、実習を意識し、子どもの実態を踏まえた保育目標・保育内容・保育の記録と計画の関係性を理解し、自ら指導計画の立案ができる能力を身につけると共に、計画の改善の意義と方法について学ぶ。

第1回：教育課程・全体的な計画について

－教育課程・全体的な計画の編成の目的、カリキュラム・マネジメントの意義、教育課程・全体的な計画と指導計画の関係性とその種類について学ぶ。

第2回：子どもの実態に即した指導計画について

－3・4・5歳児の6月の指導計画をもとに教材研究を行いながら、計画に基づく保育の展開をイメージする。

第3回：指導計画の作成上の留意事項について

－第2回での学びと指導計画の作成上の留意事項を踏まえながら、指導計画の具体的な書き方を学ぶ。

第4回：子どもの発達理解①3・4・5歳児の発達過程の特徴、生活、遊びについて

－実際の指導計画、保育記録、ドキュメンテーション等を活用し、さまざまな保育の指導計画のデザインと実践を知るとともに、子どもの発達過程への理解を深める。

第5回：3・4・5歳児の指導計画の作成について

－グループで、子どもの実態に即した指導計画（日案）を作成するとともに、その計画に基

づく模擬保育実施のために必要な教材等の準備を行う。

第6回：記録の意義と活用について

－子どもの学びの過程を捉える保育記録の書き方について学ぶ。

第7回：模擬保育の実施

－保育のPDCAサイクル、評価の方法、記録の意義について、実践を通して学ぶ。（第7回～第12回の授業の最初に、担当グループの指導計画に基づく模擬保育を行う。）

第8回：子どもの発達理解②0・1・2歳児の発達の特徴、生活、学びについて

－実際の0・1・2歳児の指導計画及び視聴覚教材を活用し、さまざまな保育の指導計画のデザインと実践を知るとともに、子どもの発達過程への理解を深める。

第9回：0・1・2歳児の個別指導計画の作成について

－子どもの実態に即した個別指導計画の作成の実際について学ぶ。

第10回：さまざまな保育の指導計画のデザインと実践①

－長時間・延長保育、保幼小の連携、食育の在り方などを実際の保育実践から学ぶ。

第11回：さまざまな保育の指導計画のデザインと実践②

－諸外国の就学前教育の多様な保育実践から学ぶ。

第12回：幼児教育を行う施設として共有すべき事項について

－子どもの育ちを支える保育の計画と「育みたい資質、能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性について学ぶ。

第13回：カリキュラム・マネジメントの意義について

－カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。

第14回：幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の改訂（改定）内容と社会的背景について

－改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解する。

第15回：保育の基本とこれからの展望

－子どもの主体性を尊重した保育について構想する。

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、レポート試験（20%）、授業中の課題・レポート・模擬保育（80%）とする。

教科書

『子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（すずき出版 2018）

参考書

『保育課程・教育課程総論』 柴崎正行・戸田雅美ほか（ミネルヴァ書房 2012）

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)』（フーベル館 2017）

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

児童育成協会『教育課程・保育課程論』（中央法規出版 2016）

『指導と評価に生かす記録』 文部科学省（チャイルド本社 2013）

『新版 遊びの指導 乳・幼児編』 幼少年教育研究所（同文書院 2011）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

月・水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401603	
講義名	教育・保育課程論 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	穴戸 良子	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき編成される教育課程や全体的な計画について、その意義や編成の方法を理解するとともに、子どもの実態に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を学ぶ。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。

準備学習

必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みして授業に臨む事。授業で配布するプリント等を熟読して、次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

教育課程や全体的な計画の基本的な概念や意義、幼稚園や保育所及び認定こども園における教育課程や全体的な計画と指導計画の実際を知り、子どもの育ちを支える保育の計画の重要性について学ぶ。また、実習を意識し、子どもの実態を踏まえた保育目標・保育内容・保育の記録と計画の関係性を理解し、自ら指導計画の立案ができる能力を身につけると共に、計画の改善の意義と方法について学ぶ。

第1回：教育課程・全体的な計画について

－教育課程・全体的な計画の編成の目的、カリキュラム・マネジメントの意義、教育課程・全体的な計画と指導計画の関係性とその種類について学ぶ。

第2回：子どもの実態に即した指導計画について

－3・4・5歳児の6月の指導計画をもとに教材研究を行いながら、計画に基づく保育の展開をイメージする。

第3回：指導計画の作成上の留意事項について

－第2回での学びと指導計画の作成上の留意事項を踏まえながら、指導計画の具体的な書き方を学ぶ。

第4回：子どもの発達理解①3・4・5歳児の発達過程の特徴、生活、遊びについて

－実際の指導計画、保育記録、ドキュメンテーション等を活用し、さまざまな保育の指導計画のデザインと実践を知るとともに、子どもの発達過程への理解を深める。

第5回：3・4・5歳児の指導計画の作成について

ーグループで、子どもの実態に即した指導計画（日案）を作成するとともに、その計画に基づく模擬保育実施のために必要な教材等の準備を行う。

第6回：記録の意義と活用について

ー子どもの学びの過程を捉える保育記録の書き方について学ぶ。

第7回：模擬保育の実施

ー保育のPDCAサイクル、評価の方法、記録の意義について、実践を通して学ぶ。（第7回～第12回の授業の最初に、担当グループの指導計画に基づく模擬保育を行う。）

第8回：子どもの発達理解②0・1・2歳児の発達の特徴、生活、学びについて

ー実際の0・1・2歳児の指導計画及び視聴覚教材を活用し、さまざまな保育の指導計画のデザインと実践を知るとともに、子どもの発達過程への理解を深める。

第9回：0・1・2歳児の個別指導計画の作成について

ー子どもの実態に即した個別指導計画の作成の実際について学ぶ。

第10回：さまざまな保育の指導計画のデザインと実践①

ー長時間・延長保育、保幼小の連携、食育の在り方などを実際の保育実践から学ぶ。

第11回：さまざまな保育の指導計画のデザインと実践②

ー諸外国の就学前教育の多様な保育実践から学ぶ。

第12回：幼児教育を行う施設として共有すべき事項について

ー子どもの育ちを支える保育の計画と「育みたい資質、能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性について学ぶ。

第13回：カリキュラム・マネジメントの意義について

ーカリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。

第14回：幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の改訂（改定）内容と社会的背景について

ー改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解する。

第15回：保育の基本とこれからの展望

ー子どもの主体性を尊重した保育について構想する。

定期試験は実施しない

授業計画表

成績評価法

成績評価の割合は、レポート試験（20%）、授業中の課題・レポート・模擬保育（80%）とする。

教科書

『子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー：いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価』 穴戸良子・三好伸子（すずき出版 2018）

参考書

『保育課程・教育課程総論』 柴崎正行・戸田雅美ほか（ミネルヴァ書房 2012）

『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)』（フーベル館 2017）

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

児童育成協会『教育課程・保育課程論』（中央法規出版 2016）

『指導と評価に生かす記録』 文部科学省（チャイルド本社 2013）

『新版 遊びの指導 乳・幼児編』 幼少年教育研究所（同文書院 2011）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階209研究室

月・水・木・金曜日が出講日です。直接研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

shishido@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401701
講義名	保育・教職実践演習(幼) AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科(短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業の目的は、以下の3点である。

- (1) 教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。
- (2) 幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。
- (3) 異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」(保育計画)を作成する力量を身につけること。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。

特に①②③を重視する。

準備学習

これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと ②実習を通して学んで来たこと ③社会への関心を深めてほしいこと の3つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。予習・復習にかかる時間は、それぞれおおむね2時間とする。

授業の概要及び授業計画

講義や演習、グループワーク、討議等を取り入れ、実践的な授業を展開する。

第1回：ガイダンス(保育・教職実践演習とは、どんな授業か)

第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り

第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと

第4回：幼児の発達と保育者の援助

第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり

第6回：日本人の生命観と他界観

第7回：古典文学と昔ばなし

- 第8回：日本人の生活と年中行事
 - 第9回：地域文化と昔あそび—指導法の体験活動
 - 第10回：社会へのまなざしと保育の課題
 - 第11回：歴史的観点から見直す現代の保育
 - 第12回：現代社会と保育者養成
 - 第13回：卒業後の成長をイメージしよう。
 - 第14回：保育者としての残された課題
 - 第15回：グループ発表によるまとめ
- 期末試験

授業計画表

成績評価法

期末レポートを中心にして、グループワークへの参加状況や発表の成果等も授業中の課題等に
加味して評価する。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%
とする。

教科書

指定しない。授業内でプリントを適宜配布する。

学生へのメッセージ

保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合っていくみなさん
にとって、総仕上げの授業です。2年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。

研究室（訪問先等）

西田：212研究室 岸本：222研究室
月・火・水・木 が出講日です。研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401702
講義名	保育・教職実践演習(幼) CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科(短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業の目的は、以下の3点である。

- (1) 教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。
- (2) 幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。
- (3) 異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」(保育計画)を作成する力量を身につけること。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。

特に①②③を重視する。

準備学習

これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと ②実習を通して学んで来たこと ③社会への関心を深めてほしいこと の3つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと。予習・復習にかかる時間は、それぞれおおむね2時間とする。

授業の概要及び授業計画

講義や演習、グループワーク、討議等を取り入れ、実践的な授業を展開する。

第1回：ガイダンス(保育・教職実践演習とは、どんな授業か)

第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り

第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと

第4回：幼児の発達と保育者の援助

第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり

第6回：日本人の生命観と他界観

第7回：古典文学と昔ばなし

- 第8回：日本人の生活と年中行事
 - 第9回：地域文化と昔あそび—指導法の体験活動
 - 第10回：社会へのまなざしと保育の課題
 - 第11回：歴史的観点から見直す現代の保育
 - 第12回：現代社会と保育者養成
 - 第13回：卒業後の成長をイメージしよう。
 - 第14回：保育者としての残された課題
 - 第15回：グループ発表によるまとめ
- 期末試験

授業計画表

成績評価法

期末レポートを中心にして、グループワークへの参加状況や発表の成果等も授業中の課題等に
加味して評価する。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%
とする。

教科書

指定しない。授業内でプリントを適宜配布する。

学生へのメッセージ

保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合っていくみなさん
にとって、総仕上げの授業です。2年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。

研究室（訪問先等）

西田：212研究室 岸本：222研究室
月・火・水・木 が出講日です。研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401703
講義名	保育・教職実践演習(幼) EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科(短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	西田 直樹	指定なし
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業の目的は、以下の3点である。

- (1) 教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。
- (2) 幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。
- (3) 異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」(保育計画)を作成する力量を身につけること。

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性 が該当する。

特に①②③を重視する。

準備学習

これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと ②実習を通して学んで来たこと ③社会への関心を深めてほしいこと の3つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。予習・復習にかかる時間は、それぞれおおむね2時間とする。

授業の概要及び授業計画

講義や演習、グループワーク、討議等を取り入れ、実践的な授業を展開する。

第1回：ガイダンス(保育・教職実践演習とは、どんな授業か)

第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り

第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと

第4回：幼児の発達と保育者の援助

第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり

第6回：日本人の生命観と他界観

第7回：古典文学と昔ばなし

- 第8回：日本人の生活と年中行事
 - 第9回：地域文化と昔あそび—指導法の体験活動
 - 第10回：社会へのまなざしと保育の課題
 - 第11回：歴史的観点から見直す現代の保育
 - 第12回：現代社会と保育者養成
 - 第13回：卒業後の成長をイメージしよう。
 - 第14回：保育者としての残された課題
 - 第15回：グループ発表によるまとめ
- 期末試験

授業計画表

成績評価法

期末レポートを中心にして、グループワークへの参加状況や発表の成果等も授業中の課題等に
加味して評価する。

成績評価の割合は、準備学習（予習・復習）10%、授業中の課題等20%、期末試験70%
とする。

教科書

指定しない。授業内でプリントを適宜配布する。

学生へのメッセージ

保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合っていくみなさん
にとって、総仕上げの授業です。2年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。

研究室（訪問先等）

西田：212研究室 岸本：222研究室
月・火・水・木 が出講日です。研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401801
講義名	幼児音楽I AB
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育園や幼稚園において、子どもの歌の歌唱を中心とする音楽活動は日常的に行われ、園児の生活に欠かせないものとなっています。本授業では、幼児教育の現場において必要な音楽の知識・技能の多面的な習得を目指します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

実際の幼稚園・保育園の日常的な音楽活動に倣った「月の歌」の歌唱、手遊びや音楽遊びなどの演習が中心となります。また、楽典の知識も習得し、楽譜への理解を深めます。

〔授業計画〕

- 第1回：オリエンテーション/保育者に求められる音楽技能
- 第2回：4月の歌/子どもの身体表現/楽典①音名と繰り返し記号
- 第3回：4月の歌/童謡の振り付け/楽典②調性と調号
- 第4回：4月の歌/手遊びと遊び歌/楽典③コード (メジャー・マイナー)
- 第5回：5月の歌/乳児クラスの音楽遊び①/楽典④コード (セブンス)
- 第6回：5月の歌/乳児クラスの音楽遊び②/楽典⑤音楽記号
- 第7回：5月の歌/3歳クラスの音楽遊び
- 第8回：6月の歌/4歳クラスの音楽遊び
- 第9回：6月の歌/5歳クラスの音楽遊び
- 第10回：6月の歌/音楽遊びを創る
- 第11回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法①指導計画と導入
- 第12回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法②実践と問題点
- 第13回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法③指導案作成
- 第14回：8月の歌/簡易伴奏の方法と実践
- 第15回：8月の歌/幼児音楽とメディア/楽典のまとめ

定期試験

授業計画表**成績評価法**

テスト・学習態度等で総合的に評価します。

教科書

「幼児の歌100曲」在原章子他著（全音楽譜出版社）

研究室（訪問先等）

中央研究棟2F 227研究室

第二体育館1F 音楽準備室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号**授業用E-mail**

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401802
講義名	幼児音楽I CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育園や幼稚園において、子どもの歌の歌唱を中心とする音楽活動は日常的に行われ、園児の生活に欠かせないものとなっています。本授業では、幼児教育の現場において必要な音楽の知識・技能の多面的な習得を目指します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

実際の幼稚園・保育園の日常的な音楽活動に倣った「月の歌」の歌唱、手遊びや音楽遊びなどの演習が中心となります。また、楽典の知識も習得し、楽譜への理解を深めます。

〔授業計画〕

- 第1回：オリエンテーション/保育者に求められる音楽技能
- 第2回：4月の歌/子どもの身体表現/楽典①音名と繰り返し記号
- 第3回：4月の歌/童謡の振り付け/楽典②調性と調号
- 第4回：4月の歌/手遊びと遊び歌/楽典③コード (メジャー・マイナー)
- 第5回：5月の歌/乳児クラスの音楽遊び①/楽典④コード (セブンス)
- 第6回：5月の歌/乳児クラスの音楽遊び②/楽典⑤音楽記号
- 第7回：5月の歌/3歳クラスの音楽遊び
- 第8回：6月の歌/4歳クラスの音楽遊び
- 第9回：6月の歌/5歳クラスの音楽遊び
- 第10回：6月の歌/音楽遊びを創る
- 第11回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法①指導計画と導入
- 第12回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法②実践と問題点
- 第13回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法③指導案作成
- 第14回：8月の歌/簡易伴奏の方法と実践
- 第15回：8月の歌/幼児音楽とメディア/楽典のまとめ

定期試験

授業計画表
成績評価法
テスト・学習態度等で総合的に評価します。
教科書
「幼児の歌100曲」在原章子他著（全音楽譜出版社）
研究室（訪問先等）
中央研究棟2F 227研究室 第二体育館1F 音楽準備室 水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号
授業用E-mail
nagasawa@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401803
講義名	幼児音楽I EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教職に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

保育園や幼稚園において、子どもの歌の歌唱を中心とする音楽活動は日常的に行われ、園児の生活に欠かせないものとなっています。本授業では、幼児教育の現場において必要な音楽の知識・技能の多面的な習得を目指します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

実際の幼稚園・保育園の日常的な音楽活動に倣った「月の歌」の歌唱、手遊びや音楽遊びなどの演習が中心となります。また、楽典の知識も習得し、楽譜への理解を深めます。

〔授業計画〕

- 第1回：オリエンテーション/保育者に求められる音楽技能
- 第2回：4月の歌/子どもの身体表現/楽典①音名と繰り返し記号
- 第3回：4月の歌/童謡の振り付け/楽典②調性と調号
- 第4回：4月の歌/手遊びと遊び歌/楽典③コード (メジャー・マイナー)
- 第5回：5月の歌/乳児クラスの音楽遊び①/楽典④コード (セブンス)
- 第6回：5月の歌/乳児クラスの音楽遊び②/楽典⑤音楽記号
- 第7回：5月の歌/3歳クラスの音楽遊び
- 第8回：6月の歌/4歳クラスの音楽遊び
- 第9回：6月の歌/5歳クラスの音楽遊び
- 第10回：6月の歌/音楽遊びを創る
- 第11回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法①指導計画と導入
- 第12回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法②実践と問題点
- 第13回：7月の歌/鍵盤ハーモニカ指導法③指導案作成
- 第14回：8月の歌/簡易伴奏の方法と実践
- 第15回：8月の歌/幼児音楽とメディア/楽典のまとめ

定期試験

授業計画表
成績評価法
テスト・学習態度等で総合的に評価します。
教科書
「幼児の歌100曲」在原章子他著（全音楽譜出版社）
研究室（訪問先等）
中央研究棟2F 227研究室 第二体育館1F 音楽準備室 水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号
授業用E-mail
nagasawa@sakushin-u.ac.jp

テスト・学習態度等で総合的に評価する

教科書

参考書

必要に応じて紹介

研究室（訪問先等）

中央研究棟2F 227研究室
第二体育館1F 音楽準備室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

テスト・学習態度等で総合的に評価する

参考書

必要に応じて紹介

研究室（訪問先等）

中央研究棟2F 227研究室
第二体育館1F 音楽準備室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519401903	
講義名	幼児音楽II EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	金曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	長澤 順	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

幼児音楽IIに引き続き、子どもの歌や手遊び、音楽遊びのレパートリーを広げます。また、保育園や幼稚園で担任を持った際に必ず行う歌唱指導法、幼児用楽器の演奏法や指導法・合奏についての知識・技能を習得します。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当します。

準備学習

授業の最初に歌う「月の歌」の伴奏を持ち回りで行います。担当者は事前に曲目を打合せ、該当曲目を練習して授業に臨んでください。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませてください。

授業の概要及び授業計画

- 第1回：オリエンテーション/音楽的視点から見た子どもの発達
- 第2回：9月の歌/リズム遊びとリトミック/楽典①和音の転回
- 第3回：9月の歌/リトミック指導法/楽典②主要三和音
- 第4回：9月の歌/指遊び・手遊び・数え歌
- 第5回：10月の歌/身体表現指導
- 第6回：10月の歌/月の歌の設定①年齢に応じた曲選び
- 第7回：10月の歌/月の歌の設定②年間計画の作成
- 第8回：11月の歌/子どもの打楽器①種類と奏法
- 第9回：11月の歌/子どもの打楽器②管理と指導法
- 第10回：11月の歌/合奏指導法①指導計画
- 第11回：12月の歌/合奏指導法②実践演習
- 第12回：12月の歌/合奏演習①
- 第13回：12月の歌/合奏演習②
- 第14回：1～3月の歌/合奏演習③
- 第15回：1～3月の歌/幼児音楽のまとめ/合奏発表会

定期試験

授業計画表

成績評価法

テスト・学習態度等で総合的に評価する

参考書

必要に応じて紹介

研究室（訪問先等）

中央研究棟2F 227研究室
第二体育館1F 音楽準備室

水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

授業用E-mail

nagasawa@sakushin-u.ac.jp

講義コード	519901301	
講義名	保育原理 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、以下の3点について学ぶ。

- (1) 保育の意義を理解し、現代における保育の課題を考察できるようになること。
- (2) 保育の基本を理解し、適切な方法や内容を構想できるようになること。
- (3) 保育の思想及び歴史を理解し、自らの保育を考える手だてとすること。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

乳幼児に関わる新聞記事やニュース、書籍等にできるだけ多く触れて欲しい。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組んでほしい。

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

全15回の授業を通して、「保育とは何か」という問題を多角的に考察する。

第1回：イントロダクション——「保育原理」の趣旨、授業内容等の説明

第2回：「保育」とは何か——「保育」の定義と意味、ガイドライン上の位置づけ

第3回：保育を支える「子ども観」の概観

第4回：保育を支える「子ども観」と「保育のねらい」

第5回：幼児教育・保育の計画と実践——指導案構想の基礎

第6回：中間まとめ——「保育のねらい」・「保育方法」・「乳幼児理解」の関係

第7回：保育制度の過去・現在・未来①——保育制度の変遷

第8回：保育制度の過去・現在・未来②——現代における様々な保育の場

第9回：保育制度の過去・現在・未来③——社会の変化と保育政策の動向

第10回：幼児教育・保育の思想と歴史の基本①——なぜ保育者は「歴史」を学ばなければならないのか

第11回：幼児教育・保育の思想と歴史の基本②——わが国の保育施設の始まり

第12回：保護者の「子育て」の悩みにどう応えるか——「子育て支援」という考え方について

第13回：保育を支える物的・人的・社会的環境および保育内容・方法の基本原理

第14回：現代の保育者の専門性と自己評価・成長について

第15回：まとめ——あらためて「保育」とは何か

期末試験

授業計画表

成績評価法

随時記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、中間レポート及び期末試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

教科書

佐藤康富編著『新しい保育原理』大学図書出版、2016年。

参考書

森上史朗・小林紀子・若月芳浩(編)『保育原理 [第3版] 』(最新保育講座1)、ミネルヴァ書房、2015年。

厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2008年。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	519901302
講義名	保育原理 CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科 (短大)
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、以下の3点について学ぶ。

- (1) 保育の意義を理解し、現代における保育の課題を考察できるようになること。
- (2) 保育の基本を理解し、適切な方法や内容を構想できるようになること。
- (3) 保育の思想及び歴史を理解し、自らの保育を考える手だてとすること。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

乳幼児に関わる新聞記事やニュース、書籍等にできるだけ多く触れて欲しい。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組んでほしい。

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

全15回の授業を通して、「保育とは何か」という問題を多角的に考察する。

第1回：イントロダクション——「保育原理」の趣旨、授業内容等の説明

第2回：「保育」とは何か——「保育」の定義と意味、ガイドライン上の位置づけ

第3回：保育を支える「子ども観」の概観

第4回：保育を支える「子ども観」と「保育のねらい」

第5回：幼児教育・保育の計画と実践——指導案構想の基礎

第6回：中間まとめ——「保育のねらい」・「保育方法」・「乳幼児理解」の関係

第7回：保育制度の過去・現在・未来①——保育制度の変遷

第8回：保育制度の過去・現在・未来②——現代における様々な保育の場

第9回：保育制度の過去・現在・未来③——社会の変化と保育政策の動向

第10回：幼児教育・保育の思想と歴史の基本①——なぜ保育者は「歴史」を学ばなければならないのか

第11回：幼児教育・保育の思想と歴史の基本②——わが国の保育施設の始まり

第12回：保護者の「子育て」の悩みにどう応えるか——「子育て支援」という考え方について

第13回：保育を支える物的・人的・社会的環境および保育内容・方法の基本原理

第14回：現代の保育者の専門性と自己評価・成長について

第15回：まとめ——あらためて「保育」とは何か

期末試験

授業計画表

成績評価法

随時記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、中間レポート及び期末試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

教科書

佐藤康富編著『新しい保育原理』大学図書出版、2016年。

参考書

森上史朗・小林紀子・若月芳浩(編)『保育原理 [第3版] 』(最新保育講座1)、ミネルヴァ書房、2015年。

厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2008年。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。

講義コード	519901303	
講義名	保育原理 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	山本 詩織	指定なし

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、以下の3点について学ぶ。

- (1) 保育の意義を理解し、現代における保育の課題を考察できるようになること。
- (2) 保育の基本を理解し、適切な方法や内容を構想できるようになること。
- (3) 保育の思想及び歴史を理解し、自らの保育を考える手だてとすること。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

準備学習

乳幼児に関わる新聞記事やニュース、書籍等にできるだけ多く触れて欲しい。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組んでほしい。

必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

授業の概要及び授業計画

全15回の授業を通して、「保育とは何か」という問題を多角的に考察する。

第1回：イントロダクション——「保育原理」の趣旨、授業内容等の説明

第2回：「保育」とは何か——「保育」の定義と意味、ガイドライン上の位置づけ

第3回：保育を支える「子ども観」の概観

第4回：保育を支える「子ども観」と「保育のねらい」

第5回：幼児教育・保育の計画と実践——指導案構想の基礎

第6回：中間まとめ——「保育のねらい」・「保育方法」・「乳幼児理解」の関係

第7回：保育制度の過去・現在・未来①——保育制度の変遷

第8回：保育制度の過去・現在・未来②——現代における様々な保育の場

第9回：保育制度の過去・現在・未来③——社会の変化と保育政策の動向

第10回：幼児教育・保育の思想と歴史の基本①——なぜ保育者は「歴史」を学ばなければならないのか

第11回：幼児教育・保育の思想と歴史の基本②——わが国の保育施設の始まり

第12回：保護者の「子育て」の悩みにどう応えるか——「子育て支援」という考え方について

第13回：保育を支える物的・人的・社会的環境および保育内容・方法の基本原理

第14回：現代の保育者の専門性と自己評価・成長について

第15回：まとめ——あらためて「保育」とは何か

期末試験

授業計画表

成績評価法

随時記入してもらう授業へのコメントおよび質問の内容と、中間レポート及び期末試験の結果とをあわせて総合的に評価する。

教科書

佐藤康富編著『新しい保育原理』大学図書出版、2016年。

参考書

森上史朗・小林紀子・若月芳浩(編)『保育原理 [第3版] 』(最新保育講座1)、ミネルヴァ書房、2015年。

厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2008年。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 222研究室

出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。